釧路労災病院
2016年　年報

やちぼうず　第21号

目 次

Ⅰ．事業報告……3
- ⑴ 巻頭言……5
- ⑵ 理念・方針・患者さんの権利、責務……6
- ⑶ 病院概要……7
- ⑷ 医療機関の承認・指定状況……8

Ⅱ．診療科及び部門報告……13
- ⑴ **診療部門**
  - 内　　科……15
  - 精 神 科……18
  - 神 経 内 科……19
  - 循 環 器 内 科……20
  - 外　　科……21
  - 整 形 外 科……23
  - 形 成 外 科……26
  - 脳 神 経 外 科……29
  - 泌 尿 器 科……31
  - 眼　　科……33
  - 耳 鼻 咽 喉 科……34
  - 放 射 線 科……36
  - 麻 酔 科……38
  - 歯科口腔外科……39
  - 健 康 診 断 部……41
  - 中央検査科・病理診断科……42
  - 栄 養 管 理 部……43
- ⑵ **中央診療部門**
  - 中央リハビリテーション部……44
  - 中央放射線部……46
  - 中 央 検 査 部……47
- ⑶ **診療支援部**
  - 臨 床 工 学 部……49
- ⑷ **薬 剤 部**……52
- ⑸ **看 護 部**……54

Ⅲ．委員会報告……57
- ⑴ 委員会一覧……61
- ⑵ 委員会活動報告
  - 倫理委員会……62
  - 地域医療支援運営委員会……63
  - 院内研修委員会……66
  - 院内感染対策委員会……67
  - 化学療法委員会……68
  - 臨床研修管理委員会……69
  - 医師研修プログラム委員会……70
  - 薬事／臨床研究審査委員会……72
  - DPC／クリニカルパス委員会……75
  - 地域医療連携総合センター運営委員会……77
  - HIV運営委員会……78
  - 診療医事業務／査定減対策委員会……79
  - 診療情報／個人情報管理委員会……80
  - 医療安全推進委員会……82
  - 医療情報シムテム委員会……84
  - 機器等整備委員会……86
  - 救急診療運営委員会……87
  - 緩和医療委員会……88
  - 臓器提供委員会……91
  - 禁煙実行委員会……92
  - がん診療連携拠点病院運営委員会……93
  - 診療材料等検討委員会……95
  - 血液浄化室安全管理委員会……96
  - 在宅医療運営委員会……97
  - 公舎管理委員会……98
  - 栄養管理／NST委員会……99
  - 図書委員会……101
  - 省エネルギー推進委員会……103
  - 防災委員会……104
  - 手術部運営委員会……105
  - 輸血療法委員会……106
  - 医療ガス安全管理委員会……107
  - 褥瘡対策委員会……108
  - 放射線部安全運営委員会……110
  - 中央検査部管理運営委員会……111
  - 健診業務体制整備委員会……113
  - 保育委員会……114
  - 広報編集委員会……115
  - 病院誌「やちぼうず」編集委員会……116
  - 衛生委員会……117
  - 患者サービス向上委員会……119

• 病院機能評価委員会…… 121
• ドクターズクラーク運営委員会…… 122
• 勤務医／看護職員負担軽減対策委員会‥ 123

Ⅳ．医療統計…… 125
患者数の推移（入院・外来）…… 127
診療科別入院患者数の推移…… 128
診療科別外来患者数（平成28年度）…… 129
診療科別入院単価の推移…… 130
診療科別外来単価の推移…… 130
紹介率・逆紹介率の推移…… 131
病床利用率の推移…… 131
平均在院日数の推移…… 132
時間外取扱患者数　総数と１日平均の推移‥‥ 133
救急車受入件数（総数と１日平均）…… 134
手術件数の推移（手術室内）…… 134
全身麻酔件数の推移…… 135
化学療法件数の推移（入院・外来）…… 135
透析件数の推移（入院・外来）…… 136
内視鏡件数の推移（上部・下部）…… 136
放射線治療件数の推移…… 137
解剖件数の推移…… 137
2016年度後発医薬品指数…… 138
ＤＰＣ14桁　診断群分類上位頻度表（全科共通）‥ 138
ＤＰＣ　ＭＤＣ６桁　診療科別上位頻度表 ‥‥ 139
Ｋｃｏｄｅ　診療科別上位頻度表…… 142

Ⅴ．講演会等活動実績報告…… 145
学術講演会…… 147
学術研究会 …… 149

Ⅵ．業績目録…… 153
原著・論文…… 155
学会報告…… 157

Ⅰ．事業報告

(1)　巻頭言……5
(2)　理念・方針・患者さんの権利、責務……6
(3)　病院概要……7
(4)　医療機関の承認・指定状況……8

巻頭言

独立行政法人　労働者健康安全機構
釧路労災病院　院長
野々村　克　也

昨年は英国のEU離脱国民投票、米国のトランプ大統領誕生で揺れた世界も、今年になってからは仏蘭西のマクロン大統領誕生やISのモスル陥落など風向きが少し変わってきたように感じます。ISに関しては私が釧路に赴任してきた2014年６月に独立宣言しましたので、実に３年振りに奪還されました。国内に目を向けますと、東芝、タカタなどの大企業の経営破たん、安倍自民党のスキャンダル・暴言失言と都議選大敗などがあり、日本全体に不安定な流れを生じさせています。これらの事象はいずれもこの肥大化した複雑な社会にあって適切な指導力を発揮することの難しさを物語っているものと推察しております。

医療の分野に目を向けますと、地域の現状を度外視し凌駕しようとする地域医療構想、見切り発車的な専門医制度新整備、IT活用・遠隔医療を含めた業務改革等々による医療費抑制政策（経済財政諮問会議の云う財政健全化）を目の前に我々公的病院、医師会、医育機関が右往左往している状態と思われます。ここにも様々な障害・矛盾を包括的にAufhebenする指導力が求められております。

当院にあってはここ３年で地域医療連携総合センターに始まり、化学療法センター・血液浄化センターを設立し、２階の検査室・採血室を中心とする再開発を推し進めているところであります。これらは今後10年釧根地区の高齢者の医療ニーズに答える施策と位置付けております。しかしながら、この地区の医師不足は深刻であり、当院も例外ではありません。当直・救急対応など一人ひとりの医師のoverworkに対して感謝申し上げると共に、申し訳なく思っております。今後も大学などの協力を得て、医師確保に努めて行きたいと思います。病院業務としてはリハビリテーション科のスタッフ増員、医師事務作業補助者の増員などで作業の効率化が図られ、各種委員会の整備・見直しを行うことで、ガバナンスが強化されてきているものと理解しております。今後も各セクションにおいては本冊子の上梓を契機に１年を振り返り、更なる高みを目指して努力していくことを期待致します。また、他部局の実績を知ることで部局間の連携がより一層強化されていくことも大切であると考えております。

最近、釧路市の花が金蓮花（nasturtium）であることを知りました。この花はペルーやブラジルの高地が原産で、暑さに弱く寒さにも弱いそうですが、なぜか花言葉は「困難に打ち勝つ」だそうです。当院を取り巻く環境には厳しいものがありますが、あらゆる困難を乗り越え、地域住民に良質の医療を提供していかなければなりません。本冊子を通じて皆さんのご意見・アイデアを頂き、皆でどのような医療を展開していくかを再確認することで指導力を高めていきたいと思います。結果として、職員580余名が一体感をもって邁進することで、様々な逆風に打ち勝つ強い病院として突き進むことが可能となると思っております。職員皆さんのご協力・ご活躍を期待し、巻頭の辞と致します。また、本冊子をご笑覧頂きます関係各位には、これからもより一層のご指導・ご鞭撻をお願い致します。

2017年７月12日
（院長室にて）

理念・方針・患者さんの権利、責務

理　念

・最新の知識と技術に基づき、良質で信頼される医療を実践します。

基本方針

1．安全で質の高い医療を実践します。
2．患者さんの権利を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を実践します。
3．透明性の高い医療を実践します。
4．地域住民と勤労者の健康づくりのために、予防医療を実践します。

臨床倫理方針

1．患者さんの人権を守ります。
2．患者さんの自己決定権を尊重します。
3．生命倫理に関する法律及びガイドラインを遵守して診療を行います。
4．患者さんの信条や生命の尊厳に関する問題については審議を行い、治療方針を決定します。

患者さんの権利

- 患者さんは、人格を尊重した良質な医療を公平に受ける権利があります。
- 患者さんは、診療上の個人のプライバシーを守られる権利があります。
- 患者さんは、自らの診療記録の開示を求め、情報を得る権利があります。
- 患者さんは、自らの意思で医療に同意・選択・決定する権利があります。
- 患者さんは、診断や治療などについて、他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利があります。

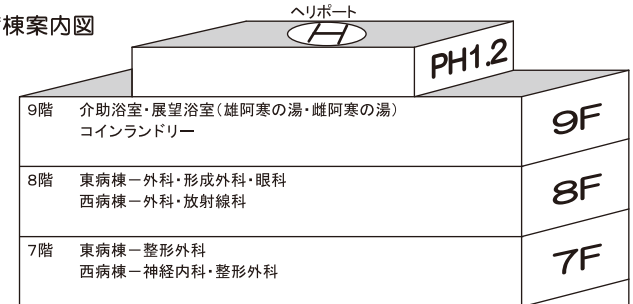
患者さんの責務

- 患者さんには、自身に関する正確な情報の提供をお願いします。
- 院内の取り決めを守り、他の患者さんの療養生活や病院職員の医療提供に支障を与えないようお願いします。

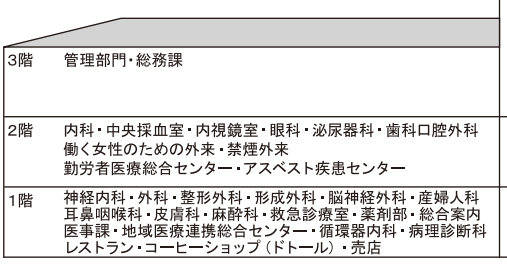
病院概要（2017年4月1日現在）

開設者	独立行政法人　労働者健康安全機構 理事長　有　賀　　徹
管理者	院　長　野々村　克　也
所在地	郵便番号　085-8533 住　　所　北海道釧路市中園町13-23 電話番号　0154-22-7191㈹
病床数	450床
手術室	10室
標榜診療科 （21診療科）	内科／消化器内科／循環器内科／神経内科／外科／脳神経外科／整形外科／形成外科／ 精神科／小児科／皮膚科／泌尿器科／婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／リハビリテーション科／ 放射線科／病理診断科／麻酔科／歯科／歯科口腔外科
院内標榜科	腫瘍内科／血液内科／乳腺外科
専門センター等	勤労者医療総合センター／アスベスト疾患センター／消化器病センター／ 勤労者リハビリテーションセンター／勤労者メンタルヘルスセンター／ 脊椎外科センター／関節鏡・人工関節センター／脳・脊髄外科センター／ 末梢神経外科センター／化学療法センター／血液浄化センター／ 地域医療連携総合センター
特殊外来	働く女性のための外来／助産師外来／禁煙外来／緩和ケア外来／ストーマケア外来 睡眠時無呼吸外来／フットケア外来／セカンド・オピニオン外来／リンパ浮腫外来
主な特色	（1）地域医療支援病院 （2）地域がん診療連携拠点病院 （3）エイズ治療中核拠点病院 （4）日本医療機能評価認定施設（一般病院2　3rdG：Ver.1.1）
その他の施設	釧路労災看護専門学校
敷地面積	39,684.57㎡
建物延面積	42,156.44㎡　　地上9階　屋上ヘリポート有　　（2017. 4. 1　現在）

病棟案内図



外来棟案内図



医療機関の承認・指定状況

1．病院開設承認等

区分
独立行政法人　労働者健康安全機構　釧路労災病院
承認年月日
昭和35年１月22日

2．法令による医療機関の指定等

法令等の名称
保険医療機関 （健康保険法、国民健康保険法、労災保険法）
生活保護法指定医療機関
身体障害者福祉法指定医療機関
法令等の名称
母子保護法指定医療機関
結核予防法指定医療機関
原子爆弾被爆者に係る指定医療機関

3．政策医療等の対応状況

区分
厚生労働省指定臨床研修病院（医科・歯科）
釧路圏二次救急医療機関
日本医療機能評価機構認定
地域がん診療連携拠点指定病院
区分
臓器提供施設
エイズ治療中核拠点指定病院
地域医療支援承認病院
メディネットたんちょうネットワーク加盟施設

4．学会認定施設等の対応状況

区分
日本内科学会認定医制度教育関連病院
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練場所
日本病理学会研修認定施設（認定施設Ｂ）
日本神経学会専門医制度教育関連施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本形成外科学会認定施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本消化器病学会認定施設
日本乳癌学会認定施設
日本臨床細胞学会認定施設
日本静脈経腸栄養学会 NST専門療法士認定教育施設
日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本口腔外科学会専門医制度准研修施設
日本肝臓学会関連施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本血液学会血液研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
乳房再建用エキスパンダー実施施設
乳房再建用インプラント実施施設
日本核医学専門医教育病院
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設
日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設

医科・歯科点数表

基本診療料　　平成29年3月31日現在

	承　認　事　項	項承認年月日
1	入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）	昭和58年６月１日
2	臨床研修病院入院診療加算（基幹型）	平成19年４月１日
3	医療安全対策加算	平成20年４月１日
4	歯科外来診療環境体制加算	平成20年６月１日
5	がん診療連携拠点病院加算	平成21年４月１日
6	救急医療管理加算	平成22年４月１日
7	地域歯科診療支援病院歯科初診料	平成22年４月１日
8	栄養サポートチーム加算	平成23年４月１日
9	患者サポート体制充実加算	平成24年４月１日
10	データ提出加算	平成24年10月１日
11	無菌治療室管理加算１	平成25年４月１日

	承　認　事　項	項承認年月日
12	一般病棟入院基本料	平成27年１月１日
13	褥瘡ハイリスク患者ケア加算	平成27年４月１日
14	感染防止対策加算	平成27年４月１日
15	療養環境加算	平成27年７月１日
16	診療録管理体制加算１	平成27年９月１日
17	医師事務作業補助体制加算２（25対１補助体制加算）	平成28年４月１日
18	歯科診療特別対応連携加算	平成28年４月１日
19	地域歯科診療支援病院入院加算	平成28年４月１日
20	25対１急性期看護補助体制加算	平成28年９月１日
21	10対１一般病棟入院基本料（看護必要度加算）	平成28年９月１日
22	重症者等療養環境特別加算	平成28年９月１日

特掲診療料　　平成29年3月31日現在

	承　認　事　項	承認年月日
1	補綴物維持管理料（現：クラウン・ブリッジ維持管理料）	平成８年12月１日
2	血液細胞核酸増幅同定検査（現：造血器腫瘍遺伝子検査）	平成12年４月１日
3	高エネルギー放射線療法	平成14年４月１日
4	放射線治療専任加算	平成15年４月１日
5	直線加速器による定位放射線治療	平成16年４月１日
6	歯科治療総合医療管理料（Ⅰ）及び（Ⅱ）	平成18年９月１日
7	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術	平成18年10月１日
8	医療機器安全管理料１	平成20年４月１日
9	医療機器安全管理料２	平成20年４月１日
10	外来化学療法加算１	平成20年４月１日
11	無菌製剤処理料	平成20年４月１日

	承　認　事　項	承認年月日
12	集団コミュニケーション療法料	平成20年４月１日
13	外来放射線治療加算	平成20年４月１日
14	医科点数表第２章第10部手術の通則５（歯科点数表第２章第９部の通則４を含む。）及び６に掲げる手術	平成20年４月１日
15	歯周組織再生誘導手術	平成20年６月１日
16	糖尿病合併症管理料	平成20年10月１日
17	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	平成21年12月１日
18	大動脈バルーンパンピング法（ＩＡＢＰ法）	平成21年12月１日
19	医療機器安全管理料（歯科）	平成22年２月１日
20	検体検査管理加算Ⅳ	平成22年４月１日
21	乳がんセンチネルリンパ節加算１及び２	平成22年４月１日
22	がん患者カウンセリング料	平成22年４月１日

	承　認　事　項	承認年月日
23	肝炎インターフェロン治療計画料	平成22年４月１日
24	センチネルリンパ節 生検併用及び単独	平成22年４月１日
25	透析液水質確保加算Ⅰ	平成22年４月１日
26	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年４月１日
27	薬剤管理指導料	平成22年４月１日
28	膀胱水圧拡張術	平成22年４月１日
29	輸血管理料Ⅱ	平成22年11月１日
30	がん治療連携計画策定料	平成23年11月１日
31	脊髄刺激装置埋込術及び 脊髄刺激装置交換術	平成24年１月１日
32	退院支援加算	平成24年４月１日
33	夜間休日救急搬送医学管理料	平成24年４月１日
34	外来リハビリテーション診療料	平成24年４月１日
35	がん治療連携管理料	平成24年４月１日
36	在宅患者訪問看護・指導料	平成24年４月１日
37	同一建物居住者訪問看護・指導料	平成24年４月１日
38	時間内歩行試験	平成24年４月１日
39	ヘッドアップティルド試験	平成24年４月１日
40	ＣＴ撮影（16列以上64列未満の マルチスライスＣＴ）	平成24年４月１日
41	ＭＲＩ撮影 （1.5テスラ以上３テスラ未満）	平成24年４月１日
42	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成24年４月１日
43	輸血適正使用加算	平成24年４月１日
44	人工肛門・人口膀胱増設術前処 理加算	平成24年４月１日
45	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	平成24年４月１日
46	院内トリアージ実施料	平成24年５月１日
47	画像誘導放射線治療（ＩＧＲＴ）	平成24年10月１日
48	開放型病院共同指導料	平成24年11月１日

	承　認　事　項	承認年月日
49	画像診断管理加算１	平成25年４月１日
50	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	平成25年６月１日
51	脳血管疾患等リハビリテーション料 （Ⅰ）	平成26年４月１日
52	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	平成26年４月１日
53	糖尿病透析予防指導管理料	平成26年４月１日
54	持続血糖測定器加算	平成26年４月１日
55	１回線量増加加算	平成26年４月１日
56	歯科口腔リハビリテーション料２	平成26年４月１日
57	外来放射線照射診療料	平成27年３月１日
58	麻酔管理料Ⅰ	平成27年４月１日
59	胃瘻造設時嚥下機能評価加算	平成27年４月１日
60	がん患者指導管理料３	平成27年４月１日
61	がん患者指導管理料１	平成28年９月１日
62	がん患者指導管理料２	平成28年９月１日
63	がん患者リハビリテーション料（Ⅰ）	平成28年９月１日
64	がん性疼痛緩和指導管理料	平成28年８月１日
65	神経学的検査	平成27年９月１日
66	組織拡張期による再建手術（乳 房（再建手術）の場合に限る）	平成28年２月１日
67	ゲル充填人口乳房を用いた乳房 再建術（乳房切除後）	平成28年２月１日
68	ニコチン依存症管理料	平成28年４月１日
69	検査・画像情報提供加算及び電 子的診療情報評価料	平成28年４月１日
70	遺伝学的検査	平成28年４月１日
71	コンタクトレンズ検査料１	平成28年４月１日
72	骨移植術（軟骨移植術を含む。） （自家培養軟骨移植術に限る。）	平成28年４月１日
73	病棟薬剤業務実施加算１	平成28年９月１日
74	認知症ケア加算２	平成28年10月１日

医科点数表第２章第10部手術の通則５及び６（歯科点数表第２章第９部の通則４を含む。）に掲げる手術

区分１に分類される手術

頭蓋内腫瘤摘出術等
黄斑下手術等
鼓膜形成手術等
肺悪性腫瘍手術等
経皮的カテーテル心筋焼灼術

区分２に分類される手術

靭帯断裂形成手術等
水頭症手術等
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等
尿道形成手術等
角膜移植術
肝切除術
子宮附属器悪性腫瘍手術等

区分３に分類される手術

上顎骨形成術等
上顎骨悪性腫瘍手術等
バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）
母指化手術等
内反足手術等
食道切除再建術等
同種死体腎移植術等

その他の区分に分類される手術

人工関節置換術
乳児外科施設基準対象手術
ペースメーカー移植術及び
ペースメーカー交換術（電池交換を含む）
冠動脈、大動脈バイパス移植術及び
体外循環を要する手術
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈血栓切除術及び
経皮的冠動脈ステント留置術

Ⅱ. 医療報告

(1) 診療部門
- 内　　科……15
- 精　神　科……18
- 神 経 内 科……19
- 循環器内科……20
- 外　　科……21
- 整 形 外 科……23
- 形 成 外 科……26
- 脳神経外科……29
- 泌 尿 器 科……31
- 眼　　科……33
- 耳鼻咽喉科……34
- 放 射 線 科……36
- 麻　酔　科……38
- 歯科口腔外科……39
- 健康診断部……41
- 中央検査科・病理診断科……42
- 栄養管理部……43

(2) 中央診療部門
- 中央リハビリテーション部……44
- 中央放射線部……46
- 中 央 検 査 部……47

(3) 診療支援部
- 臨床工学部……49

(4) 薬　剤　部……52

(5) 看　護　部……54

内科

副院長　宮城島　拓　人

2017年度の目標と方針

2013年度から、内科という大きな括りの中に、消化器内科、血液内科、腫瘍内科を院内標榜し、それぞれの専門性を生かした内科を構築している。これをさらに発展させ、それぞれの専門分野のレベルを上げ、医療の均てん化を目指すことで地域医療にさらに貢献することを目標とする。

消化器内科分野では、消化管、胆膵、肝臓の各専門医が配置され指導体制も整い、消化器悪性腫瘍の診断と内視鏡的治療をさらに発展させる。肝炎治療の拠点病院として、大学との連携のもと、臨床研究を推進する。また次世代の胆道鏡を駆使して、一歩進んだ胆膵診断治療を追求する。また､腫瘍内科との連携により、消化器癌の最新治療を担保し、臨床治験にも積極的に参入しながら、地域での最先端の治療を目指す。

血液内科は釧根地区唯一の専門施設として、地域の血液疾患の診断治療に主導的役割を果たすとともに、特に移植分野では大学と連携を強固にしていく。

また、内科という大きな括りはそのままとし、三つの専門分野以外の疾患についても、地域医療を担う責任として関わっていく体制を維持することにより、地域貢献はもとより、研修医の懐の深い（守備範囲の広い）人材育成に寄与する。

釧路労災病院内科の伝統的な『広く深く』を合言葉にした診療体制を今年度も維持発展していく。

2017年度の具体的な重点項目

- ＥＳＤ（内視鏡的粘膜下層隔離術）による食道、胃、大腸早期がんの切除数150件、および、若手の育成。
- 上部内視鏡6000件、下部内視鏡3000件。検診での内視鏡件数の増加。
- 肝炎外来の充実とデータのまとめ。
- 外来化学療法センターの一日利用者数25件。
- 移植患者の長期フォローアップ体制の確立。
- 平日日中の初診救急搬送患者の受け入れ再開とその体制の確立。
- 各種学会発表、論文化の推進。

2016年度診療実績　（件）

入院患者疾患分類集計	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	3,504	3,626	3,877
結腸,直腸,肛門及び肛門管の良性新生物	382	508	525
結腸の悪性新生物	211	172	199
びまん性非ホジキンリンパ腫	122	172	193
胃の悪性新生物	219	274	178
膵の悪性新生物	166	147	175
胆石症	91	130	135
気管支及び肺の悪性新生物	195	167	133
食道の悪性新生物	73	79	112
肝及び肝内胆管の悪性新生物	79	82	111
その他及び部位不明の消化器の上皮内癌	80	109	94
その他	1,886	1,786	2,022

侵襲的治療、検査実績	平成26年度	平成27年度	平成28年度
上部消化管内視鏡	5,649	5,574	5,028
下部消化管内視鏡	3,150	3,317	3,180
食道ＥＳＤ	7	11	21
胃ＥＳＤ	68	83	71
十二指腸ＥＳＤ	0	1	0
大腸ＥＭＲ	515	622	584
大腸ＥＳＤ	28	41	33
小腸鏡（ダブルバルーン）	6	8	8
内視鏡的止血術	58	98	64
食道静脈結紮術･内視鏡的硬化療法	16	41	15
異物除去	13	29	19
イレウス管	64	57	45
食道拡張術	0	59	61
胃瘻造設術	41	28	34
気管支鏡/経気管支気管生検	89	35	45
内視鏡的乳頭切開術（ＥＳＴ）	66	84	85
内視鏡的バルーン拡張術（EPBD）	4	12	28
内視鏡的胆道ドレナージ（EBS）	53	142	148
内視鏡的金属ステント留置術（EMS）	81	63	70
経動脈塞栓術･動注療法（TACE/TAI）	15	20	41
超音波内視鏡（ＥＵＳ）	172	147	220
ＥＵＳ（ＦＮＡ）	105	88	89

2016年度の評価

副院長を含めた部長・副部長クラスの指導医が８名、三年目、四年目の後期研修医が５名プラス初期研修医というやや中堅不在の印象があったが、上下間で十分な意思疎通と指導がなされ、内科としてはモチベーシ

ョン高く診療を維持できた。

一日平均入院患者は150人を下回ったが、そのなかでも血液疾患が常時50床を埋める状態で、地域における血液疾患の需要が見て取れる。さらに胆膵に関する紹介も昼夜を問わず増加傾向にあり、透視室で夜遅くまで治療に当たるのが、日常茶飯事になっていた。医師の負担のみならず、介助にあたる看護師やＭＥ（臨床工学士）の負担は相当なものだったと思われる。

内視鏡検査は上部で5,028件、下部で3,180件と下部は目標を上回ったが、現在のパフォーマンスでは妥当な数字だと理解している。内視鏡治療（ＥＳＤ）はほぼ高橋部長が専従であり負担が相当なものであった。今後は若手の育成が必須と思われる。

化学療法センターが一新され治療環境が格段に良くなったことで、患者の評判はすこぶる良好である。治療ベッド数が16床に拡大されたが、マンパワーが充足せず、まずは現状維持に徹した。

学問的なところでは、国際学会１題、国内全国学会（総会）８題、地方会13題を発表した。

■ 2016年度スタッフ構成

副院長

宮城島　拓　人
- 日本エイズ学会　認定医・指導医
- 日本感染症学会　推薦インフェクションコントロールドクター
- 日本肝臓学会　認定肝臓専門医
- 日本がん治療認定機構　認定医・暫定指導医
- 日本血液学会　血液専門医・指導医
- 日本消化器内視鏡学会　専門医・指導医
- 日本消化器病学会　専門医・指導医
- 日本内科学会　認定総合内科専門医・指導医
- 日本内科学会　認定内科医
- 日本臨床腫瘍学会　暫定指導医
- 日本医師会　認定産業医

消化器内科部長

小　田　　寿
- 日本消化器病学会　専門医
- 日本消化器内視鏡学会　専門医
- 日本静脈経腸栄養学会　認定医
- 日本内科学会　認定内科医

羽　場　　真
- 日本消化器内視鏡学会　専門医
- 日本消化器病学会　専門医
- 日本胆道学会　認定指導医
- 日本内科学会　総合内科専門医
- 日本内科学会　認定内科医

髙　橋　一　宏
- 日本消化器内視鏡学会　専門医
- 日本消化器病学会　認定消化器病専門医
- 日本内科学会　認定内科医

寺　下　勝　巳
- 日本肝臓学会　認定肝臓専門医
- 日本消化器内視鏡学会　専門医
- 日本消化器病学会　専門医
- 日本内科学会　認定内科医

腫瘍内科部長

曽我部　　進
- 日本がん治療認定機構　認定医
- 日本消化器病学会　専門医
- 日本内科学会　認定内科医
- 日本内科学会　総合内科専門医
- 日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
- 日本臨床腫瘍学会　暫定指導医

小　林　良　充
- 日本肝臓学会　認定肝臓専門医
- 日本がん治療認定機構　認定医
- 日本消化器内視鏡学会　専門医
- 日本消化器病学会　専門医
- 日本内科学会　認定内科医

血液内科副部長

松　川　敏　大
- 日本エイズ学会　認定医
- 日本化学療法学会　抗菌化学療法認定医
- 日本内科学会　認定内科医

内科医師

中　野　真太郎　・　更　科　耕一郎
山　村　貴　洋　・　千　葉　雅　尋
松　田　宗一郎

臨床研修医

吉　川　　歩　・　羽　田　光　輝

■ 主な対象疾患

消化器癌
（食道癌、胃癌、大腸癌、肝臓癌、胆管癌、胆嚢癌、膵癌、その他）
肺癌、血液悪性腫瘍
（リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、ＭＤＳ、その他）
他の血液疾患
（貧血、多血症、血小板減少症、凝固異常症、その他）
炎症性疾患
（肝炎、膵炎、胆管炎、胆石症、肺炎、胸膜炎、その他）
気胸、糖尿病、他の代謝性疾患、自己免疫性疾患、

腎不全　など。

■ 特　色

消化器領域、血液領域、癌化学療法の専門領域の疾患については全国レベルを維持し、均てん化に寄与している。それ以外の領域疾患についても、地域の実情を鑑み積極的に対応している。また、専門性を生かしてセカンドオピニオンの提供も積極的に行なっている。

■ 臨床研修教育内容

日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設、日本臨床腫瘍学会認定施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本肝臓学会関連施設、日本胆道学会指導施設、日本血液学会認定血液研修施設、など多彩な教育施設となっており、それぞれの専門医・指導医を持つ部長が、若手をOn Jobで指導し、専門医を育成する環境が整っている。

また、各種学会へも積極的に参加することで知識技術のブラッシュアップを図っている。

完全主治医制で、研修医でも責任を持って患者、家族と対応することになるが、一人で抱え込まないように、全員参加のカンファレンスを充実している。

週二回の病棟カンファレンスでは、研修医が主治医として受け持ち患者をプレゼンし、指導医から指摘や教育を受ける。これにより主治医として関わらなくても、多岐にわたる多くの疾患を経験することができ、疾患の偏りがない経験値が格段に向上する。少なくても新しい内科専攻医研修制度で求められる疾患のほとんどを網羅できる。

精神科

部長　村　田　佳　應

■ 2017年度の目標と方針

初診患者さんの総数に対して再来継続となる患者さんの割合が昨年よりは増加している。これは当科初診患者さんの占める割合が当院入院中の患者さんと比較して院内他科外来および他院からの紹介が多くなってきていることによると思われる。また他都府県からの紹介（必ずしも当院が指定されてはいないが）も増えてきているように思われる。入院中初診患者さんの状況（入院中で一過性に精神症状が悪化した場合にだけ対応する、退院後は地元他院へ通院する、本人が退院後当科通院に同意しない等）が再来に移行しにくい面があるがそれ以外の紹介患者さんは比較的多くが再来に移行している。しかし通院が必要であるにもかかわらず不規則通院であったり自己中断で悪化するまで再来受診しない患者さんも散見される。これらの状況改善が昨年に引き続き今年度も当科の目標、方針となる。

■ 2017年度の具体的な重点項目

入院患者さんに対して当院退院後も継続的な対応ができるようにすることが重点目標となるが居住地の関係から地元へも適宜紹介して患者さんの通院負担を軽減する必要がある。これにより不規則通院を可能な限り是正することも目標とする。

■ 2016年度の評価

精神科外来再開後３年目であったが若干の外来患者数の増加に止まっている。ただし初診患者さんの受診依頼から初診までの期間は短いと思われる。

■ 2017年度スタッフ構成

精神科部長

村　田　佳　應

- 日本精神神経学会　精神科専門医・指導医
- 精神保健指定医
- 日本医師会認定産業医

■ 主な対象疾患

当院には入院病棟がないこと、精神保健指定医が１名であることから措置入院（緊急措置入院を含む）、医療保護入院、応急入院、任意入院のいずれもができない。中心となる疾患は精神病圏ではなく神経症圏である。最初から入院が必要と判断される患者さんは入院病棟を保有する病院にお願いすることになる。最近では神経発達障害と思われる患者さんが増加しており年齢によっては小児科にお願いすることもある。

■ 特　色

当科では新患、再来とも完全予約制となっている。外来での対応が可能であれば比較的待ち日数は短く初診対応が可能であるが以前よりは待ち時間は延びている。

また患者さんから曜日、時間指定のリクエストがあると更に待ち時間は延びることになる。当科では心理士が常駐しているので必要と判断されれば精神科カウンセリング、各種心理検査が可能である。最近は成人の発達障害に関する心理検査が多い傾向にある。

神経内科

部長　津　坂　和　文

■ 2017年度の目標と方針

当院の神経内科は帯広以東の唯一の、神経内科専門医による科である。地域のニーズに応えるべく、ほぼすべての神経疾患について、全国的に見ても遜色のないスタンダードな医療を目指している。

近隣に競合施設がないため、数値目標には意味がないと思っている。依頼のある患者を可能な限り受け入れて、地域医療への貢献をしていきたい。

当科は神経学会准教育施設であり、研修医への教育指導にも力を入れている。

■ 2017年度の具体的な重点項目

1　地域からの受け入れをいとわない。たとえ休日でも、できうる限り患者の受け入れをして、地域医療に貢献していく。

2　学会発表をとおして、研修医、若手医師の教育、指導をしていく。

3　保健師と連携し、難病患者の在宅医療、地域での療養を支援していく。（難病患者在宅ケア連絡会議が年４回。難病対策地域協議会にも参加。）

4　訪問診療の継続

■ 2016年年度診療実績

（1）入院患者疾患分類集計	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	164	176	184
パーキンソン<Parkinson>病	32	28	22
多発性硬化症	13	22	18
脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	12	14	14
自律神経系の障害	9	14	11
皮膚（多発性）筋炎	0	5	10
神経系のその他の変性疾患，他に分類されないもの	3	5	10
炎症性多発（性）ニューロパチー	1	7	8
脳炎，脊髄炎及び脳脊髄炎	6	2	7
原発性筋障害	7	3	6
基底核のその他の変性疾患	5	4	6
その他	76	72	72

■ 2016年度の評価

地域医療機関のニーズに応えることは、ある程度達成できたと思っている。直接の依頼は基本的に断っていない。

入院患者は微増。

■ 2017年度スタッフ構成

神経内科部長

津　坂　和　文

- 日本内科学会　認定医
- 日本神経学会　専門医

神経内科医師

江　口　克　紀

嘱託医

伊　藤　芳　子（月２回　　２日）
中　村　雅　一（隔月１回　１日）
新　野　正　明（隔月１回　１日）
上　床　　尚（月１回　　２日）

■ 主な対象疾患

神経疾患（脳・脊髄疾患）
神経筋疾患（末梢神経疾患、筋疾患）　など

■ 特　色

神経疾患・神経筋疾患全般についての、診断、治療、療養の相談をおこない、これらの疾患の「医療空白地帯」とならないよう努力している。

■ 臨床研修医教育内容

日本神経学会　准教育施設である。帯広以東の道東地区の神経疾患を一手に引き受けている当科は、症例も豊富であり、片寄りなく、広く症例を経験することが出来る。それらの症例の診断から、治療、さらには終末期まで当科で経験することが出来る。

新外来患者のプレゼンテーション、入院患者の方針検討は毎日おこなっている。研修医にはトレーニングの機会が十分にあると思われる。神経学会地方会には毎回演題を出しており、研修医にもその機会を提供している。

循環器内科

部長　鮫　島　睦　生

■ 2017年度の目標と方針

現在当科は、常勤１名および、非常勤１名で（週２回勤務）、外来中心の診療活動を行っています。今年度も基本的には現行の態勢で、外来では、おもに慢性心不全、虚血性心疾患の慢性期、高血圧、不整脈の症例に加え、末梢血管疾患の状態評価、投薬管理などの経過follow、他科（外科系）の術前症例の新機能評価などを行っています。患者数はここ１～２年はほぼ同様ですが、予約枠は慢性的にオーバーブッキングとなることが多く、待ち時間が長くなり、患者様にはご迷惑をおかけすることが多々ある状況です。

入院診療としては、当科の自前の症例に関しては、心臓ペースメーカー植え込み症例の診療を行っています。そのほか、他科入院患者の循環器系合併疾患の状態評価、経過観察・加療を、関連各科にご協力いただき、行っています。外来患者の心不全増悪例については、内科のご協力を頂き、入院での管理を行っています。

新規症例についても、スクリーニングなど評価を積極的に行い、必要に応じて高度医療が可能な施設との連携を保つよう努めています。

■ 2016年度診療実績

(1)　入院患者疾患分類集計

（人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	10	4	1
その他の不整脈	4	3	1
心房細動及び粗動	1	1	0
リンパ管及びリンパ節のその他の非感染性障害	3	0	0
房室ブロック及び左脚ブロック	2	0	0

(2) 手術実績

（件）

＜麻酔別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	6	4	1
局　　所	6	4	1
＜疾患・術式別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	6	4	1
その他の不整脈	3	3	1
心房細動及び粗動	1	1	0
房室ブロック及び左脚ブロック	2	0	0

■ 2016年度スタッフ構成

循環器科部長

鮫　島　睦　生

- 日本胸部外科学会　認定
- 日本外科学会　外科専門医
- 日本外科学会　認定医

外科

副院長　小笠原　和　宏

2017年度の目標と方針

基本方針は変わることなく消化器外科、乳腺外科、緩和ケアを三本柱として地域医療へ貢献します。ここ数年減り続けてきた外科医数は、今年度後半より１名増員となりより充実した医療を展開できるものと期待しております。定期手術はもちろん、緊急手術にも対応できる体制を堅持し、地域の皆様に安心して生活できる医療環境を守ることを目標とします。

2017年度の具体的重点項目

• 腹腔鏡手術の適応拡大と合併症対策

消化器外科の分野では、患者さんにやさしい手術（低侵襲手術）としての腹腔鏡手術を積極的に実施し、合併症の減少に努めます。

• 乳がん治療の多様化に対応

新しいマンモグラフィの導入により診断精度を向上させ、癌の進行度と生物学的特徴に応じた治療法を提案します。手術では、温存療法から形成外科との協働による一次・二次乳房再建まで、多様なニーズに応えられる体制を確保します。

• 緩和ケア外来の強化

院外からの紹介や院内他科からの要請に対応すべく、がん看護専門看護師とのチーム連携による緩和ケア外来を強化します。地域在宅医療システムとの連携を深めてニーズに応えます。緩和ケア病床の活用により入院と在宅のスムーズな移行を図ります。

• 新たな専門医制度に対応する教育体制

従来通り、多くの手術を経験できることはもちろん、大学や関連病院から技術認定医・指導医の応援を得て、地方病院の不利を払拭し、高度な技術を持つ専門医を育成します。

• 顔の見える関係を通じた地域連携

スタッフ外科医は積極的に院内・院外の研修会や医師会行事に参加し、地域の皆さんとふれあう機会を増やすようにします。とくにドクター・トゥ・ドクターの連携がよりスムーズに行われるよう、医師同士の関係を密にします。

2016年度診療実績

(1)　入院患者疾患分類集計

（人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	973	910	876
乳房の悪性新生物	236	217	232
そけい<鼠径>ヘルニア	102	90	84
胆石症	84	83	80
結腸の悪性新生物	82	83	77
直腸の悪性新生物	58	51	40
急性虫垂炎	43	37	38
胃の悪性新生物	47	31	38
その他の外因の作用	23	26	26
消化器系の処置後障害,他に分類されないもの	13	15	24
乳房の上皮内癌	3	8	19
その他	282	269	218

(2) 手術実績

（件）

＜麻酔別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	640	580	608
全　麻	581	537	561
脊　椎	1	1	2
局　麻	56	42	43

＜疾患・術式別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	640	580	608
乳房の悪性新生物	55	58	79
そけい〈鼠径〉ヘルニア	114	87	85
胆石症	94	77	93
結腸の悪性新生物	73	70	74
胃の悪性新生物	44	45	34
直腸の悪性新生物（Rs含む）	38	36	33
急性虫垂炎	43	38	32
麻痺性イレウス及び腸閉塞,ヘルニアを伴わないもの	8	3	12

2016年度の評価

外科医の減少・手術枠の削減という厳しい環境ではありましたが、手術件数はむしろ増加しました。外科医の仕事は手術だけではありません。乳がん検診、労働災害に対する外来・入院診療、禁煙外来、緩和ケアチームを通じての活動など、手術以外の業務にも力を発揮しました。

■ 2016年度スタッフ構成

副院長

小笠原　和　宏

- 日本外科学会　外科専門医・指導医
- 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医
- 日本消化器病学会　消化器病専門医・指導医
- 日本乳癌学会　乳腺専門医
- 日本がん治療認定医機構　認定医・暫定教育医
- 日本医師会　認定産業医
- 日本職業・災害医学会　労働災害補償指導医

外科部長

小　林　清　二

- 日本外科学会　外科専門医・指導医
- 日本消化器外科学会　消化器外科認定医・専門医
- 日本内視鏡外科学会　技術認定医

河　合　朋　昭

- 日本外科学会　外科認定医・指導医
- 日本消化器外科学会　消化器外科専門医
- 日本消化器病学会　消化器がん外科治療認定医
- 日本乳癌学会　認定医

江　本　　慎

- 日本外科学会　外科専門医

外科医師

千　田　圭　悟　・　谷　　道　夫

■ 主な対象疾患および特色

- 消化器がん（胃癌・大腸癌・肝胆膵癌・食道癌など）
- 乳がん
- 胆石症・消化器良性疾患
- 急性虫垂炎など手術を必要とする感染性疾患
- 鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアなど
- 手術後の合併症や後遺障害など

■ 臨床研修医教育内容

臨床研修指定病院であるとともに、日本外科学会修練指定施設、日本消化器外科学会認定施設、日本乳癌学会認定施設であり、豊富な手術経験を積んで早いタイミングで外科専門医を取得するための基礎を学ぶことができます。多数の消化器外科専門医のほか、内視鏡外科技術認定医や乳腺専門医を育成した実績があります。外科医の経験を基盤として緩和ケア専門医に転身した医師もいます。幅広い臨床経験を約束できる環境です。

整形外科

部長　放　生　憲　博

2017年度の目標及び方針

整形外科は運動器疾患を診断・治療する分野で、主にその疾病は変性疾患と外傷に大別されます。今年度から６名体制で診療活動を行っており、脊椎専門医（放生）と上肢専門医（松橋）、下肢専門医（籔内）が常勤し、それぞれの分野で手術をはじめとした専門的な治療に当たると同時に、若手医師の育成を行っております。脊椎専門医は日本脊椎脊髄病学会指導医であり、脊椎疾患の治療はもちろんのこと、脊椎外科医の育成を行っております。その他、北大から上肢・下肢専門医の診療応援があり、運動器疾患のあらゆる分野において専門性の高い高度な医療を提供しております。

釧路市内のみならず、道東全域および道北・十勝地区からも患者さんを紹介して頂き、地域の中核病院としての役割が強く求められております。その期待に応えるべく、高い医療水準を保ちながら、患者一人一人に合わせた柔軟な治療を心掛けています。

2017年度の具体的な重点項目

・脊椎外科専門治療の推進

当科脊椎専門医は釧路地区で唯一人の日本脊椎脊髄病学会指導医です（学会HP）。脊椎外科治療には豊富な知識と高度な技術が要求されることが多く、その専門性を生かした治療を推進していくと同時に、脊椎外科医育成にも重点的に注力していくことを目指しています。

・肩・肘関節疾患の専門治療

今年度から、上肢、特に肩・肘関節の専門医が加わり、専門性の高い治療を行っております。疾患患者数が多い分野であるにも関わらず、釧路地区には本分野の専門医が不在であったため、当科の地域医療への貢献が高まると考えています。

・膝関節疾患治療の重点化

変形性膝関節症に対し、人工関節置換術に加えて、関節を温存した手術治療（HTO手術）を重点的に行っていきます。また、北海道大学整形外科と協力しながら、本手術の有効性を確認し、術式の更なる改良を行っていきます。

・スポーツ医学

整形外科の特徴的な分野であるスポーツ医学を通じて、競技レベルからレクリエーションレベルまで、患者に合わせた診断・治療を行います。

・運動器外傷への積極的な取り組み

地域の中核病院における整形外科として、救急医療に欠くことのできない運動器外傷に積極的に取り組みます。

・骨粗鬆症の社会啓蒙活動と検査・治療の推進

骨粗鬆症は50歳以上の女性の３人に１人が患っていると言われていますが、実際に治療を受けているのはその１/６未満と言われています。本疾患の存在と治療の重要性を社会に啓蒙すると同時に、検査・治療を推進していきます。

・整形外科専門医の育成

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行ってきました。これからも、臨床および学術的な指導を行うことにより整形外科医学教育にも注力していきます。

・地域の整形外科医への指導

釧路市整形外科医会（当科部長が会長を兼任）の取り組みとして、症例検討会・講演会などを積極的に開催し、地域の整形外科診療レベルの向上を図ります。

2016年度診療実績

(1)　入院患者疾患分類集計

（人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	1,265	1,069	833
大腿骨骨折	89	71	98
膝の関節及び靱帯の脱臼，捻挫及びストレイン	115	116	74
膝関節症〔膝の関節症〕	95	86	64
下腿の骨折，足首を含む	60	51	57
前腕の骨折	60	49	53
その他の脊椎障害	62	61	52
腰椎及び骨盤の骨折	51	35	44
その他の変形性脊柱障害	28	45	37
肩及び上腕の骨折	57	63	37
その他の椎間板障害	28	32	25
その他	620	460	292

(2) 手術実績

（件）

＜麻酔別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	1,031	854	592
全　　身	651	554	428
脊　　椎	177	164	90
伝　　麻	144	126	58
局　　所	59	10	16

＜疾患・術式別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	1,031	855	592
大腿骨骨折	72	64	82
膝の関節及び靱帯の脱臼，捻挫及びストレイン	111	116	72
膝関節症〔膝の関節症〕	92	86	62
前腕の骨折	59	46	52
下腿の骨折，足首を含む	51	50	50
その他の脊椎障害	30	30	31
肩及び上腕の骨折	53	31	31
肩及び上腕の筋及び腱の損傷	89	63	21
その他の椎間板障害	15	24	19
股関節症〔股関節部の関節症〕	33	51	17
その他	426	294	155

■ 2016年度評価

昨年度は１名少ない５人体制での治療を余儀なくされ、整形外科全体のアクティビティーを制限さざるを得ない状況でしたが、今年度から１名増員され、６名で診療活動を行っており、さらに整形外科３分野（脊柱・上肢・下肢）の各専門医が揃ったため、全ての領域で高度な治療が可能となりました。

地域の中核病院としてさらに重要な役割を果たしてきたと考えています。

■ 2016年度スタッフ構成

整形外科部長

放　生　憲　博

- 日本整形外科学会　運動器リハビリテーション医
- 日本整形外科学会　専門医
- 日本整形外科学会　リウマチ医
- 日本整形外科学会　脊椎脊髄病医
- 日本脊椎脊髄病学会　脊椎脊髄外科指導医

整形外科部長

簸　内　康　史

- 日本整形外科学会　整形外科専門医

整形外科副部長

関　口　博　丈

- 日本整形外科学会　専門医

整形外科医師

小　池　良　直

倉　茂　秀　星

■ 主な対象疾患

＜脊椎疾患＞

- 腰部椎間板症
- 腰椎椎間板ヘルニア
- 脊椎分離症・すべり症
- 腰部脊柱管狭窄症
- 腰椎変性すべり症
- 腰椎変性側弯症
- 頚椎椎間板ヘルニア
- 頚椎症・頚髄症
- 頚椎後縦靭帯骨化症
- 骨粗鬆症・脊椎圧迫骨折
- 脊椎腫瘍
- 脊椎脊髄損傷
- 胸髄症（ヘルニア、脊椎症、靭帯骨化）
- 化膿性・結核性脊椎炎
- 脊柱側弯症

＜上肢疾患＞

- 肩腱板損傷
- 変形性肩関節症
- 肩関節周囲炎
- リウマチ肩
- 変形性肘関節症
- 離断性骨軟骨炎

＜下肢疾患＞

- 変形性膝関節症
- 変形性股関節症
- 膝前十字靭帯損傷
- 膝半月板損傷

■ 特　色

整形外科の主要疾患はすべて対象としています。脊椎疾患に対して高度な専門性の高い治療を目指します。今年度から上肢専門医が加わり、上肢、特に肩・肘関節の高度な治療を行っております。下肢疾患に対しては、北海道大学整形外科と協力しながら最先端の治療を提供してまいります。また、上記以外の疾患についても、北海道大学整形外科からの診療応援により、適切な治療を行っています。

■ 臨床研修医教育内容

当院は日本整形外科学会研修施設であり、整形外科専門医教育を積極的に行っています。整形外科カンファレンスを毎日行い、整形外科学の基礎的な知識から検査・診断へのプロセス、実際の保存・手術治療まで、個別の症例ごとに全員で検討しています。また、学会や研究会への発表・論文作成指導も行っており、様々な方面からの教育を目指しています。

形成外科

部長　池　田　正　起

2017年度の目標及び方針

当科は釧路医療圏、根室医療圏における唯一の形成外科学会認定施設であり、多くの形成外科疾患に対応しています。北海道大学病院形成外科、蘇春堂形成外科との連携により、最先端の医療を提供できるように体制を整え、また必要に応じて大学病院をはじめ適切な医療機関へ紹介を行っております。褥瘡や外傷など地域の他施設からも多く受け入れています。

初期臨床研修医や形成外科専攻医への教育指導についても随時行っており、形成外科専門医を目指す人材の育成を図っております。

2017年度の具体的な重点項目

・免疫チェックポイント阻害剤、新規分子標的薬による悪性黒色腫の治療

腫瘍内科医と協力し、抗PD-１抗体を始めとする免疫チェックポイント阻害剤による悪性黒色腫の治療を開始して２年になります。頻回の通院が必要な外来化学療法についても化学療法センターを中心に対応しています。悪性黒色腫の治療に関しては、放射性同位元素を用いたセンチネルリンパ節生検など当院で実施できない一部を除き、当院で一貫して診断、治療を行っています。

新たな薬剤が順次発売されており、これらについても必要に応じて適切な治療ができるよう準備を行っております。

・人工物を用いた乳房再建（一次再建および二次再建）

2015年度より外科との協力で北海道内で７番目の乳房再建用エキスパンダー実施施設（一次・二次両方）として認定を受け、治療を行っております。本術式に豊富な経験を持つ蘇春堂形成外科との協力により、高水準な再建技術を提供できるよう努力しております。

・地域の糖尿病性足病変治療の取り組み

例年11月に糖尿病性足病変について講演を行っております。現在の釧路・根室医療圏では、糖尿病の専門的治療と下肢の血行再建、形成外科の入院治療を全て同時に行うことができる施設が存在しないため、多施設の協力が不可欠です。今後は糖尿病治療に関する講演会等への参加を通じ、地域の体制について協議を進めたいと考えています。

当科は皮膚灌流圧（ＳＰＰ）測定を行うことで虚血肢の評価が可能であり、足部での小切断や壊死組織のデブリードマン、植皮などの手術治療や高圧酸素療法などの保存的治療を行っております。

・術後電子線照射、あるいはステロイド局注を併用したケロイド治療

2014年度より外傷や手術後の肥厚性瘢痕やケロイドの治療について、従来の切除＋術後電子線照射による治療の他に、術後ステロイド局注による治療を行っています。この２つの治療法は術後再発率に差がないと報告されており、通院頻度等について患者の希望に沿った治療を選択しています。

この治療については主に北海道大学形成外科で行われた治療に関し、部長（池田）が2016年１月の瘢痕・ケロイド治療ジャーナルに論文として報告致しました。

・手術用顕微鏡を用いた眼瞼手術

当科では年間100例以上の眼瞼手術（眼瞼下垂、眼瞼内反等）を行っており、高齢化に伴い患者数は増加傾向です。現在は手術用拡大鏡（ルーペ）を用いた術式を中心に行っておりますが、必要に応じてさらに倍率が高く、明視野で手術を行うことができる手術用顕微鏡による術式も取り入れることとしました。

・医療スタッフへの教育活動を活発化する

当院併設の看護学校において、学生への授業を年に４回担当しております。また新しい治療を導入する際には院内勉強会を開催し、関係部署のスタッフの教育に努めております。

病棟、手術室、外来のスタッフを対象とした勉強会を定期的に開催し、知識の共有と日々の診療の質の向上を目指しています。

・形成外科専攻医の学術的活動および研修の奨励

専攻医は形成外科専門医取得のため年１回の学術講習会出席を行うことを目標とし、また努力目標として学会発表、あるいは論文投稿を年１回行う方針としています。専門医はその際に必要な指導を行い、また新制度に対応するため指導医の取得に必要となる講習会や分野専門医の申請を行う予定です。これらと並行して当院の施設認定を維持することを目標とします。

■ 診療実績

2014年度から2016年度まで、３年間の診療実績については表に示す通りです。

1：診療実績

年　　度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
形成外科新患者数	1,134	1,295	1,326
形成外科入院患者数（延べ人数ではない）	272	389	419
全手術件数	1,093	1,099	997
入院手術	390	388	411
外来手術	703	711	586
全身麻酔	250	245	205
局所麻酔、その他の麻酔	843	854	792
外傷	254	242	215
熱傷･凍傷･化学損傷･電撃傷等	7	10	0
顔面軟部組織損傷	77	104	79
顔面骨折	37	36	40
頭部・頚部・体幹の外傷	25	22	18
上肢の外傷	81	52	56
下肢の外傷	27	18	22
先天異常	11	25	17
唇裂・口蓋裂	2	4	3
頭蓋・顎・顔面の先天異常	6	14	9
頚部の先天異常	0	1	0
四肢の先天異常	2	5	1
体幹の先天異常	1	1	4
腫瘍	572	553	495
良性腫瘍（レーザー除く）	485	444	407
悪性腫瘍	87	105	78
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）	0	4	9
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）	0	0	1
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	28	22	32
難治性潰瘍	83	69	43
褥瘡	19	13	8
その他の潰瘍	64	56	35
炎症・変性疾患	128	170	83
美容外科	0	0	0
その他	1	0	101
レーザー治療	16	18	11
良性腫瘍でのレーザー治療例	16	17	11
美容処置でのレーザー治療例	0	1	0

※2016年度より、眼瞼下垂症など一部が「炎症・変性疾患」から「その他」と変更になりました。

形成外科医の常勤２名の施設として認定施設基準を大きく上回る手術症例数を有しており、これを維持しております。手術の内訳として全体の約半数が腫瘍、１/４が外傷であり､その他の手術も炎症変性疾患（眼瞼下垂症など）を筆頭に多岐にわたります。

外来新患数は増加傾向にあり、新しく開始した治療も含め地域の医院、病院との協力の輪を広げ、より多くの患者に適切な形成外科診療を提供できるよう尽力する方針です。

■ 2016年度の評価

診療スタッフ２名による診療を行い、手術件数は前年度より減りましたが、入院外来患者数は前年度より増加しました。免疫チェックポイント阻害剤による悪性黒色腫の治療、人工物を用いた乳房再建を継続中です。部長（池田）は日本創傷外科学会専門医を取得しました。

■ 2016年度のスタッフ構成

形成外科部長

池　田　正　起

- 日本形成外科学会　専門医
- 日本創傷外科学会　専門医
- がん治療　認定医

形成外科医師

北　條　正　洋

■ 主な対象疾患及び特色

主な対象疾患　※形成外科学会の項目に準じて記載

[外傷]

熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷

顔面軟部組織損傷・顔面骨折：眼窩骨折、頬骨骨折、鼻骨骨折など

頭部・頚部・体幹・上肢・下肢の外傷

外傷後の組織欠損

[先天異常]

唇裂・口蓋裂（北海道大学病院や釧路赤十字病院と連携)、頭蓋・顎・顔面・頚部の先天異常

四肢・体幹（その他）の先天異常：多指（趾）症など

[腫瘍]

良性腫瘍：粉瘤、色素性母斑（ほくろ)、脂肪腫など

悪性腫瘍：悪性黒色腫、有棘細胞癌、基底細胞癌など

腫瘍の続発症

腫瘍切除後の再建（一次・二次再建）

[瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド]

外傷後や手術後の瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイド、ピアスケロイド等

[難治性潰瘍]

褥瘡･その他の潰瘍(糖尿病性潰瘍､虚血性潰瘍など)

[炎症・変性疾患]

眼瞼の変性疾患：眼瞼下垂、眼瞼内反など

爪の変性疾患：巻き爪、陥入爪など（手術、超弾性ワイヤー）

[美容]

美容外科に類する保険外診療は現在行っておりません

[その他]

腋臭症（手術、保存的治療）

顔面神経麻痺（リハビリ指導、再建術など）

[レーザー治療]

色素レーザー・Qスイッチ付きルビーレーザー

単純性血管腫

毛細血管拡張症

異所性蒙古斑

太田母斑

外傷性色素沈着症

扁平母斑

しみ（保険外）

刺青除去（保険外）

■ 特　色

ほぼ全ての形成外科疾患を対象としています。

釧路・根室医療圏は当院の他に形成外科医が常勤している施設がなく、外傷、先天異常、炎症・変性疾患（特に眼瞼下垂・内反）のニーズが総じて高いことが特色です。悪性腫瘍についても地域での治療を希望する患者が多く、当科でも可能な限り多くの治療法を提供できるよう努力しております。加えて必要に応じて北海道大学病院をはじめ他施設とも連携をとって診療にあたっています。

形成外科はチーム医療に携わることが多いですが、当院においても再建を中心に多くの診療科と合同手術を行っております。また内科から悪性リンパ腫のリンパ節生検などの依頼にも対応しています。

2015年度より開始した免疫チェックポイント阻害剤による悪性黒色腫の治療と人工物を用いた乳房再建に関して、現在も継続して実施しております。

また2017年５月に故障していたQスイッチ付きルビーレーザー機器が更新され、再びレーザー治療が可能となりました。

■ 臨床研修医教育内容

当科での研修を選択した初期臨床研修医を対象とし、疾患の知識や診察法についての教育から、具体的な手術手技に至るまで個別に指導を行っています。研修期間に応じて習得できる内容は変わりますが、形成外科疾患に対する基本的な考え方や対処法の理解、また手術手技の基本と技術のトレーニングについて学ぶことを目標としています。

脳神経外科

部長　磯　部　正　則

2017年度の目標及び方針

患者さんに労災病院（脳外科）にかかりたいと思われるのが、患者数、入院数、手術数につながる。

そのためのひとつは診療内容の充実。

少ない医師数が北大医局の事情で、さらに一人減ったが、各個人メンバーに問題はなくなり、医師の質としては過去最良となった。数は少ないが、診療内容は、これまでで最高の充実度です。

井須脊髄外科、末梢神経外科は、福岡からの松本先生が、引き続き当院で大活躍。さらに脳外科部門においても適切かつ万全の診療をしていて百人力です。福大井上教授のお許しを頂き、2018年度以降も引き続き当院で頑張って頂けることになりました。さらに、8月からは福大からもう一人三木先生が来ます。期間限定の見込みですが、できるだけ長くあるいは出戻りでも当院で活躍され学んで頂きたいと思います。

そして、脳血管障害救急治療のなかで、脳梗塞（心原性脳塞栓症）の超急性期治療が、充実しました。

脳血管内手術である脳動脈血栓回収術を専門的に行えるようになりました。小林先生の赴任によりこれが、実現いたしました。院内でも院内報などで知って頂き、対外的にも救急隊などに周知しています。大いに期待されます。

労災脳外科を選んでもらう、もう一つは、知ってもらうこと、ホームページの充実のみならずYouTubeが有効では。もう一つは、患者サービスというか、受診しやすいこと、委員会が必要では。入りやすさ、待ち時間問題など。脳ドックも待ち期間が1年では、話になりません。

2017年度　具体的な重点項目

繰り返しになるが、受診希望者の増加のため、当科としては医師数の充実。

病院の協力が必要：情報発信の工夫、受け入れる外来サービスの向上。脳外科救急（救急車、ドクターヘリ）の民間病院への大きな偏りの是正に向けて。

2016年度診療実績

(1)　入院患者疾患分類集計

（人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総計	896	827	892
脳梗塞	178	174	180
神経根及び神経そう<叢>の障害	139	147	125
脳内出血	59	62	63
その他の脊椎障害	46	44	57
頭蓋内損傷	45	35	39
てんかん	29	27	36
前庭機能障害	8	22	30
その他の脳血管疾患	24	30	23
脊椎症	25	18	21
くも膜下出血	15	18	19
その他	328	250	299

(2)　手術実績

（件）

＜麻酔別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総計	417	373	370
全身	191	249	237
伝麻	1	0	0
局麻	225	124	133

＜疾患・術式別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総計	417	373	370
神経根及び神経そう<叢>の障害	153	72	71
その他の脊椎障害	34	47	45
くも膜下出血	12	28	35
脊椎症	19	15	28
脳内出血	36	33	21
頭蓋内損傷	14	12	19
脳梗塞	16	6	18
その他の部位の続発性悪性新生物	7	9	17
その他の脳血管疾患	18	16	16
その他の非外傷性頭蓋内出血	11	15	15
その他	97	120	85

2016年度の評価

手術件数：321件。

2015年は332件、2014年は430件。2013年461件。なので、大幅に減ってきて、横ばいとなった。

原因は当科受診者の増加があまりないことと、全麻手術枠減少による士気の低下、医師の質の問題で件数をこなせなかった。

2016年度スタッフ構成

脳外科なのに脊髄外科専門医の充実。指導医井須先生のもと脊髄末梢神経診療が充実している、脳から手足の神経まで診療する、日本でも屈指の施設。脳、救急は指導医磯部で、院内対応も含め充実。

脳神経外科部長

磯　部　正　則
- 日本脳神経外科学会　指導医

井　須　豊　彦
- 日本脳神経外科学会　専門医
- 日本脊髄外科学会　指導医

山　内　朋　裕
- 日本脊髄外科学会　認定医
- 日本脳神経外科学会　専門医

岩　本　直　高
- 日本脳神経外科学会　専門医

山　﨑　和　義
- 日本脳神経外科　専門医
- 日本脊髄外科　専門医

脳神経外科副部長

松　本　順太郎
- 日本脳神経外科　専門医
- 日本脊髄外科　専門医
- 脳卒中専門医

脳神経外科医師

佐　藤　行　真

舘　澤　諒　大

主な対象疾患及び特色

救急医療
- くも膜下出血（破裂脳動脈瘤)、脳内出血、脳梗塞
- 外傷性頭蓋内出血（硬膜内外、脳内)、脊椎硬膜内外出血　これらには、救急手術対応で、休日・深夜でも行える。

脳外科領域
- 脳腫瘍
- 脳動脈瘤、動静脈奇形
- 顔面けいれん、三叉神経痛
- 水頭症

脊髄・末梢神経領域
- 頸椎症、後縦靭帯骨化症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア

腰痛の治療
- 腰椎ヘルニア、狭心症、すべり症など以外に、上殿皮神経障害などの臀部末梢神経障害が、腰痛の原因であるものの治療も特色。

泌尿器科

部長　佐々木　芳　浩

■ 2017年度の目標及び方針

泌尿器科は、泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、がん診療連携拠点病院として、腎・腎盂尿管・膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術､膀胱全摘術と尿路変更(回腸導管、代用膀胱)、前立腺癌に対してはQOLも考慮した前立腺全摘除術を行っているが、近年急増しているロボット支援手術を希望した場合は関連施設を紹介している。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、放射線治療も患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。免疫チェックポイント阻害薬の使用も可能となった。各種癌に対する治療成績の関しても標準的治療が行えていることを検証・発表することを重要視している。

腎不全に関しては、保存期の内シャント造設と血液透析導入以後の維持透析管理をメインに行っており、今年4月には透析機器を一新し血液浄化センターと名称を変更し治療にあたっている。尿路結石に関しては、結石破砕装置の関係で、市立釧路総合病院・釧路赤十字病院と連携して治療を行っている。

■ 2017年度の具体的な重点項目

- 診療全般に関しては、紹介患者の増加に伴い、外来・入院・手術件数が増加しているが、医師数の増員により外来を４診体制として待ち時間の短縮等を図っていく。
- 関連病院の市立釧路総合病院泌尿器科との連携を強め、釧根地区全体の泌尿器科手術待ちの期間短縮を図るため、患者とDr.の交流を進めていく。
- がん診療に関しては、特に化学療法患者が増加しており、外来化学療法室の拡張に合わせて前立腺癌や尿路上皮癌での外来化学療法を積極的に進めていくとともに免疫チェックポイント阻害薬の使用にも対応していく。
- 血液浄化部門に関しては、新設となった血液浄化センターの運営を安全に進めていくとともに、栄養指導や透析リハビリ等を導入し、透析患者のQOL向上にも努めていく。
- 排尿障害に対してはウロダイナミクス測定機器の更新により前立腺肥大症や神経因性膀胱患者の検査体制を強化していく。

■ 2016年度診療実績

(1)　入院患者疾患分類集計

（人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	400	481	526
前立腺の悪性新生物	103	94	119
膀胱の悪性新生物	54	76	70
前立腺肥大（症）	40	52	38
その他及び部位不明の上皮内癌	50	47	51
腎盂を除く腎の悪性新生物	19	21	32
尿管の悪性新生物	7	18	17
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	16	17	27
尿路系のその他の障害	9	16	15
腎盂の悪性新生物	7	16	21
慢性腎不全	14	14	17
その他	81	110	119

(2) 手術実績

（件）

＜麻酔別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	286	336	341
全　身	67	68	81
脊　椎	206	248	238
局　麻	13	20	21
無麻酔	0	0	1

＜疾患・術式別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	286	336	341
前立腺の悪性新生物	73	65	70
その他及び部位不明の上皮内癌	48	46	51
膀胱の悪性新生物	33	44	43
前立腺肥大（症）	37	52	37
閉塞性尿路疾患及び逆流性尿路疾患	13	15	23
腎盂を除く腎の悪性新生物	10	13	17
下部尿路結石	7	9	15
前立腺の炎症性疾患	13	9	12
慢性腎不全	8	14	8
膀胱炎	5	2	8
その他	39	67	57

■ 2016年度の評価

診療スタッフ４名にて診療を行い入院・外来・手術件数とも順調に増加したが、常勤２名の負担が大きかった。

■ 2016年度スタッフ構成

院　長

野々村　克也

- 北大腎泌尿器外科名誉教授
- 日本泌尿器科学会　専門医・指導医

泌尿器科部長

佐々木　芳　浩

- 日本泌尿器科学会　専門医・指導医
- 日本泌尿器科内視鏡学会 腹腔鏡技術　認定医

村　橋　範　浩

- 日本泌尿器科学会　専門医

泌尿器科医師

渡　邊　絢　子

- 日本泌尿器科学会　専門医

■ 主な対象疾患

- 腎細胞癌
- 腎盂尿管癌
- 膀胱癌
- 前立腺癌
- 精巣癌
- 副腎腫瘍
- 後腹膜腫瘍
- 前立腺肥大症
- 神経因性膀胱
- 過活動膀胱
- 腎不全（腎前性・腎性・腎後性）
- 尿路感染症
- 先天性尿路・性器疾患

■ 特　色（冒頭と同内容）

泌尿器科疾患全般に対応することはもちろんであるが、がん診療連携拠点病院として、腎・尿管。膀胱・前立腺・精巣癌に対する診断、治療、フォローアップに重点を置いている。腎癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡手術を標準術式として早期腎癌に対しては部分切除による腎温存術を行っている。膀胱癌に対しては経尿道的手術、膀胱全摘術と尿路変更（回腸導管、代用膀胱）、前立腺癌に対してはQOLも考慮した前立腺全摘除術を行っている。進行癌や再発・転移癌に対しては、分子標的治療薬や化学療法、放射線治療も患者の状態を十分考慮した上で積極的に施行している。各種癌に対する治療成績の関しても標準的治療が行えていることを検証・発表することを重要視している。

■ 臨床研修医教育内容

日本泌尿器科学会認定教育施設である。研修医は腎・尿路疾患のプライマリー・ケアができるように、疾患の診断・標準的な治療・基本的な処置についての知識を習得するため、入院患者を中心に泌尿器科疾患全般に触れ、代表的な疾患に関しては自分自身の力で、複雑な疾患については指導医と相談しながら的確に対応できる能力を取得することを目標とする。また、手術に参加することはもちろん小手術の執刀を経験することも出来る。可能であれば地方学会等での症例報告も行うことが出来る。

眼科

副部長　海　野　茂　樹

2017年度の目標及び方針

眼科一般に対し幅広く対応できるように機器の整備などを行い診療体制の充実を図っています。今年度は眼科電子カルテシステムの導入に合わせ、周辺の検査機器も新しいものに更新し、より正確な診断と治療効果の判定を行える体制を整えています。内科的な疾患と関連した眼病変も多く、近医の先生方や当院の他科の先生方と連携し、よりきめ細かい診察・対応を行っていけるように日々の診療を進めてまいります。

また当科では白内障や翼状片の手術は入院にて施行しており、術後の頻回な外来通院が困難な方や遠方の方の手術施行に対応できるようにしています。昨年度も前年同様の手術件数を維持しておりますが、できる限り手術時期の希望などに応えられるようにしたいと考えています。

2016年度診療実績

(1)　入院患者疾患分類集計

（人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	109	187	179
老人性白内障	105	171	175
結膜のその他の障害	2	3	4
その他の白内障	0	7	0
網膜血管閉塞症	0	2	0
他に分類される疾患における白内障及び水晶体のその他の障害	0	1	0
角膜炎	0	1	0
硝子体の障害	0	1	0
他に分類される疾患における虹彩及び毛様体の障害	0	1	0
視神経炎	1	0	0
眼窩の障害	1	0	0
頭蓋骨及び顔面骨の骨折	0	0	0

(2)　手術実績

（件）

＜麻酔別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	189	298	310
全　身	0	1	0
局　麻	189	298	310

＜疾患・術式別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　計	189	299	310
老人性白内障	187	286	306
結膜のその他の障害	2	3	4
その他の白内障	0	7	0
他に分類される疾患における白内障及び水晶体のその他の障害	0	1	0
硝子体の障害	0	1	0
他に分類される疾患における虹彩及び毛様体の障害	0	1	0

2016年度の評価

昨年度も診療体制に大きな変化はなく外来診療および手術を一人の医師で行っているため、外来診療数や手術件数は横ばいでしたが、新たな機器の導入により診療の精度については進歩したと考えます。外来での診療待ち時間が長くなってきたとの指摘をいただきましたが、眼科の電子カルテシステムの導入も計画されており、できるだけ改善を図っていきたいと思います。

スタッフ構成

眼科医師

海　野　茂　樹

主な対象疾患

眼科全般

白内障・翼状片などについては手術対応

特　色

診療担当医師が１人であるため治療できる範囲には限りがあるのが現状ですが、眼科疾患全般について診療を行い当科で対応できるものとそうでないものをしっかりと鑑別し、適切な対応をすることによって治療の遅れなどが出ないように心がけています。釧路市内には釧路赤十字病院および市立釧路総合病院があり、それらとの連携を図りながら適切な時期に必要な治療を受けることができるようにしています。

耳鼻咽喉科

部長　北　南　和　彦

■ 2017年度の目標及び方針

札幌・旭川・函館を除く北海道の地方都市の耳鼻咽喉科勤務医は減少する一方である。釧根地区も例外ではない。釧根地区で耳鼻咽喉科勤務医のいる病院は当院のほか市立釧路総合病院・釧路赤十字病院・町立中標津病院・市立根室病院・町立別海病院の６か所である。当院３人、市立釧路総合病院３人、町立中標津病院１人を除く３病院は週に数日間だけ大学からの出張でまかなわれている。市立根室病院に至っては当院から外来診療に出張している現状である。

出張勤務医の場合、喉頭浮腫・扁桃周囲膿瘍・重症鼻出血などの緊急入院を必要とする患者や入院手術を必要とする患者に対応することができない。したがって勤務医の常駐する病院に紹介するしかない。さらに、釧根地区は札幌・旭川などの大都市圏と遠く離れている。当院はいわば釧根地区の最後のとりでといってもいいような病院である。今後も可能な限り現在の体制を維持して地域住民の期待に応えられるようにしていきたい。

また、釧根地区は耳鼻咽喉科医がほかの地域と比べて圧倒的に少ない。近隣の開業の先生と連携して効率の良い医療体制を作っていきたい。

■ 2017年度の具体的な重点項目

１．地域医療との連携

地域医療機関からの診療依頼は可能な限り引き受ける。ベッドが満床の場合やむなく入院依頼をお断りしたことがあるが、できる限り地域医療機関の期待にも応えられるようにしていきたい。

２．救急疾患に対する診療体制を維持する

当科は気道を扱う科で気道閉塞の危険がある疾患も数多い。それだけ緊急性のある疾患も多いわけである。それにもかかわらず先に述べたように釧根地区で救急疾患に対応できる病院が圧倒的に少ない。今後も救急疾患に対応できる体制を維持していきたいと考えている。

３．耳疾患から頭頸部腫瘍に至るまで幅の広い疾患への対応

耳鼻咽喉科疾患は耳疾患・鼻疾患・咽喉頭疾患・頭頸部腫瘍と多岐にわたり、まれな疾患もある。また医療が進歩するにしたがって患者数、施設の医療体制、医療機器などの点からすべてを賄うのは困難になってきている。その中でできる限り幅広く種々の疾患に対応していきたい。

■ 2016年度診療実績

(1)　入院患者疾患分類集計　（人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	568	560	530
前庭機能障害	54	54	58
慢性副鼻腔炎	37	36	41
扁桃周囲膿瘍	37	46	37
その他の難聴	33	30	27
睡眠障害	52	33	26
顔面神経障害	17	17	24
気道からの出血	10	22	23
扁桃及びアデノイドの慢性疾患	16	26	22
甲状腺の悪性新生物	18	15	18
声帯及び喉頭の疾患, 他に分類されないもの	20	18	18
その他	274	263	236

(2) 手術実績　（件）

＜麻酔別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	268	273	222
全　　身	258	255	218
局　　麻	10	18	4

＜疾患・術式別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	268	273	222
慢性副鼻腔炎	34	36	41
扁桃及びアデノイドの慢性疾患	22	26	21
大唾液腺の良性新生物	10	12	17
甲状腺の悪性新生物	13	15	15
声帯及び喉頭の疾患, 他に分類されないもの	18	18	13
中耳及び呼吸器系の良性新生物	9	12	9
鼻及び副鼻腔のその他の障害	8	6	9
中咽頭の悪性新生物	3	13	7
鼻ポリープ	6	6	7
唾液腺疾患	5	8	7
その他	140	121	76

■ 2016年度の評価

診療スタッフ３名にて診療を行い、年間入院患者数、手術件数ともこの３年間で特に変化はみられなかった。入院患者の疾患はめまい・扁桃周囲膿瘍など救急疾患が数多く含まれている。また、手術の内容も耳疾患・鼻疾患・咽喉頭疾患・頭頸部疾患など多岐にわたって

いる。さらに局所麻酔手術に比べて圧倒的に全身麻酔手術が多い。それだけ侵襲が大きく手術時間の長い手術が多いわけである。以上のことから当科は現在に至るまで地域の中核として機能し続けているといえる。

■ 2017年度スタッフ構成

耳鼻咽喉科部長

北　南　和　彦
- 日本耳鼻咽喉科学会　専門医
- 日本医師会　認定産業医

石　井　秀　幸
- 日本耳鼻咽喉科学会　専門医
- 日本耳鼻咽喉科学会　補聴器相談医
- 日本耳鼻咽喉科学会　騒音性難聴担当医
- 補聴器適合判定医師

耳鼻咽喉科医師

寒風澤　知　明
- 日本耳鼻咽喉科学会　専門医

■ 主な対象疾患

メニエール病、めまい症、突発性難聴、末梢性顔面神経麻痺（ベル麻痺、ハント症候群）、急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出性中耳炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、肥厚性鼻炎、副鼻腔炎、鼻出血、シェーグレン症候群、睡眠時無呼吸症候群、扁桃周囲膿瘍、扁桃病巣疾患、声帯ポリープ、喉頭麻痺、音声・嚥下障害、甲状腺腫瘍、副甲状腺腫瘍、顎下腺腫瘍、耳下腺腫瘍、上顎癌、舌癌、口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、その他の頭頸部腫瘍など。

■ 特　色

きわめて多岐にわたる疾患を扱っている。地域医療の状況から扱わざるを得ないのであり、裏を返せば特色のある診療を打ち出せない状況にある。その中で、睡眠時無呼吸外来は釧根地区では当院だけが行っている外来である。

放射線科

部長　永　尾　一　彦

2017年度の目標と方針

胸腹部放射線診断・核医学・放射線治療を柱として各科のニーズに対応している。

今後の新しい診断機器や診断技術、治療技術にも迅速に対応できるよう心掛けたい。

2017年度の具体的な重点項目

・死亡時画像診断（Ai）の体制の確立

院外依頼（主に警察署）のAiは今まで散発的に施行されてきたが、今後は検査依頼から結果報告までの過程をマニュアル化し、効率的かつ効果的に検査を実施出来るように努める。

院内からのオーダーについても可能な限り現況に即した検査体制を確立する。医師は研修会などに参加し今後も知識の取得に努めていく。

・ＭＲＩ画像読影の質の向上

ＭＲＩ検査は現在も今後もさらなる技術の向上と撮像方法の改良、進化が見込まれている。当院でのＭＲＩ装置の更新も間近に迫っている。画像診断医の検査に対する知識や所見の解釈を深めるために、学会への積極的な参加、最新文献の参照などもにも留意したい。

・ＩＶＲの拡充

マンパワーや技術的な問題があり昨年度と同様、体幹部の動脈性出血の緊急塞栓術を中心に対応していきたい。

・核医学機器の更新

昨年度は核医学装置が更新された。新機種に合わせた撮像法の変更や新しい検査法などへの対応を心掛けたい。

・体幹部定位放射線治療の実施

転移性脳腫瘍に対しては年間10例程度の定位放射線治療を実施している。

体幹部（転移性肺腫瘍）に関しては、検証機器がないので所定の点数が取れない状態である。しかし、症例を積み重ね、年間10例程度は施行したい。

・「放射線ワーキンググループ」の設置

院内の多職種（特に看護師）にとって放射線治療は身近ではなく知識不足の傾向がある。放射線治療の看護の均てん化を目的に、「放射線部安全運営委員会」の下部組織として「放射線治療ワーキンググループ」を設置し運営を開始している。

2016年度の評価

ＩＶＲについては、術者が一人体制であることから、対象とする疾患は緊急性が高く、致命的なものに限って依頼を受けていた。そのため、院内での施行件数は少なかったが、市立釧路総合病院及び釧路赤十字病院からの依頼が相当数あり、出張で塞栓術を施行してきた。結果としては、釧根地区の救急医療に放射線科として貢献出来たと思う。

放射線治療については院外、特に釧路赤十字病院や釧路協立病院からの紹介患者が増加傾向にある。より一層の宣伝及び普及に努めたい。

2016年度スタッフ構成

放射線科部長

永　尾　一　彦
- 日本核医学会　専門医
- ＰＥＴ核医学　認定医

米　坂　祥　朗
- 日本放射線腫瘍学会 放射線治療　専門医

放射線科医師

梶　山　政　義
- 日本医学放射線学会　診断専門医

特　色

放射線画像診断、核医学、放射線治療いずれにも対応している。

ＣＴ・ＭＲＩは脳、頭頸部、脊椎、各関節や胸腹部など全身の検査を行っているが、特に悪性腫瘍の精査やスクリーニング、変性疾患の診断が中心になる。

緊急検査は当日中に、また読影レポートについても大半は当日中に作成し迅速な報告を目指している。

ＭＲＩは1.5Ｔ（テスラ）の高磁場装置２台で一日30～40件程度撮像し、そのうち読影依頼のあるものについて所見をレポートしている、脳、頭頸部、脊椎、各関節や胸腹部など、全身の検査に対応している。レポートは出来るだけ迅速に作成し、遅くとも検査翌日の午前中までには結果を各科に報告している。

ＩＶＲについては前述のように、体幹部の動脈性出血の塞栓のみ実施しており、内容としては気管支動脈塞栓、術後仮性動脈瘤、術後出血、術前腫瘍血管塞栓

の止血術を施行した。

放射線治療については、年間新患が250例程度、照射患者数が350例程度であり、当院規模の地域がん診療連携拠点病院としては、標準的である。

疾患的には偏りなく、広く全身の癌種に対して照射している。

麻酔科

部長　小　田　俊　昭

2017年度の目標および方針

患者の安全を守る手術麻酔の実行

2017年度の具体的な重点項目

年間2,000件の全身麻酔

麻酔科医として安全かつ円滑な手術室運用

局所麻酔困難患者へのかかわり

2016年度の評価

診療スタッフ４名にて診療をおこなった。

全身麻酔件数は1,934件うち臨時手術は194件であった。

常勤医２名応援医２名体制で全身麻酔を安全に施行することができた。

歯科口腔外科

部長　藤　盛　真　樹

■ 2017年度の目標および方針

歯科口腔外科は口腔外科疾患を中心として、口腔がんや口腔顎顔面骨折などの高次歯科医療までの診療を、頭頸部領域に関わる各診療科と連携しつつ行ってきた。

最近では、内科や外科系診療各科との院内連携により、がん治療に対しての周術期口腔機能管理も多く実施され、がんの支持療法を担う診療科という２面性を持ち合わせるようになった。上記の如く、高次歯科医療および支持療法の診療を今後もさらに強化していく。

また、当科は日本口腔外科学会認定施設であり、口腔外科的な研修を希望する歯科医師への教育指導と人材育成を行っており、これを継続する。

■ 2017年度の具体的な重点項目

（1）地域医療との連携

今まで通り紹介・逆紹介を基本に釧根地区の歯科医院、病院、医院との密な連携を基本に診療を行う。

積極的に地域医療における医科と歯科の橋渡し役を担う。

（2）釧路赤十字病院歯科口腔外科および市立釧路総合病院歯科口腔外科との連携

歯科口腔外科的な疾患において、可能な限り地域完結型の診療を目指す。釧路根室３次医療圏内の３つの病院歯科口腔外科が連携して地域医療に貢献できる体制作りをさらに進める。現在すでに行われている症例検討に加え、2015年度より開始した施設間相互の手術見学や手術応援体制をさらに充実させる。

当科は主に悪性腫瘍や顎顔面外傷、釧路赤十字病院は外科的矯正治療、市立釧路総合病院は障がい児(者)治療を主に担当している。

（3）周術期口腔機能管理の強化

がんの支持療法を担う診療科としての機能を強化し、現在の方針である院内他科からの要望への迅速対応を継続する。

（4）臨床研究活動

道内外の口腔外科施設との共同研究の参加（現在進行中)、学会発表を積極的に行う。

（5）若手歯科医師の指導体制の強化

外来、病棟、手術室すべてにおいて、若手歯科医師に広く手厚い教育環境を与え、知識と技術の段階的習得をはかる。

（6）院内活動の強化

病院内での色々な部署と連携し（NST、緩和、感染、口腔ケアなど)、所属歯科医師全てが病院内での活動に積極的に参加する。

■ 2016年度診療実績

（1）　入院患者疾患分類集計　（人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	512	564	524
埋伏歯	250	276	255
歯髄及び根尖部歯周組織（のう胞）の疾患	171	186	187
悪性新生物	32	33	18
良性新生物	4	8	8
頭蓋骨及び顔面骨の骨折	7	9	10
唾液腺疾患	4	3	3
その他	44	49	43

（2）手術実績　（件）

＜麻酔別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	459	480	450
全 身 麻 酔	263	253	247
局 麻 麻 酔	79	93	78
静 脈 麻 酔	116	134	125

＜疾患・術式別＞	平成26年度	平成27年度	平成28年度
総　　計	459	481	450
埋伏歯	238	266	242
歯髄及び根尖部歯周組織（のう胞）の疾患	171	149	155
悪性新生物	23	20	12
良性新生物	4	8	8
顔面骨の骨折	5	8	9
唾液腺疾患	3	3	3
その他	15	27	21

■ 2016年度の評価

2016年度は、５月より１名増員の歯科医師定員４名となったが、10月からは歯科医師の確保困難のため１名欠員となっていた。大坪、藤盛の勤務交代は無かったものの、矢島が３月末で退職し、４月からは嶋﨑と西田が着任して定員の４名体制となった。

前年度と同様に、近隣の歯科医院を中心とした医療機関からの紹介が非常に多く、外来初診は２週間の予約待ちの状態であった。また全身麻酔下の手術については３か月待ち、静脈麻酔下の手術も１か月待ちではあるが、患者待機期間は若干改善した。今後手術枠の増加が望まれるところであったが、麻酔科医の不足により手術枠増は叶わず、現状維持での運用となった。

院内他科と連携して手術やがん治療前後の口腔の管理を行い、がん治療中や治療前後の合併症の抑制が期待できる「周術期口腔機能管理」が定着しつつあった。前年度は手術に関する周術期機能管理の算定が739件(2014年度)から1,747件(2015年度)、1,917件(2016年度)へと順調に増加し、化学療法・放射線療法に関する算定が139件(2014年度)から623件(2015年度)、684件(2016年度)とこちらも増加した。しかしその反面、通常の外来新患や外来手術の時間が圧迫されることにもなった。

このような外来診療と手術の待機期間を短縮し、周術期口腔機能管理を円滑にすすめるためには、歯科医師４名体制の維持が非常に重要である。また、周術期口腔機能管理をさらに強化および拡大するためには、歯科衛生士の増員が望まれる。

■ 2017年度スタッフ構成

歯科口腔外科部長

大　坪　誠　治
- 日本口腔外科学会　専門医

藤　盛　真　樹
- 日本口腔外科学会　専門医
- 日本救急医学会　ICLSコース認定インストラクター

嶋　﨑　康　相
- 日本口腔外科学会　認定医
- 日本救急医学会　ICLSコース認定インストラクター

歯科口腔外科医師

西　田　佳　織
- 日本救急医学会　ICLSコース認定インストラクター

■ 主な対象疾患

口腔顎顔面領域の
- 腫瘍（悪性ならびに良性）
- 炎症
- 外傷
- 嚢胞性疾患
- 粘膜疾患
- 唾液腺疾患
- 顎関節疾患
- 埋伏歯など歯の疾患
- 歯の移植・再植術
- がん支持療法としての歯科疾患全般

■ 特　色

口腔外科疾患全般を対象としているが、顎顔面領域の悪性腫瘍は、形成外科など他の診療科とのチームアプローチによって治療を行う。がん診療連携拠点病院内の歯科口腔外科として、口腔領域のがん支持療法を担う。

■ 臨床研修医教育内容

院内各科をローテートしている臨床研修医に対して、主診療科の指導医とともに、症例を通して歯科口腔外科的疾患に対する教育と研修のサポートを行う。

健康診断部

部長　辻　本　和　代

■ 2017年度の目標及び方針

疾病の早期発見と生活習慣の改善により、受診者の健康の保持増進及び満足度の向上を図ることを目標としている。

■ 2017年度の具体的な重点事項

より信頼される医療機関となるために、医療接遇を大切にします。

ホテルのように最上級の敬語をつかい、深々とお辞儀をしてお見送りをする、といったサービス提供ではなく、患者さんの置かれた状況や立場を考えて、患者さんと同じ目線に立って考え行動することです。

地域の方々が安心して笑顔で受診できる健診診断部を目指していきます。

■ 2016年度実績

内　訳　（件）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
一　般　健　診	1,406	1,409	1,361
特　定　健　診	437	460	418
特定保健指導	87	22	23
人　間　ド　ッ　ク	408	470	483
特　殊　健　診	1,214	970	1,249

■ 2016年度の評価

概ね適切な健診件数を実施することができたため、個人的には満足している。

■ 2016年度スタッフ構成

健康診断部長

辻　本　和　代

■ 特　色

当院の健康診断部では、人間ドックをはじめ、特殊健康診断などを実施しております。

人間ドックと脳ドックの併用健診や多数のオプションを設け、様々なニーズに対応しております。また、人間ドックには、患者さんが院内を迷わないように受診者一人ひとりに女性コンシェルジュが受診が終わるまで対応しており、受診者が安心して受診できる環境を整えております。

中央検査科・病理診断科

部長　高　橋　達　郎

■ 2017年度の目標及び方針

病理部門としては従来から病理診断、細胞診、剖検を三本柱として業務に当たってきたが、今年度も引き続きこれらを中心に取り組むこととする。

各診療科の要望・期待に応えるために関係大学などからの応援体制強化にも努めたい。

■ 2017年度の具体的な重点項目

1）病理医応援体制強化

以前より北大病理学教室とその関連施設（札幌厚生病院病理および旭川医大病院病理部）から病理医の派遣を得ているが、引き続き毎週の出張応援を確保していく。また、剖検についても原則として大学講座等に要請、依頼する。

2）病理診断の大学病理学教室への委託

日常の病理業務をさらに円滑に遂行するために、生検標本等の一部を大学に発送し　病理診断への協力を要請する。

3）診療科医師の学術活動などへの支援

例年各科から学会発表や医学雑誌投稿等に際し、症例の病理写真撮影や説明を要請、依頼される。
今年度も引き続き要望に沿って応えていきたい。

■ 2016年度実績

1）病理組織診…… 3,805件
　うち術中迅速診……95件
2）細胞診…… 1,566件
3）病理解剖……４体
4）臨床病理検討会……２症例

①原発不明の後腹膜腫瘍、多発皮膚転移等を示した剖検例
②治療の効果無く約１年半の経過で死亡した悪性リンパ腫の剖検例

■ 2016年度の評価

1）常勤病理医が２名から１名となり日常業務の負担増は否めなかったが、大学病理学教室からの支援も得て何とか乗り切ってきた。また、これには病理部門をはじめとする中央検査部諸氏の献身的な努力と協力、さらには病院関係者の良き理解に負うところが大きい。誌面を借りて筆者（高橋）からお礼を述べたい。
2）病理診断における免疫組織化学の知見や利用方法は増加する一方であるが、抗体などは当院にとって必要性の高い順に少しずつ追加してきた（造血器疾患や軟部組織腫瘍診断用など）。
3）迅速凍結切片作成装置（クリオスタット）が更新、導入され順調に稼働している。外科からの依頼をはじめとする術中迅速病理診断（ゲフリール診断）に大いに役立っている。

■ 2016年度スタッフ構成

中央検査科部長

高　橋　達　郎
- 日本病理学会　認定病理専門医
- 日本病理学会　研修指導医

■ 特　色

冒頭にも記載のごとく病理組織診断、細胞診、病理解剖を中心として日々の業務に当たっていることは一般的な他施設病理部門と同様と思われる。その中で当部門としては臨床各科へのサービス（診療・学術・教育支援等）に特に意を用いることを心掛けている。具体的な例として下記を挙げておく。

・術中迅速診断への常時対応

予約の有無に拘らず必要な際は常時対応している。

・エコー下細胞診の出張対応

細胞採取時に外来などに臨床検査技師が直接出向き、標本作成、迅速細胞診断に当たっている。

・症例検討・相談への対応

病理室内に多人数用顕微鏡、画像投影用の大型モニター、顕微鏡写真撮影装置などを配しており、担当医等がいつでも利用可能である。また、要請があれば病理医、細胞検査士は説明や相談に応じている。

■ 臨床研修医教育内容

初期研修医の内科研修の一環として病理部門も関わっている。研修医として担当した患者の病理標本の鏡見、臓器切出し時の立会いなどを通して病理への理解を深めることを目指している。病理医は随時相談等に応じている。後期研修医も大学等と連携し受入れ可能であるが、現在まで実現していない。

栄養管理部

部長(事)　宮城島　拓　人

■ 2017年度の目標及び方針

栄養管理室では患者への食事の提供、入院時に栄養管理計画書の作成による栄養評価、栄養相談による患者や家族への適切な栄養管理法の情報提供、ＮＳＴ活動、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームの参加による適切な栄養管理支援を行う役割がある。

栄養指導件数を増加させることにより患者の療養支援を行い、病院の収益にも寄与することへ繋がる。そのための、管理栄養士の栄養管理に関する技術の向上も必要と考える。昨年度は退院後も患者へ適切な栄養管理が継続されるよう栄養管理面での地域連携に対する体制を整備できたため継続して実施できるよう業務の見直しを図り効率よい運用を目指していく。

安心・安全な食事の提供のために定期的な部署内ミーティング、及び嗜好調査を実施し食事内容の質向上を目指していく。

■ 2017年度の具体的な重点項目

（1）栄養指導件数の増加

昨年度に引き続き、管理栄養士を確保し、栄養指導件数・ＮＳＴ件数の増加へつなげていく、新任採用者の院内外の研修参加をサポートし給食管理、栄養指導、チーム医療への参画と段階を経て入院・外来患者の栄養管理を行っていけるよう栄養管理に関する知識の習得へ繋げていく。また、栄養指導件数の増加のため、栄養指導を必要とする患者には医師の了承を得て、退院後の食事療法に関するフォローを外来指導にて実施し、外来指導患者の継続的な関わりを行い療養を支援していく。

（2）栄養管理業務の推進

外来透析の回診への参加を新たな業務として実施することで外来透析患者の栄養管理を医師・看護師と共同で行い、併せて栄養指導件数の増加へ繋げていく。

（3）給食管理における衛生・安全管理の強化

給食委託会社と共同で衛生管理、安全管理を実施していく。委託会社の毎月のインストラクターの巡回による結果報告をもとに、適宜業務改善を検討していく。

■ 2016年度の評価

栄養指導件数は診療報酬の改訂により管理栄養士の人数が定員を満たせず、栄養指導件数の減少がみられた。また、ＮＳＴ活動においては依頼数の減少により栄養サポートチーム加算の算定件数が減少した。

給食管理ではインシデントの件数は42件と昨年度の52件を下回り、毎月の部署内打ち合わせによるインシデント報告、アレルギーの学習会が昨年並みの水準の維持に繋がったと推測される。

地域連携に関しては栄養管理情報書の提供開始に向け運用を検討し運用を開始した。30件／月平均で転院患者の栄養管理情報書の作成を継続している。

■ 特　色

給食管理・栄養管理・治療就労両立支援部活動を実施

給食管理

一般食、特別治療食を調理し個々の病態にあわせた食事を調理し提供しているほか、特別メニュー（選択できる食事）を一般食対象に週３日（水、木、金曜日の昼・夕食）に実施。

栄養管理

栄養管理計画書の作成、栄養指導（個別、集団）の他、褥瘡回診、緩和ケアチーム、ＮＳＴに所属しチーム医療に参加。ＮＳＴは管理栄養士を専従とし、チームマネジメントを実施している。今年度から外来透析回診に参加し、外来透析患者の栄養管理を医師と共同で実施している。

治療就労両立支援部活動：出前講座として生活習慣病予防のための食事について講演を実施している。

中央リハビリテーション部

部長　山田　毅

2017年度の目標及び方針

リハビリテーション科は、開院当初からの運動器疾患や脳血管疾患に加え、内科や外科の内部障害やがん患者への対応を行い、急性期・周術期から、積極的な治療・介入を行っている。近年、リハビリ対象患者の高齢化や疾患・障害構成の多様化、また複数の疾患や障害を抱える方も多くなるなど、対応するスタッフには、質量ともに一層の充実が求められている。

2017年度の重点項目

・地域医療機関との連携

地域連携パスは勿論、その他パスのない疾患・障害に対しても、従来のノウハウを生かしてスムーズに地域へ移行できるように取り組む。整形外来でのリハや、ＩＣＴを用いての広域医療圏における遠隔地対応、地域の青少年の支援など、専門性を持った人材群で取り組む。

・がんのリハビリテーションの推進

がん患者に対するリハビリについては廃用予防や心理的効果は勿論、がんそのものによる障害治療に関係する機能障害、合併症予防や回復など予防的～緩和的な段階まで広く対応する。がん手術前後に「周術期呼吸リハ」を実施し、呼吸器合併症の予防や早期離床などを図る。また、がん患者の上下肢リンパ浮腫・肩関節拘縮予防等リハの提供を行なう。

全スタッフの、がんのリハビリテーション研修会修了を目指す。

・治療就労両立支援

就労年齢の方達の職場復帰や、治療と就労の両立支援を行っていく。特に、長期頻回の化学療法による廃用については、早期からの介入により、効果的な結果を期待出来ると考える。

・内部疾患に対する対応力強化

がんのリハビリテーションに加え、呼吸器疾患や心疾患、外科術前後の全身管理などのスキルを持つ人材を育成し、各科医師、患者･家族からのニーズに的確に応えられるよう体制を整えていく。

2016年度の評価

診療スタッフ16名で診療を行い、入院患者の新患数は2,583名となった。内訳は整形外科519名、内科883名、脳外科621名、外科356名、神経内科121名、形成外科49名、泌尿器科20名、歯科７名、耳鼻科７名となり、全患者の32.2%にあたる833名ががん患者であり、がんのリハビリテーション研修修了者を中心に対応したが、未だ不十分である。

また、整形外科や脳外科からの脊椎脊髄・末梢神経障害患者も354名、運動器疾患735名は全スタッフで対応にあたった。呼吸器疾患や外科の周術期呼吸リハについては、呼吸療法認定士資格を有する３名のスタッフが中心に対応した。十分なリハビリテーション医療を提供するためには、人材確保と質の向上が最重要である。

2016年度スタッフ構成

リハビリテーション科部長

津坂和文

中央リハビリテーション部長

山田　毅（作業療法士）

主任　理学療法士

猪野　勝・石田祥雄
小柳光明

理学療法士

田口暢秀・推井基陽
齋藤輝未・小松広樹
八幡恒平・磯貝由紀子

主任　作業療法士

石田さえ子

作業療法士

吉川　陽・久野紀子
根本祥子

主任　言語聴覚士

菅野栄子

主な対象疾患

[整形外科]

・変形性関節症　・上下肢外傷　・脊椎骨折

[内　科]

・がん　・肺炎　・感染症・炎症

[脳外科]

・脳血管疾患　・末梢神経疾患

[外　科]

・がん　・肺・肝・腸・胆道系疾患

[神経内科]

・神経難病　・脳血管疾患

［形成外科］
• がん　• 褥瘡・潰瘍・熱傷等
［泌尿器科］
• がん
［歯　科］
• がん
［耳鼻科］
• がん

■ 特　色

中央リハビリテーション部は、29年７月現在、医師１名（兼任）、理学療法士10名、作業療法士５名、言語聴覚士２名の総勢18名の体制で日々の診療を行なっている。

リハビリ対象疾患は高齢化やがんサバイバーの増加など疾患構成の変化で、より広範囲で複雑化しており、当院開院当初からの運動器疾患や脳血管疾患に加え、内科や外科の内部障害やがん患者へのリハビリテーションが劇的に増加した。

入院、発症早期からのリハビリの提供は、脳血管障害発症３日以内でのリハビリ開始は勿論、整形外科術前からの介入で早期の機能回復はもとより、患者ニーズの把握・不安軽減にも努めている。また、高齢化に伴い，複数の疾患障害を持つ方も多く（例：パーキンソン病で神経内科通院中の方ががんで内科入院、大腿骨頸部骨折で整形入院の方が肺炎発症等）、複数の診療科にまたがる疾患・障害に対しても患者さんをトータルでみるという総合病院のリハならではの対応をしている。

高齢者の死因の上位を占める肺炎については摂食嚥下訓練、呼吸器、運動器リハ等で予防、回復に努めている。

がん患者に対するリハビリについては、厚生労働省指定の「がんのリハビリテーション研修会」に療法士17名中15名が受講済であり、廃用予防や心理的効果だけでなく、がんそのものによる機能障害、合併症の予防回復など予防的～緩和的な段階まで広く対応している。がん手術前後に「周術期呼吸リハ」実施により、呼吸器合併症の予防や早期離床などを図っている。また、がん患者の上下肢リンパ浮腫・肩関節拘縮予防等リハの提供も行なっている。

今年度１名の言語聴覚士が増員になり、これまでの摂食機能障害やコミュニケーション障害への対応が充実し、耳鼻科や口腔外科領域のがんのリハビリテーションにも積極的に取り組んでいく。

今後は職場復帰や治療と就労の両立支援についても労災病院としてお役に立ちたいと考えている。

整形外来でのリハビリの提供

更にユニークな試みとしては、平成22年より、整形外来に理学療法士を配置し、診察室から直結したリハビリを提供している。内容は、変形性関節症の保存療法や肩・膝痛、腰痛の対応、エクササイズやテーピング指導など様々である。

中央放射線部

部長　立　山　正　美

2017年度の目標及び方針

中央放射線部は放射線や磁場を用いた医療機器を使用して診断を行うための画像検査や、放射線を利用した治療を行う部門です。常に患者さんと接する部門ですので患者さん中心の医療が実現するように努めています。法令を順守し、患者さんの安全に配慮しています。設置後10年を超える機器も多く、少々時代に取り残されている感は否めませんが、少しでも病院の利益につながるようにみんなで頑張っています。

放射線関連でも近年は様々な認定資格制度があります。放射線治療専門技師や放射線治療品質管理士、医学物理士など診療報酬にも結び付く資格があり、積極的に取得させていきたいと考えています。

2017年度の具体的な重点項目

（1）積極的な認定資格取得
（2）最新の技術を導入できるよう部内の勉強会
（3）計画的な機器更新準備
（4）PACS等に接続するモダリティの院内ネットワーク整備等

2016年度の実績

一般撮影患者数	44,208件
ＭＲＩ	8,272件
ＣＴ	16,790件
ＲＩ	683件
透視検査	1,919件
骨塩	1,063件
放射線治療患数	281件

2016年度の評価

月に１回程度で部内勉強会が実施しました。この中では部内にとどまらず医師、看護師も一緒にＲＩ解析ソフト学習会や更新予定の乳腺撮影機器の勉強会も行いました。

これからも技師のみならず、他部門と一緒に勉強会等行う予定です。

検査のオーダー画面の更新を行い、足りないオーダーを増やしたり、整理整頓しました。

そのほか核医学装置の更新が行われました。

2017年度スタッフ構成

スタッフ：19名

［内訳］

- 放射線技師　17名（男性14名、女性３名）
- 助　　手　２名

取得認定

- 放射線取扱主任者Ｉ種　３名
- 放射線治療専門技師　　１名
- 放射線治療品質管理士　１名

主な機器構成

- 一般撮影　５室
- 骨塩測定　１室
- 歯科パノラマ　１台
- 乳腺撮影装置（マンモトーム）　１室
- デジタル透視　２室
- 64列ＣＴ　１室
- ＭＲＩ（1.5T）２室
- ＲＩ検査用ガンマカメラ　１室
- アンギオ室　１室
- リニアック10ＭＶ　１室
- 治療計画用ＣＴシミュレータ　１室
- ポータブル撮影装置　３台
- ポータブル透視装置　３台

中央検査部

部長　藤 井 史 郎

2017年度の目標及び方針

中央検査部では、一般的な総合病院の検査室同様、血液（採血業務補助あり）、輸血･血液製剤管理、一般、生化学・免疫、細菌、病理、生理等の部門ごとに技師を配し業務を行っている。

更に、今年度は病院２階“再開発”に伴い生理検査室の一部移設や検査室内に中央採血室が移設されることになった。中央検査部と中央採血室それぞれの受付からはじまる種々の業務に対し看護部門や事務部門と打合せを重ねて円滑な運用開始を目指したい。

また、今年度も引き続きチーム医療の一員としての自覚を持ち、迅速かつ正確な検査を実施するよう心掛けたい。

具体的な重点項目

1．生理検査に係わる超音波検査や術中モニタリング等の実技を含む勉強会の実施を行い、若手育成に取り組む。
2．各診療科からの要望に応え、また費用対効果などを考慮し、検査項目の追加や削除、院内検査から外部委託検査への移行あるいは逆に外部委託検査から院内検査への取り込みを提案する。
3．これまでと同様、院内での日常的精度管理（内部精度管理）とともに、外部組織が主催する精度管理調査への参加をする。
4．病院２階“再開発”に伴い、生理検査室の一部移設や中央採血室の検査室内への移設が予定されている。移設先での円滑な稼動開始に向けて検査部スタッフ一丸となり準備に取り組む。

2016年度検査実績

	平成27年度検査件数	平成28年度検査件数
尿・糞便等検査	53,102件	52,693件
血液学的検査	259,849件	234,360件
生化学的検査（Ⅰ）	1,225,655件	1,146,945件
生化学的検査（Ⅱ）	46,972件	43,327件
免疫学的検査	112,313件	102,314件
微生物学的検査	21,895件	24,489件
生体検査	24,831件	24,284件
病理学的検査	19,881件	17,276件

2016年度の評価

1．検査値基準範囲の新採用

検査値基準範囲について平成28年10月１日より現在全国的に利用の多い下記に切り替え運用を始めた。

なお、新採用に当たり、事前に各診療科にアンケート調査や説明を実施した結果、戸惑いや混乱などは生じなかった。また、外来などにはリニューアルしたリーフレット「血液・尿検査の読み方」を配し患者サービスにも努めた。今回の措置により全国的な統一基準値も参考出来、日々の診療に資するものと考えられる。

・生化学検査項目
　JCCLS（日本臨床検査標準協議会）共用基準範囲
・血液検査項目
　JSLH（日本検査血液学会）推奨基準範囲

2．外部委託から院内検査への移行（PIVKAⅡ検査）

腫瘍マーカーのひとつPIVKAⅡについて、平成28年７月から院内実施が可能となった。これにより報告までの日数が大幅に短縮された（従来の４～５日が即日に）。検査件数も増加した（従来50件／月、院内検査移行後79件／月）。肝細胞癌などの診療に役立っているものと考えられる。

3．平成28年度中央検査部内勉強会

例年通り毎月１回開催され検査部スタッフは各自でテーマを決めて発表している。また勉強会の機会にあわせて毎回リスクマネージャーによるインシデント事例検討会も行われ改善策などを話し合っている。

4．検査実施総件数

外来患者数減に影響され減少傾向となった。(平成28年度は平成27年度に比べ6.7％減)

5．内部精度管理

生化学、血液、血液ガスは許容範囲内で良好な結果だった。

外部精度管理についても、①日臨技精度管理調査は、99.6％（100.0％中）と良好であった。②日本医師会臨床検査精度管理調査は、93.6点（100点満点中）であった。

2016年度スタッフ構成

常勤医師　１名

中央検査科部長

高　橋　達　郎

中央検査部（臨床検査技師）部長

藤　井　史　郎

中央検査部　主任

井　村　英　利　・　斉　藤　隆　二
根　本　珠　恵　・　遊　佐　純　教
久　末　浩　樹

中央検査部

下　重　龍　也　・　小笠原　由　佳
及　川　比佐子　・　石　橋　芳　昭
下　重　浩　美　・　中　村　明　代
多　田　憲　司　・　北　南　文　絵
横　田　慎　也　・　風　穴　澄　香
小　竹　美智子　・　鈴　木　勝　俊
今　野　里　南

中央検査部（事務等補助員）

佐　藤　小百合（嘱託）

認定資格

中央検査部

- 精度保証認証施設（日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査標準協議会）

個人

- 日本臨床神経生理学会認定技術師（脳波分野）
- 日本臨床神経生理学会認定技術師（筋電図・神経伝導分野）
- 日本糖尿病療養指導士
- 北海道院内臓器移植コーディネーター
- 超音波検査士（健診）
- 第２種ＭＥ技術検定合格者
- 細胞検査士（国内）
- 細胞検査士（国際）
- 特定化学物質・四ア鉛等作業主任者
- 有機溶剤作業主任者

臨床工学部

部長(事)　佐々木　芳　浩

■ 2017年度の目標及び方針

各業務におけるマニュアルを整備しました。スタッフ間ローテーションにより全ての業務を賄える体制作りの継続と実践を目標に、個人のスキルアップ継続に努めます。臨床部門においては、各診療科との情報共有をスムーズに図れるよう努めます。医療機器管理部門は、患者に安全な医療を提供できるよう機器の保守管理をより充実したものとし、トレーサビリティの実践により、機器にかかる時間コストおよび修理コストの軽減を図れるようにします。

■ 2017年度の具体的な重点項目

1）血液浄化室

- 透析装置の更新・透析管理システムの導入があり、機器の使用方法や運用方法も変わったため､操作･使用方法についてのマニュアル作成及びトラブルシューティングを行う。
- 現在の透析装置では水質管理が重要となってきており、現状の水質を維持できる管理及びチェック体制の確立。
- 紙ベースデータ管理ではなく、透析管理システムを用いた患者データ、採血データ管理の一本化を行い、より効率的に患者の治療条件を検討できるようにシステムを活用する。　（担当　川合）

2）高気圧酸素治療業務

高気圧酸素治療（以下ＨＢＯ）は急性期から慢性期まで幅広い治療であり、当院のＨＢＯは耳鼻科の突発性難聴を多く治療しております。昨年度より形成外科領域の難治性潰瘍等のＨＢＯ依頼が多くなり目標が叶った部分もありました。今年度からも形成外科より難治性潰瘍を始め、皮膚移植後の虚血皮弁、急性血行障害などの適応拡大の傾向もありましたので、目標に沿えるように臨床提供できるようしていきます。

ＨＢＯの依頼ですが、昨年までは麻酔科経由での治療依頼でしたが、今年度より各科担当医からの治療依頼となりました。ＨＢＯの治療についてはいつでも技士が対応させていただきます。また、国内外でのＨＢＯの作用機序のレビュー集もありますので、いつでもご連絡いただけたらと思います。当部には、学会認定技師がおりますがＨＢＯ専門医がおりませんので、ＨＢＯについては技士より各科担当医へコンタクトさせていただくこともありますのでご協力お願いいたします。技士は安全安心を心がけておりますので、先生方にはご迷惑をかけぬよう努めてまいりますのでよろしくお願いします。（担当　櫻庭）

3）血液浄化（人工透析を除く）

血液浄化療法は、医師の指示を受けて病棟および外来で治療を行うため、他職種との情報共有が重要となります。治療方法や疾患により適応基準、使用薬剤、使用物品が異なり準備・治療を円滑に行うため、医師、看護師とディスカッションを行いスムーズな対応を心がけます。

また、2017年度より「末梢血幹細胞採取」に使用する装置が更新となり、準備・治療の操作方法が変更になるため、マニュアルの作成、情報共有が出来る体制構築を目指します。　（担当　関）

4）病棟ラウンド

- 積極的な学会出席、認定資格取得
- 各診療科における人工呼吸器装着患者様への積極的な介入
- 医用テレメータ、ベッドサイドモニタなどの使用時の電波障害トラブルの軽減　（担当　綿貫）

5）内視鏡業務

- 内視鏡機器を安全かつ正確に使用するためのスキルアップや、様々な分野の医師・看護師とのコミュニケーションを密にとり、チーム医療としてより良い環境で患者が検査・治療を受けられるような体制を目指します。
- 今年度は胆道鏡（スパイグラス）が導入され、より的確な診断が可能となりました。私たちも触れる機会があまり多くない機械ではありますが、メーカーの方からの説明をしっかり聞き、正確に扱えるようにします。
- 内視鏡室が今後新しくなり、様々な不具合が起こることが予想されますが、それらに対し迅速な対応ができるような体制構築を目指します。（担当　大江）

6）手術室業務

- 機器安全使用のために定期点検を確実に実施する。
- 機器勉強会、メンテナンス講習に参加し院内修理可能機器の増加。

• 鋼製小物を含めた機器管理台数の増加

（担当　山本）

7）ＭＥセンター（医療機器管理）

医療機器管理システムを本格導入し２年が経過しました。登録機器は2,416台となり管理する機器も年々高度、複雑化してきています。

新たに打刻器も導入し、多くの鋼製小物系の管理もしやすくなりました。より完全なトレーサビリティを目指し、患者様に安全な医療を提供できるようスタッフ全員の知識、技術向上に努めていきたいと思います。（担当　廣瀬）

■ 2016年度の評価

全体的に臨床への技術提供および診療の補助においては平年並みの対応ができました。マニュアルにおける業務効率化も安定してきましたが、毎月業務改善を行うことにより、新たなローテーション勤務における個々のストレスを少しでも軽減できたと思います。やはり業務が多岐にわたるが故のスタッフ間情報共有にやや難を示すこともあったため、より一枚岩となる体制づくりが必要だと認識しました。

1）血液浄化センター

装置の更新・管理システム導入に際し、透析機器の操作等をスムーズに対応できるように準備を行ってきたが、実際に稼働してから見えてきた問題点などが多々あり、準備不足が露呈した結果となった。今後の血液浄化センター運用については、これらの経験を生かし、医師・看護師とともにトラブルシューティングを密に行い、準備をしっかり行っていきたいと思う。（担当　川合）

2）高気圧酸素治療業務

H28年度のＨＢＯ年間件数は、計233回でした。平均年間件数はやや減少傾向でしたが、形成外科より急性期、慢性期ともに依頼があり治療件数が増大しました。耳鼻科での突発性難聴が多いですが、整形外科より急性脊髄障害の依頼もありました。

安全面では、治療件数の増加に伴い高気圧専用治療衣を増やしました。ＨＢＯは急性期治療が必要なガス中毒や減圧障害なども適応です。特に道東地区での減圧障害の対応は、ＨＢＯ専門医が不在であるため、技士や専門技師の対応が軸になることがあるため、対応できるよう準備を進めている段階です。

ＨＢＯは技士ひとりで対応しているため、安全管理を基本とし、常に患者様の治療条件や適応判断などの情報収集やアドバイスも心がけています

（担当　櫻庭）

3）血液浄化（人工透析を除く）

前年度より件数は少し増加し、特に「腹水濾過濃縮再静注入法」が多く全件数の半数以上を占めています。神経内科からの「血漿交換療法」「血漿吸着療法」も増加傾向となりました。血液浄化療法は医師から緊急での依頼が多く、使用薬剤や使用物品の手配など他職種や業者と円滑に連絡をとりスムーズに治療を行えるように対応することができました。また、情報の共有として他職種カンファレンスに参加しチーム医療の一員として力を発揮することができました。（担当　関）

4）病棟ラウンド

各外来で使用されているＭＥ機器のトラブル対応、病棟で使用されている医用テレメータやベッドサイドモニタ、ＡＥＤ、除細動器の使用前・使用中点検を毎日実施しています。

医用テレメータなどは古くなったものから機器更新され、年々モニタリングできる台数は増えてはいますが、まだ必要な患者様の生体情報をモニタリングできる訳ではないのが現状です。これを鑑み毎日病棟ラウンドを実施することで、適切な使用方法のチェック、また使用状況を把握することで機器使用の効率化を図ることができました。（担当　綿貫）

5）内視鏡業務

今年度と比較すると昨年度は内視鏡検査件数が多く様々な手技が行われたが、内視鏡スタッフ一人ひとりの知識・技術も向上していたため、安全・的確な検査を行えた。要因として、内視鏡関連学会への積極的な参加や勉強会参加によるもの、また積極的に処置の介助に入り腕を磨くことによるものではないかと考える。

よりよく内視鏡検査を受けてもらうためにも、積極的に学会参加等、処置への介入を行い知識・技術をこれからも磨いていきたい。（担当　大江）

6）手術室業務

手術室で使用している機械だけでなく、鉗子やピンセットなどの鋼製小物の管理台数も年々増加し、28年度末の手術室での機器管理登録数が1,100台を超えました。機械だけでなく鋼製小物を登録し、管理することで同型番の物でも、いつ購入し修理履歴は何回あり、前回の修理からどれくらいの期間が経

っているかなどの機器固有の情報がわかるようになり、購入から修理、廃棄、更新までの流れがスムーズに行われるようになった。　（担当　山本）

7）ＭＥセンター（医療機器管理）

今年度は新たに打刻器を導入し、手術部門における鋼製小物の管理体制を見直しました。これにより医療機器管理システム内での運用がより効率的になり、機器のトレーサビリティの実現に効果を発しました。取り扱う機器は増加していますが、修理およびトラブル件数は平年並みとなりました。

トラブルは20％減、修理は10％増の結果となました。修理を行うことによりトラブルが未然に防げた結果となりました。　（担当　廣瀬）

■ 2017年度スタッフ構成

部　長　（泌尿器科部長）

佐々木　芳　浩　日本泌尿器科学会専門医　指導医
泌尿器腹腔鏡技術認定医

主任臨床工学技士

廣　瀬　孝　則　透析技術認定士
呼吸療法認定士
第１種消化器内視鏡技師
ＭＤＩＣ
第２種ＭＥ技術認定

臨床工学技士

櫻　庭　直　達　高気圧酸素治療専門技師
呼吸療法認定士
特定高圧ガス取扱主任者
第２種ＭＥ技術認定
特定化学物質等作業主任者

関　　貴　洋　透析技術認定士
呼吸療法認定士

山　本　　岳　第２種ＭＥ技術認定

綿　貫　顕　太

川　合　博　貴　第２種ＭＥ技術認定

大　江　悠　輔　第２種ＭＥ技術認定

■ 主な対象疾患

（血液浄化室）

- 糖尿病性糸球体腎硬化症
- 慢性糸球体腎炎
- 腎硬化症
- 多発性のう胞腎
- ２型糖尿病
- IgA腎症

（高気圧酸素治療）

- 突発性難聴
- CO中毒
- 閉塞性動脈硬化症
- 皮弁壊死
- 糖尿病性壊疽
- 脊髄梗塞
- 胸髄損傷
- 頚髄損傷
- 皮膚潰瘍
- 難治性潰瘍
- 放射線性潰瘍
- 化膿性脊椎炎
- 重症下肢虚血
- 左中指不全切断
- 網脈中心動脈閉塞症　等

血液浄化（人工透析を除く）

- 潰瘍性大腸炎
- クローン病
- TTP（血栓性血小板減少性紫斑病）
- 原発性マクログロブリン血症
- GBS（ギランバレー症候群）
- MS（多発性硬化症）
- CIDP（慢性炎症性脱髄性多発神経炎）
- 急性肝不全

（手術室）

- 消化器外科手術（腹腔鏡手術を伴うもの）
- 泌尿器科領域（腹腔鏡手術を伴うもの）
- 白内障（白内障超音波手術器使用を伴うもの）
- 変形性膝関節症（自己血回収を伴うもの）
- 変形性股関節症（自己血回収を伴うもの）
- 腰椎変形すべり症（自己血回収を伴うもの）
- 腰部脊柱管狭窄症（自己血回収を伴うもの）

■ 特　色

地域の他施設に比べ７名と少数ではあるが、スタッフ全員がどの業務にも従事できるような体制を確保しつつ、各診療科からのオーダーには即時対応することにしています。

がん拠点病院であり、多くの癌患者への腹水濃縮濾過再静注入法（以下ＣＡＲＴ）の症例が多く、実施件数については道内でもトップクラスです。今年度は末梢血幹細胞採取装置も新機器を導入し、今後は新しい体制での採取を期待しています。

関わる業務は多岐にわたり、内科、外科、泌尿器科、眼科、整形外科における臨床業務にも関わり、診療の補助を行っています。

医療機器管理については、機器をＭＥセンターで中央管理し、登録機器はもうすぐ2,500台を超えます。これらの対応、情報を一本化し支出の軽減に努めています。

薬剤部

部長　松 田 俊 之

2017年度の目標及び方針

薬剤部理念「薬の専門職として、心ある良質な医療を提供します」

基本方針

1．正しい調剤と薬の適正使用･管理を行います…(物)
2．安全・安心な医療を提供します……(心)
3．各々が成長と貢献を目指します……(人)

具体的には、医薬品の適正使用を通じて「安全・安心で効果的な薬物治療」を提供するために、調剤をはじめ、薬品の供給・管理、薬学的管理及び服薬指導、ＤＩ（医薬品情報）業務、抗がん剤等の調製など多くの業務に携わっている。また、病棟薬剤業務における入院時の持参薬鑑別や病棟担当薬剤師による薬剤管理指導業務を積極的に実施して、患者サービスの向上、医薬品の安全管理と有効性の維持・向上のために鋭意努力している。

これらを通じて、薬剤部は以下の３つの貢献を目標としている。

①診療業務における貢献
②経営と連携における貢献
③教育・研修と臨床研究における貢献

2017年度の具体的な重点項目

・化学療法センターにおける業務の拡充

現在化学療法センターには３名の薬剤師が常駐して、増加しているがん化学療法に対応している。今後は、これまでのレジメン管理・確認や抗がん剤の調製に加えて、がん患者の薬学的管理及び服薬指導を「がん患者指導管理料３」として実践していく。その中で、就労支援における薬学的管理や内服抗がん剤における薬薬連携についても関係各位と協力して実施していく。

・病棟薬剤業務の充実

昨年９月より開始した病棟薬剤業務については、その業務を充実させるために持参薬鑑別時の医師に対する処方提案を周術期管理やポリファーマシー対策という面から強化していく。さらに各種回診やカンファレンスに参加して、薬の専門職としての薬剤師の職能を十分発揮していく。

・薬剤管理指導業務の拡大

本業務については、多くの施設において積極的に実施されるようになってきており、患者からの要望も強く全ての患者に対して実施すべき業務である。しかしながら、当院では６～７割の実施率に留まっている。そこで、現行の業務体制を見直して効率化を図りつつ、薬剤師を増員して早急に100％の実施を目指していきたい。

・抗菌薬適正使用支援チーム（AST：Antimicrobial Stewardship Team）の構築

抗菌薬をはじめとする抗微生物剤への薬剤耐性拡大を防止するために、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが発表され、その戦略のひとつが医療機関における抗菌薬の適正使用推進である。それらを実践するため、既存のICTの取組と抗菌薬適正使用推進のための抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の取組を連携させ、総合的にAMR対策を推進することが求められる。薬剤部では、感染制御に精通した薬剤師が現在行っている取り組みを基にASTを構築して、組織的な抗菌薬の適正使用と薬剤耐性対策を推進していく。

・医薬品安全管理体制の強化

薬物療法を安全に実施していくため、特に麻薬、毒薬、向精神薬、ハイリスク薬について医薬品安全管理責任者を中心に全てのメディカル・スタッフが手順を励行して安全対策を推進していく。さらに医療安全管理者をはじめとする他部署の職員とも十分連携して、必要な安全対策・確認作業及び研修・教育を定期的に行い薬剤関連アクシデントの防止に努める。

・後発医薬品及びバイオシミラーの導入促進

平成28年度の後発医薬品の数量割合は、すでに目標値をクリアしている。これを維持しながら、今後は年間購入金額が大きい品目について、積極的に順次切り替えを行っていく。

・治験体制の整備と実施

現在､当院にはＣＲＣ(認定治験コーディネーター)が不在であるため、ＳＭＯ（治験施設支援機関）の協力のもと治験体制の整備を行うとともに、部内ＣＲＣの養成も並行して行っていく。その上で、ＳＭＯまたは機構本部治験ネットワークからの紹介案件を中心にその実施可能性を十分検討し、関係各位と協力して治験受託・実施に向け取り組んでいく。

・専門・認定薬剤師の育成

薬剤師が薬の専門職として十分な力を発揮して成果をあげられるよう、常日頃から自己研鑽に励むとともに、各種専門・認定薬剤師の取得・更新をサポートできる部内の教育体制を整備し支援していく。

・働きがいのある職場作り

一人一人の薬剤師が働きがいのある職場であることを実感できるよう、薬剤部の環境整備に努めるとともに活気に溢れお互いに協力し合えるような人間関係の構築に努める。

■ 2016年度の評価

2016年度は、薬剤師17名（常勤１名増：欠員補充分）と薬剤助手１名で業務を開始した。診療面においては、2016年９月より病棟薬剤業務を開始した（道東地区初）。また、同年12月より新しい化学療法センターが稼働し、３名の薬剤師が常駐してレジメン管理、抗がん剤の調製、服薬指導等を開始した。これにより、無菌製剤処理料は前年度7,584件から8,033件と増加するとともに、がん患者のホスピタリティーを確保しつつ最新・最良の治療を安全・安心に実施可能な体制となった。一方、薬剤管理指導業務の算定件数は、前年度7,283件から7,176件とほぼ横ばいであった。

経営面においては、病棟薬剤業務の実施による増収があった他、支出面では後発品への積極的な切替えにより薬品費の削減が達成された。加えて、数量ベースでは前年度の78.0％から83.2％に増加した。これにより、国の目標ベースであり、次回診療報酬改定の上限値と予想されている80％超をクリアすることができた。

教育・研修、研究面においては、2016年度中に日本医療薬学会認定薬剤師、同学会がん専門薬剤師、同学会薬物療法専門薬剤師の研修施設としての認定を取得した（いずれも道東地区初）。さらには、各分野を担当する薬剤師が自己研鑽に励むとともに院内・外の研修会の講師や学会発表を行い、他の医療スタッフや地域の薬剤師とともに連携して教育的な立場で積極的に取り組むことができた。

■ 2017年度スタッフ構成

スタッフ：18名

［内訳］

- 薬剤師　17名
- 助　手　１名

取得認定

- 日本医療薬学会指導薬剤師　１名
- 日本医療薬学会認定薬剤師　１名
- 日本薬剤師研修センター認定薬剤師　７名
- 日本病院薬剤師会認定実習指導薬剤師　２名
- 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師　６名
- 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師　１名
- 日本病院薬剤師会感染制御専門薬剤師　１名
- 日本病院薬剤師会HIV感染症薬物療法認定薬剤師　１名
- 日本糖尿病療養指導士　１名
- 日本静脈経腸栄養学会認定栄養サポートチーム専門療法士　２名
- 日本医療情報学会認定医療情報技師　１名

■ 特　色

薬剤部は病棟薬剤業務（道東地区初）及び薬剤管理指導業務を中心に、全病棟に担当薬剤師を配置してチーム医療に積極的に関わっている。院内の医師、看護師、他のメディカル・スタッフとの関係も良好で薬の専門職としての職能を十分発揮している。薬剤部内には、日本医療薬学会指導・認定薬剤師をはじめ、がん薬物療法認定、感染制御専門、ＮＳＴ専門療養士、糖尿病療養指導士、ＨＩＶ感染症薬物療法認定など各種認定・専門資格を有した薬剤師がそれぞれの専門性を生かして多数活躍している。特に抗がん剤の調製件数は道内トップレベルで、がん治療及び緩和領域の診療実績が多い。また、道内でも数少ない各種研修施設（医療薬学会認定、がん専門、薬物療法専門、ＨＩＶ薬物療法）に認定され、学会発表・論文投稿のサポートなど入局薬剤師の成長に必要な環境が整備されている。

看護部

部長　杉　山　好　美

■ 2017年度の目標及び方針

看護部理念

「人としての尊厳を守り、安全、安心、優しさのある看護を実践します」

基本方針

- 患者さんの権利を守り、その人らしさを大切にした看護を実践します。
- 専門知識・技術を高め、科学的根拠に基づいた質の高い看護を実践します。
- 全ての医療従事者と連携し、チーム医療に貢献します。
- 働く人の持てる力を支援し、健康づくりに貢献します。

■ 2017年度の具体的な重点項目

今年度は「私達の目指す看護」を明確にし、日々の看護に取り組みます。

・その時その時に最善を尽くす。

看護の仕事はあらゆる場面で、マニュアル通りに進まない事があります。限られた資源、限られた時間の中でも、相手にとって最善であるように看護します。

・患者さんが納得して治療、看護を受けられるよう意思決定を支援する。

意思決定支援は看護業務実践の主要な部分です。すべての患者さんは自分の健康状態や治療などについて知り、十分な情報がある中で意思決定する権利があります。私達はその人にとって最良の選択ができるよう、寄り添い支援します。

・認知症の理解を深め、持てる力を信じて適切な看護を提供する。

認知症を持ち、看護を受けられる方が、日本の高齢化と共に増加しています。認知症の症状を正しく理解し、対応していく必要があります。認知症対応力向上研修の参加を勧めるとともに部署内で伝達し現場の認知症対応力向上を目指します。

・定期的に看護の質を評価し、改善する。

日本看護協会事業の「労働と看護の質データベースＤｉＮＱＬ」に今年度から参加します。褥瘡、転倒、感染などのデータを入力することにより瞬時に全国の参加病棟とデータの比較ができ、質改善の手掛かりになります。初年度は入力に　慣れることが目標です。

■ 2016年度評価

地域包括ケアシステム推進の病院単位の実践として、退院調整、退院支援が適切かつ効率的に実践できるよう新たに退院支援リンクナース部会を立ち上げ、活動を強化しました。部会では退院支援の実践報告、困難事例、成功事例の共有を図りました。結果として退院支援加算件数は1046件と倍増しました。28年度診療報酬改定で新たに加わった、退院前訪問、退院後訪問も実施しています。

昨年度は認知症患者の理解を目標にあげ、認知症ケア加算に必要な「認知症対応力向上研修」に26名参加しました。今後も、参加を推進し研修修了者を増やし、適切な看護を提供していきたいと思います。

地域がん診療連携拠点病院として専門性の高い看護を提供する使命がありますが、28年度は新たに２名、がん化学療法看護認定看護師の資格を取得し４名となりました。専門・認定看護師は医師からの説明に同席、又は看護師独自で説明指導などあらゆる場面で、意思決定支援や精神的支援を行っております。

■ 2016年度活動実績

1.就業状況

表１　看護部職員状況（2016年４月）

	看護師	准看護師	看護補助者	合　計
正　規	304	8	1	313
嘱　託	9 （再雇１）	4	24	38
合　計	314	12	25	351

表２　2017年度退職者数及び離職率

	退　職　者　数 （内定年・転任）	離　職　率
正　規	24（２）	7.5%（6.9%）
（内新卒）	0	0％

2.看護実習生の受け入れ

表３　看護実習生受け入れ実績

受　入　先	回　数	延べ人数
釧路労災看護専門学校	30回	2,692名
釧路市医師会看護専門学校	２回	174名

3.小中高校生の職場体験受け入れ

表４　小中高校生　職場体験受け入れ実績

学　校　名	学年	人数	実　施　日
中央小学校	6年生	3	6月16日
北海道教育大学附属釧路中学校	3年生	3	7月11日～13日
別海高校	2年生	1	8月2日～3日
横浜看護専門学校	2年生	3	8月16日
光陽小学校	6年生	3	9月13日
明輝高校	1年生	3	10月12日～13日
武修館高校	2年生	4	10月4日～5日
共栄中学校	2年生	3	10月20日
釧路市青陵中学校	2年生	3	11月22日
高校生一日看護体験	16		9月27日

4.研修受講状況

研修参加は、表５ ～ ７に示す

表５　労働者健康福祉機構･ブロック開催研修 参加実績

研　修　名	人数	研　修　名	人数
新任管理職研修	1	新人看護職員教育担当者研修	2
安全対策研修	1	認知症対応力向上研修	9
管理者研修Ⅰ	2	医療メディエーション基礎	1
継続教育担当者研修	2	医療メディエーションフォローアップ	1
新人看護職員教育研修	2	専任教員･臨地実習指導者研修	1
ブロック中堅研修	11	両立支援コーディネーター基礎研修	1

表６　北海道看護協会等主催研修　参加実績

研　修　名	人数	研　修　名	人数
看護基準から学ぶ看護管理	1	認知症対応力向上研修会	24
看護補助者活用推進のための看護管理	6	フィジカルアセスメント	2
看護研究学会	1	認知症看護と家族看護	11
論理的な論文記載方法	2	災害支援ナース交流会	1
今求められている新人教育に学ぼう	3	災害看護Ⅱ	1
摂食・嚥下ケアの基本	2	組織で行う感染管理	8
看護管理Ⅱ	1	新人看護職員研修研修責任者	1
リンパ浮腫ケアの基本	1	家族看護	3
研究クリティーク	1	認知症ケア	1
がん化学療法の基礎知識	3	成人の発達障害の理解と対応	2
看護管理に必要な基礎知識：組織論	1	統計の為のパソコンスキル　アップ	1
問題解決	1	エンド･オブ･ライフケア	2
看護サービスの質管理	1	研究に使える統計学	1
看護サービス提供論	3	現場に活かせるリスクマネジメント	1
その人らしい最期を迎えるために	10	臨地実習指導者	2
看護倫理	6	組織マネジメント基礎理論	1
看護研究のまとめ方	2	災害ナースの基礎知識	1
研究計画書の作り方	4	継続教育担当者の為の企画研修	1
看護管理者研修ファーストレベル	2		

表７　長期研修受講者実績

氏　　名	研　修　名	期　　間
石橋　みよの	専任教員養成講習	平成28年5月～平成29年2月

5.専門看護師・認定看護師公開講座

平成28年11月5日（土）13：00 ～ 17：00

参加人数　19名

講義内容

本　條　友里衣：ABCDストーマケア療を受けている患者の支援について

松　浦　理　沙：悪心・嘔吐ケア

佐々木　朋　子：皮膚障害

神　田　みゆき：疼痛緩和のちょっとしたコツ

6.院外講師派遣実績

表８　2017年度院外講師等派遣実績

実施日	氏　　名	研修会名	依頼元・対象など
H28.１.９	信藤　涼子	医療情報ケアプロセス研究会　座長	医療情報ケアプロセス研究会
H28.２.20	森　美代子	生涯学習啓発釧路町女性のつどい	釧路町教育委員会
H28.２.27	伊藤　織恵	くしろ糖尿病看護研究会講師	アボットジャパン
H28.３.７	森　美代子	国際ソロプチミスト釧路事業　協力	国際ソロプチミスト
H28.３.12	中田　沙織	北海道手術室安全セミナー講師	
H28.３.18	馬場かおり	北海道保健所感染性胃腸炎発生予防 拡大防止支援事業協力	
H28.5.21,22	神田みゆき	緩和ケア研修会	市立釧路病院
H28.５.28	小山内由美 細木　五月	ＩＣＬＳ講習会	ＩＣＬＳ講習会
H28.６.11	中田　沙織	日本手術看護学会北海道地区第１回セミナー	日本手術看護学会
H28.６.18 /8.20/12.3	馬場かおり	ベストプラクティス研究会	ベストプラクティス研究会
H28.６.25	細木　五月	ＩＣＬＳ講習会	ＩＣＬＳ講習会
H28.７.２	中村　公子 本條友里衣	ストーマケアワークショップセミナー	コンバテック
H28.７.９	中田　沙織	日本手術看護学会北海道地区第２回セミナー	日本手術看護学会
H28.７.25	馬場かおり	感染性胃腸炎発生および感染拡大対策支援事業	小規模多機能看護職員現任教育
H28.８.18	馬場かおり	釧路感染対策談話会	大正富山
H28.８.28	雪田　悦子	移植コーディネーター講習会	臓器移植医療推進協議会
H28.９.４	小野　紫穂	釧路町健康フェスティバル	看護協会釧路支部
H28.９.16	中村　公子	褥瘡予防と対策	川湯の森病院
H28.10.27	佐久間祐一	釧根地区老人福祉施設協議会「総合研修」	釧根地区老人福祉施設協議会
H28.11.25	森　美代子	親子で聞こう「がん」こと、 自分で守れる　自分のからだ	幣舞中学校
H28.12.１	森　美代子	乳がん啓発出前講座	弟子屈町

7.看護研究発表

①院内発表

６東　山田　茉依、佐藤　絹江、金谷小百合、
堀田　絵里、伊藤　　愛
：抹消静脈カテーテル自己抜針防止への取り組み
－看護師のせん妄の知識向上と医療安全マニュアルを効果的に活用して－

７東　吉田　沙織、苫　　香苗、大西真由美
：急性病棟における円滑な退院支援を目指して
－退院支援に滞りをきたした大腿骨頚部・大転子部骨折患者の事例検討－

外来　勝木香奈子、鳥居　彩子、三浦　郁恵
：災害を予期した場合の看護師の不安を明らかにする

②院外発表

７西　山中　綾香、甲谷智恵子、小林あゆみ、
玉澤　麻美
：胃ろう造設における家族の代理決定支援
～退院決定プロセスノートを用いて
：釧路支部看護研究合同発表会（H28.1.23 ）

乳がん認定看護師　小野　紫穂、森　美代子
：乳がん患者の乳房補整ケアの効果
～入院前・入院中・退院後初回受診時までのケアを振り返って～
：釧路支部看護研究合同発表会（H28.1.23 ）

手術室　宮脇　良輔、佐賀　利奈、窪木さおり、武田　香苗
：アクションカードを用いた手術室の災害対策
：釧路支部看護研究合同発表会（H28.1.23 ）

8西　佐藤　舞笑、種田　友美、中田　　恵、鈴木梨佳子
：開腹手術における腹帯のあり方
～患者が求めている腹帯の役割～
：釧路支部看護研究合同発表会（H28.1.23 ）

5東　二瓶　安弥、藤原　愛美、板垣なつみ、伊藤　彩未、佐々木祐美
：血液疾患化学療法患者の口腔ケアに関する意識調査
～患者参加型口腔観察シートの導入を試みて～
：第38回　日本造血細胞移植学会（H28.3.4）
：北海道看護協会釧路支部　看護研究合同発表会（H28.11.26）

5東　田口沙由里
：移植後のケアを行う立場から
：弟1回造血幹細胞移植拠点セミナー（H28.4.16）

外来　金森　美香
：道東地区に暮らすHIV陽性者のニーズの把握と看護師に求められる役割
：HIVフォーラム（H28.5.21）

がん専門看護師　門脇　郁美
：緩和ケアに関する一般向け講座の受講によって医療者が得る効果
：第21回　緩和医療学会学術大会（H28.6.17）

4西　大田　涼子、江橋真莉奈、千葉　明子、納夢ひとみ、新岡亜紀子、中村　公子
：頚部の放射線療法による皮膚炎の悪化防止
～放射線療法初回からの有効なスキンケア～
：日本看護学会学術集会　急性期看護（H28.7.16）

4西　梅川恵美子
：日常生活を意識した防災教育
－親子で学ぶゲームを通して－
：日本災害学会　第18回年次大会（H28.8.26）

がん化学療法看護認定看護師
佐々木祐美、村山由佳子
：当院化学療法室におけるオキサルプラチンの過敏症発生状況と看護介入
：日本癌治療学会（H28.10.22）

感染管理認定看護師　馬場　かおり
：介護施設における感染症対策と発生時の対応
：老人福祉施設協議会（H28.11.8）

皮膚・排泄ケア認定看護師
中村　公子、本條友里衣
：術後離解創患者の早期ADL回復に向けた局所陰圧閉鎖療法
－NPWT治療装置（PICO）を使用した２症例（開胸創、胸部正中創）－
：第64回日本職業・災害医学学術大会（H28.10.24）

がん化学療法看護認定看護師
佐々木祐美、村山由佳子
：化学療法室における、内服抗がん剤治療を受ける外来患者との関わり
：北海道看護協会釧路支部
看護研究合同発表会（H28.11.26）

8東　早坂真奈美、河野　詠子、野口　美樹
：終末期患者と家族に対する退院支援・調整の事例を振り返る
～自分達の傾向と問題を明らかにする～
：北海道看護協会釧路支部
看護研究合同発表会（H28.11.26）

Ⅲ．委員会報告

(1)　委員会一覧……61
(2)　委員会活動報告
- 倫理委員会……62
- 地域医療支援運営委員会……63
- 院内研修委員会……66
- 院内感染対策委員会……67
- 化学療法委員会……68
- 臨床研修管理委員会……69
- 医師研修プログラム委員会……70
- 薬事／臨床研究審査委員会……72
- ＤＰＣ／クリニカルパス委員会……75
- 地域医療連携総合センター運営委員会……77
- ＨＩＶ運営委員会……78
- 診療医事業務／査定減対策委員会……79
- 診療情報／個人情報管理委員会……80
- 医療安全推進委員会……82
- 医療情報システム委員会……84
- 機器等整備委員会……86
- 救急診療運営委員会……87
- 緩和医療委員会……88
- 臓器提供委員会……91
- 禁煙実行委員会……92
- がん診療連携拠点病院運営委員会……93
- 診療材料等検討委員会……95
- 血液浄化室安全管理委員会……96
- 在宅医療運営委員会……97
- 公舎管理委員会……98
- 栄養管理／ＮＳＴ委員会……99
- 図書委員会…… 101
- 省エネルギー推進委員会…… 103
- 防災委員会…… 104
- 手術部運営委員会…… 105
- 輸血療法委員会…… 106
- 医療ガス安全管理委員会…… 107
- 褥瘡対策委員会…… 108
- 放射線部安全運営委員会…… 110
- 中央検査部管理運営委員会…… 111
- 健診業務体制整備委員会…… 113
- 保育委員会…… 114
- 広報編集委員会…… 115
- 病院誌「やちぼうず」編集委員会…… 116
- 衛生委員会…… 117
- 患者サービス向上委員会…… 119
- 病院機能評価委員会…… 121
- ドクターズクラーク運営委員会…… 122
- 勤務医／看護職員負担軽減対策委員会…… 123

委員会一覧

- 倫理委員会
- 地域医療支援運営委員会
- 院内研修委員会
- 院内感染対策委員会
- 化学療法委員会
- 臨床研修管理委員会
- 医師研修プログラム委員会
- 薬事／臨床研究審査委員会
- ＤＰＣ／クリニカルパス委員会
- 地域医療連携総合センター運営委員会
- ＨＩＶ運営委員会
- 診療医事業務／査定減対策委員会
- 診療情報／個人情報管理委員会
- 医療安全推進委員会
- 医療情報シムテム委員会
- 機器等整備委員会
- 救急診療運営委員会
- 緩和医療委員会
- 臓器提供委員会
- 禁煙実行委員会
- がん診療連携拠点病院運営委員会
- 診療材料等検討委員会
- 血液浄化室安全管理委員会
- 在宅医療運営委員会
- 公舎管理委員会
- 栄養管理／ＮＳＴ委員会
- 図書委員会
- 省エネルギー推進委員会
- 防災委員会
- 手術部運営委員会
- 輸血療法委員会
- 医療ガス安全管理委員会
- 褥瘡対策委員会
- 放射線部安全運営委員会
- 中央検査部管理運営委員会
- 健診業務体制整備委員会
- 保育委員会
- 広報編集委員会
- 病院誌「やちぼうず」編集委員会
- 衛生委員会
- 患者サービス向上委員会
- 病院機能評価委員会
- ドクターズクラーク運営委員会
- 勤務医／看護職員負担軽減対策委員会

倫理委員会

委員長　津　坂　和　文

■ 目的と方針

当委員会は、院内で行われる治療等についての医の倫理に関するヘルシンキ宣言の趣旨に沿い審議することを目的とする。

■ 主な審議事項

2016年度は、延５件について審査を行った。

審議課題

①じん肺における膠原病、腎症等にANCA関連腎疾患の合併頻度に関する調査
（申請者：医事課　羽澤　正樹）

②上部および下部消化器官手術における手術部位感染（SSI）が勤労者の社会復帰に与える影響に関する研究
（申請者：外科　小笠原　和宏）

③腰下肢痛診療における上殿皮神経障害などの腰椎周辺疾患の臨床的意義の検討
（申請者：脳神経外科　松本　順太郎）

④StageⅠ～ⅢA乳癌切除症例における臨床病理学的因子の測定研究（N・SAS-BC 01/CUBC 測定研究）
（申請者：外科　小笠原　和宏）

⑤意思決定が困難で、代理意思決定者不在患者への説明と同意のあり方について
（申請者：医療安全推進委員会　小笠原　和宏）

■ 委員会の構成

委　員：10名
（2017年３月現在、委員長、書記を含む）

〔内　訳〕

- 院内委員：８名
- 院外委員：２名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日
倫理委員会（３回開催）

回　数	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月27日	10名	100.0%
第２回	2016年６月23日	８名	80.0%
第３回	2017年３月30日	８名	80.0%

地域医療支援病院運営委員会

委員長　野々村　克　也

■ 目的と方針

本委員会は、病院が地域のかかりつけ医等からの要請に適切に対応し、地域における医療の確保のために必要な支援を行うように定めた、地域医療支援病院に関する事項について審議し、病院の管理者に意見を述べるものとする。

■ 2017年度の目標

（1）地域医療機関からの紹介患者に対する医療提供を行い、地域医療支援病院の承認要件の達成。

（2）地域医療機関との医療機器及び入院設備などの共同利用の推進。

（3）救急医療の提供。

（4）地域の医療従事者及び市民への研修会や講演会の実施。

■ 委員会の構成

委　員：18名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

〔内　訳〕

- 院内委員：８名
- 院外委員：10名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と協議内容

地域医療支援病院運営委員会（４回開催）

回　数	開　催　日	出席人数	出席率
第15回	2016年５月19日(木)	17名	94.4%
第16回	2016年９月２日(金)	18名	100.0%
第17回	2016年12月26日(月)	18名	100.0%
第18回	2017年３月23日(木)	16名	88.9%

※第16、17回については、委員会参加者の都合により日程調整がつかなかったことから、実績報告ならびに質疑応答等を配布することにより、委員会開催とする。

■ 審議内容

（1）2016年５月19日（木）「大会議室」

- 業務実績報告について
- 平成27年度患者満足度調査報告
- 釧路労災病院に対する要望等事項について

（2）2016年９月２日（金）

- 業務実績報告について
- 釧路労災病院に対する要望等事項について
- 釧路労災病院の登録医（登録医療機関）について

（3）2016年12月26日（月）

- 業務実績報告について
- 釧路労災病院に対する要望等事項について
- セカンドオピニオンに関する取組と実績について

（4）2017年３月23日（木）「大会議室」

- 業務実績報告について
- 平成28年度病病・病診連携サービス実態調査結果報告
- 釧路労災病院に対する要望等事項について
- 釧路労災病院次年度の診療体制について

■ 年間活動実績

業務実績	28年度実績
紹介率	70%
逆紹介率	52.9%
開放病床	
医科	０件
歯科	５件
高額医療機器共同利用	
リニアック	185件
ＣＴ	36件
ＭＲＩ	７件
内視鏡	２件
図書室利用	３件
カンファレンス参加状況	
医科	１件
歯科	６件
講演会・研修回実施状況	
医療従事者向け講演会	12回
市民向け講演会等	５回
研修会等	３回

平成28年度　地域医療連携公開講座開催実績

	開催日	会場	時間	内容	院内	院外	計	主催
1	2016/4/27	講堂	17:30～19:30	医療講演会　～患者接遇研修～「つながる心と接遇」 〔講師〕縁結実　代表　重田　由美 氏	138	7	145	釧路労災病院
2	2016/5/16	講堂	18:00～19:00	医療講演会 ～自分を知る「自分の健康は自分で守る」～ 〔講師〕北海道産業保健総合支援センター　メンタルヘルス対策促進員 北海道社会保険労務士会釧路支部　理事 一般社団法人　社労士成年後見センター北海道　理事 日本年金機構　年金委員ファイナンシャル・プランナー 伊藤　邦子 氏	84	2	86	釧路労災病院
3	2016/5/28	講堂	16:30～17:30	第10回　道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会・研修会 「ＨＩＶ・ＡＩＤＳ患者への地域連携における現状と課題」 〔講師〕国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター　看護支援調整職 池田　和子 氏	36	47	83	釧路労災病院
4	2016/6/24	講堂	18:30～20:00	釧路Ｂ型肝炎ウイルス再活性化対策セミナー 「当院におけるＨＢＶマーカー検査の現状」 〔講師〕釧路労災病院　内科部長　寺下　勝巳 氏 「Ｂ型肝炎再活性化対策～現状と問題点」 〔講師〕北海道大学大学院医学研究科内科学講座 消化器内科学分野　助教　森川　賢一 氏	19	31	50	ブリストル・マイヤーズスクイブ㈱ （後援） 釧路労災病院
5	2016/6/25	釧路生涯学習センター 市	15:00～17:00	市民公開講座 「食道がんってどんな病気？」 ～病気を知って予防・治療しよう！～ 〔講師〕社会医療法人　恵佑会第2病院長　高橋　宏明 氏 「進行食道がんの治療」 〔講師〕社会医療法人　恵佑会理事長　細川　正夫 氏	10	161	171	大日本住友製薬㈱ （後援） 杉元内科医院 釧路労災病院 恵佑会
6	2016/7/2	講堂	13:00～17:30	医療講演会・研修会「道東ストーマケアセミナー2016」 〔講師〕釧路労災病院　皮膚・排泄ケア認定看護師 中村　公子 氏 コンバテック　ジャパン㈱　皮膚・排泄ケア認定看護師 増川美加子 氏	10	38	48	コンバテックジャパン㈱ （後援） 釧路労災病院
7	2016/7/6	講堂	13:00～17:30	医療講演会 「リハビリテーションの視点からみた認知症診断」 〔講師〕札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座　教授 札幌医科大学付属病院リハビリテーション部　部長 石合　純夫 氏	93	47	140	釧路労災病院
8	2016/7/23	釧路プリンスホテル	13:00～15:00	市民公開講座 「道東医療従事者と先端医療の展開」 「本邦・北海道の移植医療　Update」 〔講師〕旭川医科大学　教授 旭川医科大学病院　副院長　古川　博之 氏 「ハイリスク症例における治療前のコミュニケーションについて」 〔講師〕コロンビア大学医療センター内科　成人緩和医療 中川　俊一 氏	26	46	72	北海道移植医療推進協議会 釧路労災病院 釧路市医師会
9	2016/8/6	講堂	13:00～17:00	高校生のための医療福祉体験セミナー In くしろ地域		75	75	釧路労災病院
10	2016/8/23	講堂	18:00～19:30	職員研修会 「感染予防と病院環境整備」 〔講師〕株式会社エスアールエル　感染防止商品グループ	229	2	231	釧路労災病院

	開 催 日	会場	時間	内　　容	院内	院外	計	主　催
11	2016/ 8 /29	講堂	18:30～ 19:30	医療講演会 「がんとなったがん治療医からの提言」 ～患者となって見えたもの。考えたこと～ 〔講師〕日本赤十字社　金沢赤十字病院　副院長 （兼第一外科部長）　西村　元一 氏	54	61	115	釧路労災病院
12	2016/ 9 /10 ～ 11	講堂	9:00～ 17:00 9:00～ 16:00	釧路労災病院緩和ケア研修会	44	10	54	釧路労災病院
13	2016/10/ 2	講堂	13:00～ 15:00	市民公開講座　がんと闘う　乳がん体験者の語り 「最近の乳がん治療最前線」 〔講師〕釧路労災病院　副院長・乳腺専門医 小笠原　和　宏 氏 「乳がん体験者の語り」「乳がん啓発活動報告」 「乳がん自己検診法の体験」	21	152	173	釧路労災病院
14	2016/10/ 9	講堂	16:00～ 17:00	第一回　地平線会議（2016ケニア帰国報告会） 〔報告者〕釧路労災病院　内科医　宮城島拓人 〃　山村　貴洋 歯科医　藤盛　真樹 あんずの種　鍼灸師　畠中　美希	34	56	90	イルファー釧路 釧路労災病院
15	2016/10/18	講堂	18:45～ 20:00	多職種連携研修会「釧路労災病院ｄｅサロン」	23	52	75	ＣＣＬ（ククル） （後援） 釧路労災病院
16	2016/11/ 5	大会議室	13:00～ 16:30	専門・認定看護師公開講座　誰でも分かる！使える！ これからのストーマ周囲皮膚障害重症度評価 「ＡＢＣＤ-Ｓｔｏｍａケア」を知ろう、学ぼう 皮膚・排泄ケア認定看護師　本條友里衣 悪心・嘔吐ケア（ガイドラインに基づいて） 皮膚障害について（ＨＦＳを中心に） がん化学療法看護認定看護師 松浦　理沙・佐々木朋子 疼痛緩和のちょっとしたコツ 緩和ケア認定看護師　神田みゆき	20	18	38	釧路労災病院
17	2016/12/ 3	講堂	17:00～ 18:30	市民講演会　師走講演会 「私の歩んだ道のり点…あれから10年。 そして、これからの10年にむけて」 〔講師〕ひょうご人権ネットワーク会議構成団体BASEKOBE代表 自由民主党性的指向・性自認に関する特命委員会アドバイザー 兵庫医療大学看護学部召請講師 繁内　幸治 氏	16	66	82	イルファー釧路 （共催） 釧路労災病院 （後援） 釧路市医師会
18	2016/12/17	講堂	15:40～ 19:30	緩和ケア市民公開講座　「緩和ケアとは」 〔講師〕釧路労災病院　副院長　小笠原和宏　氏 「在宅緩和ケアの実際」 〔講師〕杉元内科医院　院長　杉元　重治　氏	11	55	66	釧路労災病院
19	2017/1/26	講堂	18:00～ 19:00	職員研修会　～感染対策研修～ 「手指衛生の重要性と実践」 〔講師〕東京サラヤ㈱　学術部　羽鳥　真美　氏	228	5	233	釧路労災病院
20	2017/2/10	大会議室	18:00～ 19:00	医療講演会　「地域で行っている食べるための支援」 〔講師〕長崎大学歯学部非常勤講師 長崎大学工学部非常勤講師 長崎歯科衛生士専門学校非常勤講師 長崎医療技術専門学校非常勤講師 つのまち歯科医院　院長　角町　正勝　氏	31	56	87	釧路労災病院 ＮＳＴ委員会

院内研修委員会

委員長　野々村　克　也

■ 目的と方針

職員の資質向上を目的とし、職員研修会の企画及び実施を円滑に遂行する。

■ 2017年度の目標

研修会の開催時期、開始時間等を検討し参加人数の増を目指す。

■ 委員会の構成

委　員：13名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

〔内訳〕

- 医　　師：２名
- 看　護　師：１名
- 放射線技士：１名
- 薬　剤　師：１名
- 理学療法士：１名
- 臨床工学技士：１名
- 臨床検査技師：１名
- 事　　務　　部：５名

■ 審議内容

回 数	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年５月11日(水)	12名	92.3%
第２回	2017年２月22日(水)	13名	100.0%
第３回	2017年３月17日(金)	13名	100.0%

（１）2016年５月11日（水）「大会議室」

- 2016年度委員会規程について
- 2015年度研修実績および2016年度研修計画について

（２）2017年２月22日（水）「大会議室」

- 2017年度職員研修会計画について
- 2017年度委員会規程について

（３）2017年３月17日（金）「持ち回り開催」

- 2017年度職員研修会計画について

2017年度研修会計画（案）

開催月	テ　ー　マ（内容）
４月	接遇について（e－ラーニング）
５月	個人情報・コンプライアンス（外部講師）
６月	医療安全対策
７月	感染対策
８月	認知症患者に対する対応またはアンガーマネジメント（認定看護師）
９月	釧路、道東地域に関する地域医療構想（外部講師）
10月	ハラスメントについて（外部講師）
11月	医療事故調査制度について（外部講師）
１月	感染対策

■ 年間活動実績

2016年度研修会開催実績

開催日	開催時間	テーマ（内容）	講　　師	参加人数
４月27日(水)	17:30～18:30	患者接遇について	縁結美　重田氏	140人
５月16日(月)	18:00～19:00	セルフケア	北海道産業保健総合支援センター 伊藤氏	86人
６月14日(火)	18:00～19:00	ストーキングを防ぐ・止める・解決するには	ＮＰＯヒューマニティー　小早川氏	230人
７月６日(水)	18:00～19:00	リハビリテーションの視点からみた認知症診療	札幌医科大学リハビリテーション医学講座 教授　石合氏	140人
８月23日(火)	18:00～19:00	感染予防と病院環境整備	株式会社エスアールエル　大畑氏	231人
９月30日(金)	18:00～19:00	地域包括ケア時代におけるDPC病院の役割とデータマネジメント	東京医療保健大学医療保健学部 准教授　瀬戸氏	53人
10月６日(木)	18:00～19:00	ふまねっと運動の認知機能改善効果とデュアルタスク理論	北海道教育大学釧路校　教授　北澤氏	49人
11月４日(金)	18:00～19:00	医療機関における個人情報保護	弁護士法人　伊藤佑輔法律事務所 伊藤氏	229人
２月５日(金)	18:00～19:00	手指衛生の重要性と実践	東京サラヤ株式会社　羽鳥氏	228人

※開催曜日等を工夫することにより前年度より多くの参加者を得ることができたので、次年度をつなげていきたい。

院内感染対策委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

ＭＲＳＡ・ＨＢＶ・ＨＣＶ等の感染の防止に資することを目的とする。

■ 2017年度の目標

（1）院内感染の調査研究
（2）院内感染の防止対策
（3）院内感染症に対する職員の啓発

■ 委員会の構成

委　員：19名
（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：７名
- 看護師：４名
- 医療職：５名
- 事務部：３名

■ 年間活動

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月19日(火)	19名	100.0%
第２回	2016年５月17日(火)	19名	100.0%
第３回	2016年６月21日(火)	17名	89.5%
第４回	2016年７月19日(火)	16名	84.2%
第５回	2016年８月16日(火)	18名	94.7%
第６回	2016年９月20日(火)	18名	94.7%
第７回	2016年10月18日(火)	17名	89.5%
第８回	2016年11月15日(火)	18名	94.7%
第９回	2016年12月20日(火)	18名	94.7%
第10回	2017年１月17日(火)	19名	100.0%
第11回	2017年２月21日(火)	19名	100.0%
第12回	2017年３月21日(火)	16名	84.2%

■ 審議内容

（1）2016年４月19日（火）「小会議室」

- 平成27年度針刺し・血液曝露事故結果
- 平成28年度診療報酬改定疑義照会について

（2）2016年５月17日（火）「小会議室」

- ヘキザック・トランスファデバイス導入と血液培養結果について

（3）2016年６月21日（火）「小会議室」

- 相互評価ラウンドについて
- 平成28年度インフルエンザHAワクチンの供給について

（4）2016年７月19日（火）「小会議室」

- 感染防止対策地域連携加算チェック項目表について

（5）2016年８月16日（火）「小会議室」

- 平成28年度ICTラウンド年間計画について

（6）2016年９月20日（火）「小会議室」

- 患者浴槽水のレジオネラ培養検査報告
- 冷却塔水のレジオネラ培養検査報告

（7）2016年10月18日（火）「小会議室」

- 院内感染対策マニュアル・院内感染対策の指針について
- 抗菌薬使用動向調査システムへの参加について

（8）2016年11月15日（火）「小会議室」

- 感染防止対策に関する取組事項
- 院内感染対策マニュアル・院内感染対策の指針について

（9）2016年12月20日（火）「小会議室」

- 感染防止対策に関する取組事項
- 手指消毒薬変更について

(10) 2017年１月17日（火）「小会議室」

- 28年度インフルエンザ発生状況
- 消化器軟性内視鏡定期培養検査報告

(11) 2017年２月21日（火）「小会議室」

- 院内感染対策マニュアルの改定について

(12) 2017年３月21日（火）「小会議室」

- 平成29年度ＩＣＴラウンド年間計画表について
- 平成29年度委員会規程（案）について

■ 年間活動実績

（1）ＭＲＳＡ・ＭＤＲＰ発生報告
（2）主な細菌検出と針刺し状況報告
（3）院内ラウンド報告
（4）耐性菌ラウンド報告
（5）材料・診療科・病棟別検出菌数報告
（6）４類・５類感染症発生件数報告
（7）保育所・栄養管理室、大腸菌検出報告
（8）抗生剤・抗ＭＲＳＡ薬使用状況報告
（9）他施設とのカンファレンス報告

化学療法委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

本委員会は、当院における外来化学療法を安全に実施することを目的とする。

■ 2017年度の目標

- 化学療法室の円滑な運営を図るため、また、外来化学療法センター開設に向けて、化学療法の運営に関する事項、その他必要と認められる事項を審議する。
- 院内化学療法レジメンの妥当性を審議し、整備する。
- 化学療法に関する実績分析と安全対策に関することを審議する。

■ 委員会の構成

委　員：12名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：５名
- 看護師：２名
- 医療職：３名
- 事務部：２名

■ 年間活動

2016年度開催日と審議内容、実績

化学療法委員会（５回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年６月21日(火)	10名	83.3%
第２回	2016年９月13日(火)	10名	83.3%
第３回	2016年12月２日(金)	12名	100.0%
第４回	2016年12月27日(火)	11名	91.7%
第５回	2017年３月24日(金)	19名	75.0%

■ 審議内容

（１）2016年６月21日（火）「大会議室」

- 平成28年度委員会規程について
- 平成27年度・28年度入院・外来化学療法室科別患者数調べ
- 新規プロトコールの申請（６件）
- 「ベルケイド」レジメンの修正について

（２）2016年９月13日（火）「小会議室」

- 平成28年度入院・外来化学療法室科別患者数調べ
- 新規プロトコールの申請（２件）
- 「外来化学療法運用」の変更について
- RevMate遵守状況確認票について

（３）2016年12月２日（金）「中会議室」

- 化学療法センターの運用について

（４）2016年12月27日（金）「小会議室」

- 平成28年度入院・外来化学療法室科別患者数調べ
- 新規プロトコールの申請（２件）
- 化学療法センターについて

（５）2017年３月24日（金）「化学療法センター内カンファレンスルーム」

- 平成28年度入院・外来化学療法室科別患者数調べ
- 新規プロトコールの申請（４件）
- 化学療法室の近況について

■ 年間活動実績

●外来化学療法件数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
356	360	398	371	445	390	348	353	338	365	383	409	4,516

※対前年度比：323件の増

●入院化学療法件数

４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
292	318	316	322	293	248	269	278	256	256	281	304	3,433

※対前年度比：42件の増

臨床研修管理委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

臨床研修管理委員会は、臨床研修医（初期・後期）の受け入れ等について円滑な実施を図ることを目的とする。

■ 2017年度の目標

臨床研修プログラムの策定、見直し、臨床研修医の受入体制の整備、臨床研修実施計画を立案し、臨床研修医の評価及び修了認定を行う。

■ 委員会の構成

委　員：22名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：12名
- 薬 剤 師：１名
- 看 護 師：１名
- 事 務 員：２名
- 外部委員：６名

■ 年間活動

2016年度の開催日と協議内容

臨床研修管理委員会（１回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第１回	2017年３月21日(火)	17名	77.3%

■ 審議内容

（１）2017年３月21日（火）「大会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- 平成28年度第２年次研修医の修了評価について
- 北海道の臨床研修病院合同プレゼンテーションのスケジュールについて

■ 年間活動実績

修了式を実施し、２名の研修医が修了証を院長より手渡された。

医師研修プログラム委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

医師研修プログラム委員会は、臨床研修医及び専攻医の研修に対し、円滑な実施及び評価を図ることを目的とする。

■ 2017年度の目標

臨床研修プログラムの策定、見直し、臨床研修医の受入体制の整備、臨床研修実施計画を立案し、臨床研修医の評価及び修了認定を行う。また、各基幹施設に設置される管理委員会と連携を図り、プログラム委員会として専攻医の研修を管理、評価する。

■ 委員会の構成

委　員：16名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：12名
- 薬剤師：１名
- 看護師：１名
- 事務員：２名

■ 年間活動

2016年度の開催日と協議内容

臨床研修管理委員会（11回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月19日(火)	16名	100.0%
第２回	2016年５月17日(火)	16名	100.0%
第３回	2016年６月21日(火)	14名	87.5%
第４回	2016年７月19日(火)	14名	87.5%
第５回	2016年８月16日(火)	14名	87.5%
第６回	2016年９月20日(火)	14名	87.5%
第７回	2016年10月24日(月)	14名	87.5%
第８回	2016年11月15日(火)	14名	87.5%
第９回	2016年12月20日(火)	14名	87.5%
第10回	2017年１月17日(火)	14名	87.5%
第11回	2017年２月21日(火)	14名	87.5%

■ 審議内容

（１）2016年４月19日（火）「小会議室」

- 28年度委員会規程について
- 臨床研修医の研修状況について
- 北海道臨床研修病院プレゼンテーション2016札幌の結果報告

（２）2016年５月17日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- レジナビフェアin東京2016参加者について
- マッチングスケジュールについて

（３）2016年６月21日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- レジナビフェアin東京2016について
- 病院見学者状況
- 研修医の確保について

（４）2016年７月19日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- レジナビフェアin東京2016報告
- マッチング面接者現状報告

（５）2016年８月16日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- マッチング面接者現状報告

（６）2016年９月20日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- マッチング面接者現状報告

（７）2016年10月24日（月）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- マッチング結果発表
- 北海道医師会による臨床研修医との懇談会について

（８）2016年11月15日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- 北海道医師会による臨床研修医との懇談会について

（９）2016年12月20日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- 平成29年度北海道大学病院からのたすきがけ受入について
- 釧路赤十字病院よりエムスリーフォーラム(仮)へ参加のお誘い

(10) 2017年１月17日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- 平成29年度初期臨床研修医について

(11) 2017年２月21日（火）「小会議室」

- 臨床研修医の研修状況について
- 平成29年度初期臨床（１年次）ローテーション等について
- 臨床研修病院合同説明会について

■ 2016年度採用活動

１）北海道臨床研修病院合同プレゼンテーション2016【札幌】
場所・日時：札幌パークホテル
平成28年４月17日（日）

２）レジナビフェア2016【東京】
場所・日時：東京ビックサイト（東京都）
平成28年７月17日（日）

■ 2016年度採用状況

試験申込数：５名であった。この５名について、マッチング協議会が行うマッチング制度にかけた結果当院、臨床研修医受入枠３名のところ、１名のマッチングという結果になった。

29年度研修医数は１年次３名（北大たすきがけ２名含む）、２年次０名の合計３名となった。

薬事／臨床研究審査委員会

委員長　宮城島　拓　人

（薬　事）

■ 目的と基本方針

薬事委員会は、医薬品の適正使用を推進するため、医薬品の管理運営・新規医薬品の採用・既採用医薬品の整理並びに薬事全般に関わる事項を検討し、診療業務の向上と病院経営に寄与することを目的とする。

■ 2017年度の目標

診療に必要かつ医療安全上の観点から最適な医薬品を選定する。また、各科医師の協力を得て採用医薬品の見直しを行い、採用医薬品数の削減に努めるとともに、後発医薬品への切替を推進し、病院経営に貢献する。

■ 委員会の構成

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

委　員：11名　　委　員：14名

（薬事）〔内訳〕

- 医　師：６名
- 看護師：１名
- 医療安全管理者：１名
- 事務局：２名
- 書　記：１名(薬剤師)

（臨床研究）〔内訳〕

- 医　　師：７名
- 看 護 師：１名
- 医療安全管理者：１名
- 事 務 局：２名
- 外部委員：２名
- 書　　記：１名(薬剤師)

■ 年間活動

2016年度の開催日と審議内容

薬事委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月18日(月)	８名	66.7%
第２回	2016年５月16日(月)	９名	75.0%
第３回	2016年６月13日(月)	10名	83.3%
第４回	2016年７月11日(月)	７名	58.3%
第５回	2016年８月８日(月)	７名	58.3%
第６回	2016年９月12日(月)	９名	75.0%
第７回	2016年10月17日(月)	９名	75.0%
第８回	2016年11月21日(月)	10名	83.3%
第９回	2016年12月19日(月)	７名	58.3%
第10回	2017年１月16日(月)	８名	66.7%
第11回	2017年２月13日(月)	９名	75.0%
第12回	2017年３月13日(月)	９名	75.0%

■ 審議内容

（１）2016年４月18日（金）「小会議室」

- エンピナースＰ錠とレフトーゼ錠再評価後製造中止報告。
- 採用薬：注射薬１品目　内服薬２品目
  外用薬０品目（院外採用１品目、規格・剤形追加各１品目含）
- 削除薬：注射薬０品目　内服薬２品目
  外用薬０品目

（２）2016年５月16日（金）「小会議室」

- 採用薬：注射薬０品目　内服薬６品目
  外用薬０品目（院外採用４品目含）
- 削除薬：注射薬１品目　内服薬１品目
  外用薬０品目

（３）2016年６月13日（金）「小会議室」

- 削除薬品可否調査を行い、７品目の採用中止と１品目の院外専用薬移行が承認された。
- 採用薬：注射薬０品目　内服薬１品目
  外用薬０品目（規格追加）
- 削除薬：注射薬０品目　内服薬０品目
  外用薬０品目

（４）2016年７月11日（金）「小会議室」

- 平成28年度第Ｉ期後発薬品を選定を行い、３品目の後発薬品の変更が承認された。
- 採用薬：注射薬４品目　内服薬４品目
  外用薬１品目（院外採用１品目、規格追加１品目含）
- 削除薬：注射薬２品目　内服薬５品目
  外用薬０品目

（５）2016年８月８日（金）「小会議室」

- 院内製剤（１％酸化亜鉛液）の審議を行う。
- 採用薬：注射薬１品目　内服薬４品目
  外用薬２品目（院外採用１品目、規格追加１品目含）
- 削除薬：注射薬１品目　内服薬３品目
  外用薬２品目

（６）2016年９月12日（金）「小会議室」

- 採用薬：注射薬１品目　内服薬４品目
  外用薬０品目（院外採用２品目含）
- 削除薬：注射薬０品目　内服薬３品目
  外用薬０品目

（7）2016年10月17日（金）「小会議室」
- エチゾラム錠とゾピクロン錠が第３種向精神薬に指定され、投薬日数が30日に制限される。
- セレニカＲ錠の医薬品安全性情報報告書（肝障害）説明。
- 採用薬：注射薬０品目　内服薬１品目
  外用薬１品目（院外採用１品目含）
- 削除薬：注射薬０品目　内服薬２品目
  外用薬０品目

（8）2016年11月21日（金）「小会議室」
- 平成27年度第Ⅱ期後発薬品選定を行い、２品目の後発薬品の変更が承認された(共同購入入札)。
- 採用薬：注射薬１品目　内服薬５品目
  外用薬２品目（院外採用２品目、規格追加１品目含）
- 削除薬：注射薬１品目　内服薬３品目
  外用薬１品目

（9）2016年12月19日（金）「小会議室」
- 削除薬品可否調査を行う。
- 抗血栓薬休薬期間一覧の改定を行う。
- 採用薬：注射薬２品目　内服薬４品目
  外用薬０品目（院外採用２品目含）
- 削除薬：注射薬１品目　内服薬３品目
  外用薬１品目

（10）2017年１月16日（金）「中会議室」
- アービタックス注射液100㎎の医薬品安全性情報報告書（Infusion reaction）説明。
- 削除薬品可否調査の結果、７品目の採用中止が承認された。
- 採用薬：注射薬２品目　内服薬３品目
  外用薬２品目（院外採用１品目含）
- 削除薬：注射薬１品目　内服薬４品目
  外用薬１品目

（11）2017年２月13日（金）「中会議室」
- 院内製剤（ダラシンパテ）の審議を行い承認された。
- 採用薬：注射薬１品目　内服薬４品目
  外用薬０品目（院外採用３品目含）
- 削除薬：注射薬１品目　内服薬１品目
  外用薬０品目

（12）2017年３月13日（金）「中会議室」
- 平成27年度第Ⅲ期後発薬品選定を行い、２品目の後発薬品の変更が承認された。
- 医療安全対策情報「麻薬施用者免許廃止後の医師による麻薬処方について」
- 平成29年度に向けて薬事委員会規定の見直しを行う。
- 採用薬：注射薬１品目　内服薬５品目
  外用薬０品目（院外採用４品目含）
- 削除薬：注射薬１品目　内服薬１品目
  外用薬０品目

■ 年間活動実績

（2016年度採用・削除薬品　総計）

全申請数　61品目
院内採用　39品目　院外採用　22品目
院内削除　42品目　院外削除　０品目

（後発薬品への切替）

2016年４月より順次７品目を後発薬品に切替えた。
注射薬３品目　内服薬３品目　外用薬１品目

（臨床研究）

■ 目的と基本方針

本委員会は、当院で実施される臨床研究が、「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「医療機器の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「個人情報の保護に関する法律」及び、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に基づいて、科学的かつ倫理的に実施されることを目的とする。

■ 2017年度の目標

（１）機構の治験ネットワークなどを利用した開発治験を実施するための審議を行う。
（２）医師主導による臨床研究を実施するための審議を行う。
（３）医薬品の製造販売後の調査実施のための審議を行う。
（４）医薬品の副作用詳細調査報告のための審議を行う。

■ 年間活動

2016年度の開催日と審議内容

臨床研究審査委員会（９回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月18日(月)	９名	64.2%
第２回	2016年５月16日(月)	11名	78.6%
第３回	2016年６月13日(月)	12名	85.8%
第４回	2016年９月12日(月)	９名	64.2%
第５回	2016年10月17日(月)	９名	64.2%
第６回	2016年11月21日(月)	11名	78.6%
第７回	2017年１月16日(月)	11名	78.6%
第８回	2017年２月13日(月)	11名	78.6%
第９回	2017年３月13日(月)	10名	71.4%

■ 審議内容

（１）2016年４月18日（月）「小会議室」

- 新規申請　臨床研究　3件
  報告事項（迅速審査）
- 変更申請　臨床研究　１件

（２）2016年５月16日（月）「小会議室」

- 継続申請　臨床研究　２件
  報告事項（迅速審査）
- 変更申請　臨床研究　１件

（３）2016年６月13日（月）「小会議室」

・新規申請　臨床研究　２件

（４）2016年９月12日（月）「小会議室」

- 新規申請　臨床研究　３件
  報告事項（迅速審査）
- 新規申請　製造販売後調査　１件
  副作用詳細調査　２件
- 変更申請　臨床研究　１件
  製造販売後調査　４件

（５）2016年10月17日（月）「小会議室」

議事録概要の当院ホームページへの掲載について審議し承認された。

- 新規申請　臨床研究　４件

（６）2016年11月21日（月）「小会議室」

- 新規申請　臨床研究　４件
- 継続申請　臨床研究　２件
  報告事項（迅速審査）
- 新規申請　製造販売後調査　２件

（７）2017年１月16日（月）「中会議室」

- 新規申請　臨床研究　７件
  報告事項（迅速審査）
- 新規申請　製造販売後調査　４件
  副作用詳細調査　２件
- 変更申請　臨床研究　１件
  製造販売後調査　１件

（８）2016年２月13日（月）「中会議室」

- 新規申請　臨床研究　１件
  報告事項（迅速審査）
- 新規申請　製造販売後調査　３件
- 変更申請　製造販売後調査　１件

（９）2016年３月13日（月）「中会議室」

委員会規定の委員に「医療安全管理者」を追加することを審議し承認された。

臨床研究実施申請書等様式の変更について審議し承認された。

- 新規申請　臨床研究　８件
- 継続申請　臨床研究　５件
  報告事項（迅速審査）
- 変更申請　臨床研究　３件
  製造販売後調査　１件

■ 年間活動実績

- 新規申請　臨床研究　32件
  製造販売後調査　９件
  副作用詳細調査　４件
- 継続申請　臨床研究　９件
- 変更申請　臨床研究　６件
  製造販売後調査　７件

ＤＰＣ／クリニカルパス委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

ＤＰＣ／クリニカルパス委員会は、ＤＰＣ対象病院の要件である適切なコーディングを行う体制を確保するための委員会として設置され、医療の標準化と透明化を計り、医療サービスの質の向上およびクリニカルパスの効果的な運用と経営の改善を目的とする。

■ 2017年度の目標

（１）院内電子クリニカルパスの新規作成及び見直し
（２）クリニカルパス勉強会の開催
（３）ＤＰＣ請求における適切なコーディングの検証

■ 委員会の構成

委　員：27名
（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：７名
- 看　護　師：４名
- 薬　剤　部：２名
- リハビリ部：２名
- 放 射 線 部：１名
- 検　査　部：１名
- 事　務　部：10名

■ 年間活動

2016年度開催日と審議内容
ＤＰＣ/クリニカルパス委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月26日(火)	17名	63.0%
第２回	2016年５月20日(金)	16名	59.3%
第３回	2016年６月24日(金)	18名	66.7%
第４回	2016年７月21日(木)	18名	66.7%
第５回	2016年８月19日(金)	14名	51.9%
第６回	2016年９月29日(木)	15名	55.6%
第７回	2016年10月４日(火)	15名	55.6%
第８回	2016年11月28日(月)	15名	55.6%
第９回	2016年12月26日(月)	16名	57.1%
第10回	2017年１月27日(金)	16名	57.1%
第11回	2017年２月23日(木)	18名	64.3%
第12回	2017年３月24日(金)	14名	50.0%

■ 審議内容

（１）2016年４月26日（火）「大会議室」

- ＤＰＣ／クリニカルパス委員会規程(案)について
- 今年度活動予定について＜クリニカルパス＞
- クリニカルパスに係る活動報告について
- ＤＰＣパスの見直し（分析）について

（２）2016年５月20日（金）「大会議室」

- クリニカルパスに係る活動報告について

（３）2016年６月24日（金）「大会議室」

- クリニカルパスに係る活動報告について
- 適切なコーディングについて
- ＤＰＣ分析について

（４）2016年７月21日（木）「大会議室」

- クリニカルパスに係る活動報告について
- 患者用クリニカルパスの見直しについて
- ＤＰＣ分析について

（５）2016年８月19日「大会議室」

- クリニカルパスに係る活動報告について
- ポリペクトミー(入院前)パスの取り扱いについて
- ＤＰＣ分析による見直しについて

（６）2016年９月29日（木）「大会議室」

- クリニカルパスに係る活動報告について
- ＤＰＣ分析について
- 病院情報の公開について
- 適切なコーディングについて

（７）2016年10月４日（火）「小会議室」

- 大腸ポリペクパスの説明について

（８）2016年11月28日（月）「講堂」

- 市立釧路総合病院クリニカルパス大会について
- クリニカルパスに係る活動報告について
- クリニカルパス修正・新規作成、今後の進め方について
- ＤＰＣ分析について
- 委員の増員について

（９）2016年12月26日（月）「大会議室」

- クリニカルパス作成・運用マニュアル（案）について
- クリニカルパスに係る活動報告について
- ＢＯＭ（Basic Outcome Master）を導入したクリニカルパスについて

• ＤＰＣ分析について

（10）2017年１月27日（金）「大会議室」

• クリニカルパス作成・運用マニュアル（案）について
• クリニカルパスに係る活動報告について
• 適切なコーディング及びＤＰＣ分析について

（11）2017年２月23日（木）「大会議室」

• クリニカルパス作成・運用マニュアルの一部追記について
• クリニカルパスに係る活動報告について
• ＤＰＣ分析について

（12）2017年３月24（金）「大会議室」

• クリニカルパスに係る活動報告について
• パス管理者について
• 適切なコーディングについて
• ＤＰＣ係数について

■ 年間活動実績

【クリニカルパス作成に係る活動について】

• クリニカルパス作成・運用マニュアルの作成
• ＢＯＭを導入したモデルパスの作成
• バリアンス分析の実施

【適切なコーディングについて】

	事　例	検　証
６月	乳がん術後のリンパ浮腫症候群	「乳がん術後」の病名から「乳房切除後リンパ浮腫症候群」に変更
９月	腎のう瘍から発症した敗血症	腎膿瘍の疑いで入院、ガンマグロブリン、高額抗生剤を使用していたことに着目し敗血症を発症していたことから病名を変更
１月	詳細不明コードの検証	病原体不明の急性扁桃炎 （Ｊ039：不明コード）より症状が悪化していたため扁桃周囲炎（Ｊ36）へ変更
２月	詳細不明コードの検証	末梢神経障害（Ｇ629：詳細不明コード）より、患者が疼痛を訴えることが多いことから末梢神経障害性疼痛（Ｇ64）に変更

【ＤＰＣ分析について】

４月	遺伝性ニューロパチーのＤＰＣパスの検証
６月	入院期間Ⅱ以内に退院した症例について
７月	非ホジキンリンパ腫に対しリツキサン及びジーラスタを投与した症例の検証
８月	肘・膝の外傷による手術症例のＤＰＣパスの検証
９月	大腸ポリペクのＤＰＣパスの検証
11月	後発医薬品数の数量シェア及びＤＰＣコード：070343xx967x０xx （脊柱管狭窄、腰部骨盤、不安定椎、その他の手術処置２なし）の検証
12月	急性白血病に対してビダーザを用いた症例の検証
１月	扁桃周囲膿瘍／扁桃浮腫のＤＰＣパスの検証
２月	非ホジキンリンパ腫に対しベンダムスチンとリツキサンを投与した症例の検証

地域医療連携総合センター運営委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

本委員会は、地域医療連携総合センターの円滑な運営を行なうために、各部門より報告を行い、情報を共有し連携を図ることで、地域医療の質の向上に貢献寄与することを目的とする。また、機能分担、専門性を明確にした他医療施設との連携強化を推進する。

■ 2017年度の目標

（1）広報誌の定期的発行（地域医療連携総合センターだよりの毎月発行）
（2）地域医療機関との連携強化
（3）退院調整部門とＭＳＷが連携を図り、スムーズな退院・転院をサポートする。
（4）治療就労両立支援事業の強化

■ 委員会の構成

委　員：22名
（2017年３月現在、委員長・書記を含む）
［内　訳］
- 医　師：　９名
- 看護師：　５名
- 医療職：　３名
- 事　務：　５名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と協議内容
地域医療連携総合センター運営委員会（６回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月15日(金)	20名	91.0%
第２回	2016年６月16日(木)	21名	95.5%
第３回	2016年８月18日(木)	20名	91.0%
第４回	2016年10月20日(木)	20名	91.0%
第５回	2016年12月15日(木)	20名	91.0%
第６回	2017年２月16日(木)	19名	86.4%

■ 審議内容

（1）2016年４月15日（金）「大会議室」
- 委員会規程について
- 紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- 退院調整実績報告
- 退院施設入所等動向報告　がん相談件数報告
- 病床管理現況報告
- 放射線治療受入体制及び運用について

（2）2016年６月16日（木）「大会議室」
- 紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- 退院調整実績報告
- 退院施設入所等動向報告　がん相談件数報告
- 病床管理現況報告（長期入院患者報告　他）

（3）2016年８月18日（木）「大会議室」
- 紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- 退院調整実績報告
- 退院施設入所等動向報告　がん相談件数報告
- 病床管理現況報告（長期入院患者報告　他）

（4）2016年10月20日（木）「大会議室」
- 紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- 退院調整実績報告
- 退院施設入所等動向報告　がん相談件数報告
- 病床管理現況報告
- 退院支援リンクナース部会活動報告

（5）2016年12月15日（木）「大会議室」
- 紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- 退院調整実績報告
- 退院施設入所等動向報告　がん相談件数報告
- 病床管理現況報告（病床決定の再検討　他）

（6）2017年 ２月16日（木）「大会議室」
- 紹介率 逆紹介率報告 地域医療支援病院関係報告
- 退院調整実績報告
- 退院施設入所等動向報告　がん相談件数報告
- 病床管理現況報告（病床管理手順　他）

■ 年間活動実績

- 隔週金曜日に地域医療連携総合センター内で、問題点等の報告を行い検討する打合せを実施。

（平成2016年度　19回実施）

ＨＩＶ運営委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

ＨＩＶ運営委員会は、エイズ患者の診断的治療のケア実践及び近隣地域住民を対象にエイズ・性感染症に関する正しい知識の普及・啓発の推進を図ることを目的とする。

■ 2017年度の目標

エイズ・性感染症の予防・啓発に関する支援、情報収集・発信及び職員の教育を行う。また、エイズ患者における診療体制を整備し、必要な事案を実施する。

■ 委員会の構成

委　員：16名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：４名
- 薬　剤　師：１名
- 看　護　師：２名
- 臨床検査技師：１名
- 理学療法士：１名
- 心理判定員：１名
- ＭＳＷ：１名
- 事　務　局：４名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と協議内容

ＨＩＶ運営委員会（３回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年５月２日(月)	14名	87.5%
第２回	2016年10月６日(木)	14名	87.5%
第３回	2016年11月７日(月)	16名	100.0%

■ 審議内容

（１）2016年５月２日（月）「大会議室」

- エイズ治療中核拠点対策推進事業27年度決算報告・28年度計画
- 第10回道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会・研修会について

（２）2016年10月６日（木）「小会議室」

- 「くしろ健康まつり2016」について

（３）2016年11月７日（月）「小会議室」

- 「第13回師走講演会」について

■ 年間活動実績

５月　第10回道東地区エイズ拠点病院等連絡協議会

日時：平成28年５月28日（土）

①協議会：15：00 ～ 16：00

②研修会：16：00 ～ 17：00

講師：国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院
エイズ治療・研究開発センター
看護支援調整職　池田　和子氏

演題：ＨＩＶ・ＡＩＤＳ患者への地域連携における現状と課題

10月　くしろ健康まつり　2016

日時：平成28年10月16日（日）

開始：９：00 ～ 15：00

11月　第13回　師走講演会

日時：平成28年12月３日（土）

開始：17：00 ～ 19：00

講師：ひょうご人権ネットワーク会議構成団体
BASE KOBE代表
自由民主党性的指向・性自認に関する特命委員会アドバイザー
兵庫医療大学看護学部招請講師　繁内　幸治氏

演題：私の歩んだ道のり…あれから10年。そして、これからの10年にむけて

診療医事業務／査定減対策委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

本委員会は、医事業務の運用にあたって、医療、看護、事務等各部門の調整と問題点の改善を図ることを目的とする。

■ 2017年度の目標

（1）医事関連業務の実施、現状分析と不完全事項の確認
（2）解決策と実施計画の決定
（3）運営上の調整
（4）査定減対策
（5）その他医事業務に関して

■ 委員会の構成

委　員：29名
（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：16名
- 看護師：3名
- 医療職：5名
- 事務局：5名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容
診療医事業務／査定減対策委員会（11回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2016年4月22日(金)	21名	72.4%
第2回	2016年5月27日(金)	21名	72.4%
第3回	2016年6月23日(木)	22名	75.9%
第4回	2016年8月25日(木)	22名	75.9%
第5回	2016年9月29日(木)	22名	75.9%
第6回	2016年10月26日(水)	22名	75.9%
第7回	2016年11月22日(火)	22名	75.9%
第8回	2016年12月22日(木)	25名	86.2%
第9回	2017年1月19日(木)	26名	89.7%
第10回	2017年2月23日(木)	24名	82.8%
第11回	2017年3月23日(木)	29名	100.0%

■ 審議内容

（1）2016年4月22日(金)〔大会議室〕

- 委員会規程について
- 査定減報告について
- 大型連休に関する患者確保対策について

（2）2016年5月27日(金)〔大会議室〕

- 査定減報告について

（3）2016年6月23日(木)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 一部検査項目の院内検査導入について
- 臨床検査に係るJCCLS共用基準範囲の採用について

（4）2016年8月25日(木)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 病棟薬剤業務の運用について

（5）2016年9月29日(木)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 管理料算定について

（6）2016年10月26日(水)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 患者配布資料等の一元化管理について

（7）2016年11月22日(火)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 転院患者における栄養管理情報書の導入について
- 年末年始に関する患者確保対策について

（8）2016年12月22日(木)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 入院診療計画書の運用について

（9）2017年1月19日(木)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 外来基本票搬送時間の変更について
- 他科受診に関する運用変更について

(10) 2017年2月23日(木)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 一部検査項目の外部委託導入について

(11) 2017年3月23日(木)〔大会議室〕

- 査定減報告について
- 委員会規程の見直しについて

診療情報／個人情報管理委員会

委員長　小笠原　和　宏

（診療情報）

■ 目的と方針

診療情報管理全般について審議し、診療情報整理業務の質的向上を図るため、指導と援助を行う。

■ 2017年度の目標

（1）入院診療録の退院後2週間以内の回収を100%

（2）入院診療録の質的向上

■ 委員会の構成

（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

委　員：18名

（診療情報）［内訳］

- 医　　師：7名
- 看　護　師：3名
- 薬　剤　部：1名
- リハビリ部：1名
- 放 射 線 部：1名
- 検　査　部：1名
- 事　務　局：4名

委　員：21名

（個人情報）［内訳］

- 医　　師：7名
- 看　護　師：3名
- 医　療　職：4名
- 事　務　局：7名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

診療情報管理委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2016年4月8日(金)	15	83.3%
第2回	2016年5月13日(金)	17	94.4%
第3回	2016年6月10日(金)	16	88.9%
第4回	2016年7月8日(金)	14	77.8%
第5回	2016年8月12日(金)	17	94.4%
第6回	2016年9月9日(金)	17	94.4%
第7回	2016年10月14日(金)	16	88.9%
第8回	2016年11月11日(金)	14	77.8%
第9回	2016年12月9日(金)	17	94.4%
第10回	2017年1月13日(金)	16	88.9%
第11回	2017年2月10日(金)	16	88.9%
第12回	2017年3月10日(金)	17	94.4%

■ 審議内容

（1）2016年4月8日（金）「大会議室」

- 診療録未回収状況および2週間回収率について
- 入院診療録質的監査実施要領（案）について
- 医師診療録記載マニュアルについて

（2）2016年5月13日（金）「大会議室」

- 診療録未回収状況および2週間回収率について
- 入院診療録質的監査（8西・8東）について
- 入院診療要約書の一部変更について
- 医師診療録記載マニュアル（案）について

（3）2016年6月10日（金）「大会議室」

- H28年度診療録等廃棄について
- 院内画像取り込み（媒体形式の追加）について
- 診療録未回収状況および2週間回収率について
- 入院診療録質的監査（7西・7東）について
- 診療録記載マニュアルについて

（4）2016年7月8日（金）「大会議室」

- 入院診療計画書について
- 診療録未回収状況および2週間回収率について
- 入院診療録質的監査（6西・6東）について
- 新生物登録票の書式変更について

（5）2016年8月12日（金）「大会議室」

- スキャン時の画像の画質をあげることについて
- 紹介状のスキャン後の保管場所について
- 診療録未回収状況および2週間回収率について
- 入院診療録質的監査（5西・5東）について
- 入院診療計画書について

（6）2016年9月9日（金）「大会議室」

- 診療録未回収状況および2週間回収率について
- 入院診療録質的監査（4西）について
- 紹介状の保存先について
- 診断書等の依頼するときの紙カルテについて
- スキャン時の画像の画質をあげることについて

（7）2016年10月14日（金）「大会議室」

- 紹介状の保存先について
- 診療録未回収状況および2週間回収率について
- H28年度入院診療録廃棄等の報告

（8）2016年11月11日（金）「大会議室」

- 紹介状の保存先について
- メディネットたんちょうの契約について
- 診療録未回収状況および2週間回収率について
- 入院診療録質的監査（8西・8東）について

（9）2016年12月９日（金）「大会議室」

- 紹介状のデータ移行について
- 診療録の記載内容について
- 診療録未回収状況および２週間回収率について
- 入院診療録質的監査（７西・７東）について

（10）2017年１月13日（金）「大会議室」

- 入院診療録の記載方法について
- 記載表現について
- 診療録未回収状況および２週間回収率について
- 入院診療録質的監査（６西・６東）について

（11）2017年２月10日（金）「大会議室」

- 入院診療録の記載方法について
- 不適切と思われる表現の記載方法について(案)
- MSWや退院調整Nsの記載表記について
- 診療録未回収状況および２週間回収率について
- 入院診療録質的監査（５西・５東）について

（12）2017年３月10日（金）「大会議室」

- 入院診療録質的監査における監査項目の見直しについて
- MSWや退院調整Nsの記載表記について
- 診療録未回収状況および２週間回収率について
- 入院診療録質的監査（４西）および見直しについて

■ 年間活動実績

診療録未回収状況

（委員会報告時の前月分回収率）

報告月	回収率	退院数
４月	99.0%	808
５月	100.0%	741
６月	99.0%	628
７月	98.3%	751
８月	100.0%	794
９月	97.2%	760
10月	100.0%	736
11月	97.7%	687
12月	97.7%	700
１月	100.0%	798
２月	98.3%	644
３月	97.5%	728

２週間回収率

報告月	回収率
４月	100.0%
５月	100.0%
６月	100.0%
７月	100.0%
８月	100.0%
９月	100.0%
10月	100.0%
11月	100.0%
12月	100.0%
１月	100.0%
２月	100.0%
３月	100.0%
年間	100.0%

＊入院診療録質的監査別添

（個人情報）

■ 目的と方針

院内の情報セキュリティを維持するために必要な手続きや組織内でのマネジメントシステムを構築して、個人情報を適切に保護することを目的とする。

■ 2017年度の目標

（１）ポリシーが遵守されているかの定期的な確認と問題点及び改善。

（２）情報セキュリティに関する教育・啓蒙活動

■ 年間活動

2016年度開催日と審議内容

個人情報管理委員会（１回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2015年４月８日(金)	17名	80.9%

■ 審議内容

（１）2016年４月８日（金）　大会議室

- ＳＮＳ等で、個人情報を安易に書き込まないこと。
- 個人情報の管理や、持ち出しのチェック体制を徹底する。
- 電子カルテからの患者情報を使用する際は、ルールを徹底し、院外に持ち出す際には、暗号化すること。
- 個人情報保護管理体制は、承認する。

■ 実　績

- 個人情報保護管理体制の徹底。

医療安全推進委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

本委員会は、当院における医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するために必要な事項を定めることを目的とする。

■ 2017年度の目標

医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立する。特に、侵襲的処置・検査における安全対策の実施定着化、緊急時の対応ができる職員育成を目指す。０レポート報告書提出の徹底を目指す。

■ 委員会の構成

委　員：17名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：３名
- 看護職：４名
- 医療職：６名
- 事務局：４名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

医療安全推進委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月20日(水)	16名	94.1%
第２回	2016年５月18日(水)	14名	82.4%
第３回	2016年６月15日(水)	16名	94.1%
第４回	2016年７月20日(水)	15名	88.2%
第５回	2016年８月17日(水)	14名	82.4%
第６回	2016年９月21日(水)	15名	88.2%
第７回	2016年10月19日(水)	16名	94.1%
第８回	2016年11月16日(水)	16名	94.1%
第９回	2016年12月21日(水)	15名	88.2%
第10回	2017年１月18日(水)	15名	88.2%
第11回	2017年２月15日(水)	14名	82.4%
第12回	2017年３月15日(水)	15名	88.2%

■ 審議内容

（１）2016年４月20日(水)〔大会議室〕

- 委員会規程について
- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について
- 平成27年度概況報告

（２）2016年５月18日（水）〔大会議室〕

- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について

（３）2016年６月15日（水）〔大会議室〕

- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について
- 平成28年度医療安全確保のための改善計画書について

（４）2016年７月20日（水）〔大会議室〕

- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について
- ＭＲＩ撮影時の一部貼付剤の取扱いについて
- 売店での刃物販売における一部制限について

（５）2016年８月17日（水）〔大会議室〕

- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について

（６）2016年９月21日（水）〔大会議室〕

- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について
- 転倒・転落発生後観察シート導入について
- 医薬品安全使用のための業務手順書の一部改訂について
- 平成28年度医薬品安全管理研修等の行動計画と実績報告について

（７）2016年10月19日（水）〔大会議室〕

- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について
- 医療安全管理のための指針及び医療安全管理体制組織表の一部改訂について
- 労災病院間医療安全相互チェック実施計画について

（８）2016年11月16日（水）〔大会議室〕

- インシデント・アクシデント報告について

- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について
- 平成28年度医療安全推進週間について
- 医療安全管理者における業務規程の一部改訂について
- ＡＥＤ配置場所の変更について

（9）2016年12月21日（水）〔大会議室〕
- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について
- 「説明と同意」マニュアル及び医療安全部規程の改訂について
- 労災病院間医療安全相互チェック実施の評価について
- 平成28年度医療安全推進週間における取り組み事例の報告について
- 手術・侵襲的手技前における当院採用抗血栓薬休薬期間一覧の改訂について

（10）2017年１月18日（水）〔大会議室〕
- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について

（11）2017年２月15日（水）〔大会議室〕
- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について

（12）2017年３月15日（水）〔大会議室〕
- インシデント・アクシデント報告について
- リスクマネージャ部会報告について
- 医療安全に係るカンファレンス報告について
- 平成28年度医療安全研修会の参加状況について

■ 年間活動実績

【インシデント・アクシデント報告件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累　計
0	79	58	56	61	70	64	48	46	23	28	31	29	593
1	88	76	92	93	114	87	87	73	72	84	73	78	1,017
2	41	19	37	27	41	34	32	37	57	22	33	48	428
3 a	6	5	6	9	12	6	7	9	6	6	10	7	89
3 b	1	2	2	3	1	1	3	3	1	2	1	0	20
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	215	160	193	193	238	192	177	168	159	142	148	162	2,147

【医療安全対策研修会開催状況】

	開　催　日	テ　ー　マ	出席人数
第１回	平成28年６月14日(火)	ストーキングを防ぐ・止める・解決するにはどうしたらよいか	229名
第２回	平成28年８月31日(水)	抗血栓薬と麻薬を安全・安心に取り扱うために	84名
第３回	平成28年11月４日(金)	医療機関における個人情報保護 ～ＳＮＳへの投稿を巡って～	443名
第４回	平成29年２月３日(金)	医薬品安全管理を取り巻く最近の話題 医療安全相互チェックの提言に関する報告	404名

医療情報システム委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

本委員会は、電子カルテシステムを中核として各部門との連携を図り、情報の相互利用・共有化を実施するため、その取扱い及び管理に関し必要な事項を審議し、当院において診療情報を適正に管理・利用することを目的とする。

■ 2017年度の目標

本委員会は、電子カルテシステムを中核として各部門との連携を図り、情報の相互利用・

（1）基幹システムの対応年数を見据えて、中長期的な更新計画を立案し、投資金額を把握する。（システム連絡票）を整理する。

（2）システム更新を見据え、基幹システム及び各部門システムにおける障害発生（システム連絡票）を整理する。

■ 委員会の構成

委　員：11名　※6月より12名

（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：2名
- 看護師：4名
- 事務局：6名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

診療情報システム委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2016年4月26日(火)	10名	90.9%
第2回	2016年5月24日(火)	10名	90.9%
第3回	2016年6月28日(火)	10名	83.3%
第4回	2016年7月26日(火)	11名	91.7%
第5回	2016年8月30日(火)	10名	83.3%
第6回	2016年9月27日(火)	10名	83.3%
第7回	2016年10月25日(火)	11名	91.7%
第8回	2016年11月29日(火)	11名	91.7%
第9回	2016年12月27日(火)	11名	91.7%
第10回	2017年1月24日(火)	11名	91.7%
第11回	2017年2月28日(火)	11名	91.7%
第12回	2017年3月28日(火)	11名	91.7%

■ 審議内容

（1）2016年4月26日（火）「大会議室」

- 電子カルテシステム「付箋機能」添付場所のルール設定について

（2）2016年5月24日（火）「大会議室」

- 業務効率化に向け、ダイナミックテンプレートの説明について

（3）2016年6月28日（火）「大会議室」

- 業務効率化に向け、ダイナミックテンプレートの推奨について

（4）2016年7月26日（火）「大会議室」

- ステロイドカバーをシステム上で確認(表示方法)について

（5）2016年8月30日（火）「大会議室」

- 同一患者に対する手術手技入力枠の追加について

（6）2016年9月27日（火）「大会議室」

- 手術オーダ入力時点に、出張医師の名前が把握できない場合の対応について

（7）2016年10月25日（火）「大会議室」

- 看護計画（入院診療計画書）のフォーマット変更について
- 看護記録タイトル名の減少について
- MRスクリーニングオーダの準緊急ボタン使用中止について
- DVT（深部静脈血栓症）オーダ項目の追加について
- CTアンギオ（CTA）検査予約枠の変更（案）について

（8）2016年11月29日（火）「大会議室」

- 基幹システム端末のフルスキャン実施について

（9）2016年12月27日（火）「大会議室」

- 形成外科疾患登録システム（NCD）仕様変更に伴う要望について
- 診療情報提供書の閲覧権限について
- 新規採用者向け電子カルテシステム操作訓練について

（10）2017年 1 月24日（火）「大会議室」

- 採取ラベルに採取指示時間を印字する（案）について
- 採取ラベルに診察時間を印字する（案）について
- 冠CTA検査説明用紙の変更について
- 基幹システム端末のフルスキャン実施時間の見直しについて
- 看護師ID権限の見直しについて

（11）2017年 2 月28日（火）「大会議室」

- 平成29年度「本委員会規程」の見直しについて
- マスタ管理者専用IDの付与について

（12）2017年 3 月28日（火）「大会議室」

- 撮影オーダメニュー「両大腿、両膝」の削除について
- 新規採用者向け電子カルテシステム操作訓練日の開催案内等について

■ 年間活動実績

医療情報システム委員会は、より効率的かつ安全に業務を遂行するため毎月定期開催を実施している。電子カルテシステム導入から 2 年が経過し安定的なシステム運用となっているため、2016年度より委員会構成メンバーを半減させた。

2016年度　承認事項　20項目

機器等整備委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

機器等整備委員会は、機器等整備計画の作成及び購入する機種の適正な選定に資すること、購入機器の活用状況を確認することを目的とした病院長の諮問機関とする。

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年６月20日(月)	19	90.5%
第２回	2016年９月28日(水)	17	80.9%
第３回	2016年10月14日(金)	16	76.2%
第４回	2016年12月26日(月)	18	75.7%

■ 2017年度の目標

1. 人工透析装置、眼科部門システム、マンモグラフィ及びマンモトームシステムの高額機器をリースで購入予定。
2. Ｑスイッチルビーレーザー、胆道内視鏡システム等41点、総額約164,000千円の機器を収支状況により購入予定。

■ 委員会の構成

委　員 ： 21名 (2017年３月現在、委員長･書記を含む)

[内　訳]

- 医　師：10名
- 看護師：２名
- 医療職：５名
- 事務局：４名

■ 年間活動内容

2016年度開催日と協議内容

機器等整備委員会（４回開催）

■ 審議内容

（１）2016年６月20日（月）

- 平成29年度機器等整備計画説明書の提出要領について
- 平成28年度機器等整備計画、計画外機械備品の整備について

（２）2016年９月28日（水）

- 平成28年度器等整備計画、計画外機械備品の整備について
- 平成29年度機器等整備計画各部署計画要求について

（３）2016年10月14日（金）

- 平成29年度の機器等整備計画について

（４）2016年12月26日（月）

- 平成29年度機器等整備計画の優先順位について
- 予算計上外の要求機器について

■ 実　績

- 平成28年度機器等整備
- 平成28年度機器等整備リース
- 平成28年度機器等整備（計画外機器）

■ 2016年度導入機器一覧表

No.	品　名・規　格	数量	メ　ー　カ　ー　名	導入月
1	電動式骨手術器械	１式	㈱モリタ	H28.5
2	超音波白内障手術用ハンドピース	１式	日本アルコン㈱	H28.5
3	血球成分除去療法装置	１式	㈱ＪＩＭＲＯ	H28.5
4	純音聴力検査装置	１式	岩崎電子㈱	H28.6
5	バイポーラ凝固切開装置	１式	ジョンソン＆ジョンソン	H28.6
6	内視鏡下外科手術鉗子セット	１式	㈱オリンパス	H28.7
7	上山式マイクロ剪刃ムラマサＳＰ	１本	村中医療器㈱	H28.7
8	尿動態測定システム	１式	㈱アムコ	H28.9
9	超音波診断装置	２式	ＧＥヘルスケアジャパン㈱	H28.9
10	電気手術器	１式	日本メディカルネクスト㈱	H28.1
11	仰臥位入浴装置	１式	酒井医療㈱	H29.1
12	凍結組織切片作成装置	１式	サクラファインテック㈱	H29.3
13	採尿蓄量測定装置	１式	フクダ電子	H29.2
14	遠心型血液成分分離装置	１式	テルモＢＣＴ	H29.2
15	脳神経外科手術画像録画システム	１式	ソニー	H29.3
16	自動細胞収集装置	１式	サクラファインテック㈱	H29.3
17	全自動錠剤分包機	１式	㈱トーショー	H29.3
18	自動ジェット式超音波洗浄装置	１式	サクラ精機	H29.3
19	脳動脈瘤収納クリップ	１式	ビーブラウンエースクリップ㈱	H29.3
20	その他40件			

救急診療運営委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

救急診療の運営にあたって、医療、看護、事務等各部門の調整と問題点の改善を図ることを目的としている。

■ 2017年度の目標

（1）救急診療関連業務の実施、現状分析と問題点の改善
（2）救急診療ガイドライン、要綱等の策定
（3）宿日直業務の実施
（4）運営上の調整
（5）その他救急診療業務

■ 委員会の構成

委　員：18名
（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：7名
- 看護師：4名
- 医療職：4名
- 事務局：3名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容
救急運営委員会開催日（3回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2016年4月28日(木)	15名	83.3%
第2回	2016年7月28日(木)	17名	94.4%
第3回	2016年10月26日(水)	17名	94.4%

■ 審議内容

（1）2016年4月28日（木）〔大会議室〕

- 委員会規程について
- 平成27年度救急診療実績報告について
- 宿日直業務打合会報告について
- 救急患者受入が困難であった事例報告について

（2）2016年7月28日（木）〔大会議室〕

- 平成28年度四半期救急診療実績報告について
- 宿日直業務打合会報告について

（3）2016年10月26日（水）〔大会議室〕

- 平成28年度四半期救急診療実績報告について
- 宿日直業務打合会報告について
- 災害多人数用救急箱の整備について

緩和医療委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

本委員会は、がん診療および緩和医療の実施にあたり、予防・診断・手術療法・化学療法・放射線療法・免疫療法を効果的に組み合わせた集学的治療および終末期医療の様々な段階に対して、専門的立場から適切な医療を提供する体制を整備し、医療の質の向上を図ることを目的とする。

■ 2017年度の目標

（1）院内向けおしかけ勉強会やWebカンファレンスを通して、職員への緩和ケアの質的向上のための教育を行う。

（2）患者がんサロンの運営、患者会への協力、ホスピス緩和ケア週間の企画・開催を通して、地域の人々と連携しながら質の高いケアの提供及び緩和ケアについて周知を目指す。

（3）在宅療養に係る地域の医師の受け入れ患者についてデータベースを作成する。

（4）平成29年度緩和ケア研修会を企画・開催する。

■ 委員会の構成

委　員：24名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：８名
- 看護師：７名
- 医療職：５名
- 事務局：４名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

緩和研修委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月７日(木)	20名	83.3%
第２回	2016年５月12日(木)	21名	87.5%
第３回	2016年６月９日(木)	21名	87.5%
第４回	2016年７月７日(木)	22名	91.7%
第５回	2016年８月18日(木)	24名	100.0%
第６回	2016年９月８日(木)	23名	95.8%
第７回	2016年10月13日(木)	22名	91.7%
第８回	2016年11月10日(木)	22名	91.7%
第９回	2016年12月８日(木)	22名	91.7%
第10回	2017年１月12日(木)	23名	95.8%
第11回	2017年２月９日(木)	23名	95.8%
第12回	2017年３月９日(木)	20名	83.3%

■ 審議内容

（1）2016年４月７日（木）「講堂」

- H28年度 委員会規程について
- 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（３月）
- 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- 平成27年度緩和ＷＧ活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
- 平成28年度ＷＧ活動等について
- 緩和ケア研修会（H28）開催に係る準備等について

（2）2016年５月12日（木）「大会議室」

- 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（４月）
- 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- 平成28年度緩和ＷＧ活動報告について(教育研修・地域連携・ツール整備)
- 緩和ケア研修会（H28）開催に係る準備等について

（3）2016年６月９日（木）「大会議室」

- 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（５月）
- 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- 平成28年度緩和ＷＧ活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
- 緩和ケアスクリーニングシートの運用手順について
- 緩和ケア研修会（H28）開催に係る準備等について

（4）2016年７月７日（木）「大会議室」

- 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（６月）
- 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- 平成28年度緩和ＷＧ活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
- 緩和ケア研修会（H28）開催に係る準備等について
- おしかけ勉強会の実施計画について

（5）2016年８月18日（木）「講堂」

- 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（７月）
- 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
- 平成28年度緩和ＷＧ活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
- 緩和ケア研修会（H28）開催に係る準備等について

• 口腔ケア用品のサンプリング報告について

（6）2016年9月8日（木）「大会議室」

• 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（8月）
• 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
• 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
• 平成28年度乳がん啓発活動について
• 疼痛アセスメントシートの運用手順について

（7）2016年10月13日（木）「大会議室」

• 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（9月）
• 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
• 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
• 疼痛初期アセスメントシートの運用手順について
• がん患者緩和ケアスクリーニングシートの改訂について

（8）2016年11月10日（木）「大会議室」

• 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（10月）
• 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
• 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）

（9）2016年12月8日（木）「大会議室」

• 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（11月）
• 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
• 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）

（10）2017年1月12日（木）「大会議室」

• 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（12月）
• 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
• 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）

（11）2017年2月9日（木）「大会議室」

• 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（1月）
• 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
• 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
• 平成29年度乳がん啓発活動について

（12）2017年3月9日（木）「大会議室」

• 緩和ケアチーム・緩和ケア病床の活動報告について（2月）
• 緩和ケアリンクナース部会の活動報告について
• 平成28年度緩和WG活動報告について（教育研修・地域連携・ツール整備）
• 平成29年度緩和WG活動計画について

■ 年間活動実績

●緩和ケアチームの活動実績

①緩和ケア外来患者数　（人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	5	5	4	4	4	4	4	4	3	2	5	49

②入院患者に対するチームでの介入件数　（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
4	5	7	8	6	7	6	7	2	3	6	5	66

③緩和ケア病床患者数　（人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	1	4	5	4	7	6	5	4	2	2	1	43

●がんサロンの活動実績

開　催　日	学習会内容	参加人数
2016年４月20日(水)	今日からはじめよう頭皮ケア	12名
2016年５月20日(金)	口腔ケア～あなたのお口はきれいですか？～	11名
2016年６月16日(火)	鎮痛（痛みをとる）と鎮静（ぐっすり休む）	14名
2016年７月15日(水)	あなたにもできるリンパ浮腫ケア	32名
2016年８月23日(火)	気持ちのつらさと対処法	15名
2016年９月16日(金)	毎日食事をおいしく食べる工夫	16名
2016年10月19日(水)	痛みとの上手な付き合い方	12名
2016年11月15日(火)	臨床試験・治験について	10名
2016年12月14日(水)	感染予防のお話～あなたの手はきれいですか？～	10名
2017年１月18日(水)	自宅でできるリハビリテーション	９名
2017年２月24日(金)	「飲む・食べる」障害と対応法	11名
2017年３月22日(水)	その人らしさを支える緩和ケア	９名

●講演会の活動実績

①　平成28年度緩和ケア研修会

開催日：平成28年９月10日（土）～11日（日）

研修内容：がん診療に携わる医師に対する「緩和ケア研修会」

②　乳がん市民公開講座

開催日：平成28年10月２日（日）

テーマ：「がんと闘う　乳がん体験者の語り」

臓器提供委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

本委員会は、脳死臓器提供施設である当院において、臓器提供を円滑に行うため臓器提供委員会を置く。

■ 2017年度の目標

（1）院内移植コーディネーター学習会の複数回開催に努める

（2）臓器移植に関する、院内外への啓蒙活動に努める

■ 委員会の構成

委　員：9名

（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 委 員 長：副院長　1名
- 副委員長：泌尿器科部長　1名
- 委　　員：麻酔科部長　1名
  - 脳神経外科部長　1名
  - ＭＳＷ　1名
  - 心理判定員　1名
  - 移植コーディネーター　2名
- 書　　記：医事課長　1名

■ 年間活動内容と実績

2017年度開催日と審議内容

臓器提供委員会（1回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2017年3月30日(木)	7名	77.8%

■ 審議内容

（1）2016年3月30日(木)

- 委員会規程(案)及び委員会委員(案)について
- 平成28年度院内コーディネーター活動報告及び平成29年度活動計画について
- ドナーカード所持率について
- 臓器移植に関する職員へのアンケート調査結果について

禁煙実行委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

病院内の受動喫煙防止を目的とする。

■ 2017年度の目標

（1）禁煙啓発活動（禁煙講演会の実施、禁煙標語の掲示）

（2）院内の喫煙問題の把握（喫煙問題報告書）

■ 委員会の構成

委　員：8名

（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：2名
- 看護師：1名
- 医療職：2名
- 技能職：1名
- 事務職：2名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

禁煙実行委員会（4回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2016年4月8日(金)	8名	100.0%
第2回	2016年7月29日(金)	8名	100.0%
第3回	2016年11月18日(金)	7名	87.5%
第4回	2017年3月17日(金)	7名	87.5%

■ 審議・報告内容

（1）2016年4月8日（金）「小会議室」

- 平成28年度委員会規程検討
- 喫煙問題報告書報告（12月～ 3月実績）
- 禁煙ポスターの掲示について
- 禁煙講演会について
- 禁煙標語について

（2）2016年7月29日（金）「小会議室」

- 喫煙問題報告書報告（4 ～ 7月実績）
- 禁煙標語について
- 禁煙推進キャンペーンについて

（3）2016年11月18日（金）「大会議室」

- 喫煙問題報告書報告（8月～ 11月実績）
- エレベータ内の禁煙掲示物について
- 喫煙推進キャンペーン結果報告

（4）2017年3月17日（金）「大会議室」

- 平成29年度委員会規程検討
- 平成29年度活動内容検討
- 喫煙問題報告書報告（12月～ 2月実績）
- エレベータ内の禁煙掲示物について
- 平成29年度禁煙標語について

■ 年間活動実績

- 禁煙標語の掲示（毎月更新）
- 禁煙講演会の実施（5月）
- 禁煙腕章をつけての駐車場警備、声掛け（9月、10月）
- エレベータ内の禁煙掲示物作成（3月）
- 院内での喫煙問題件数は以下の通り

月	喫煙問題報告書	禁煙誓約書	(強制)退院
4～7月	0件	1件	0件
8～11月	0件	0件	0件
12～2月	0件	0件	0件

がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

がん診療拠点病院としてがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制を構築すること。

■ 2017年度の目標

がん診療連携拠点病院の指定要件を継続できるように、定期的に現状を確認し、がん診療体制の充実にむけて、全職員で指定要件を意識し、満たすことができるように促していく。また、連携協力体制を強化できるように内容の見直しを図っていく。

■ 委員会の構成

委　員：20名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：４名
- 看　護　師：５名
- 薬　剤　部：１名
- リハビリ部：１名
- 事　務　部：９名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

がん診療連携拠点病院運営委員会（２回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年５月19日(木)	18	90.0%
第２回	2016年９月28日(火)	15	75.0%

■ 審議内容

（１）2016年５月19日（木）「小会議室」

- がん診療連携拠点病院運営委員会規程（案）について
- 指定要件の確認
  - 緩和医療
  - スクリーニングシート
  - 地域連携パス
  - 臨床研究及び調査研究
- メンバーの構成について

（２）2016年９月28日（火）「小会議室」

- 委員の変更について
- 指定要件の確認
  - 地域連携パス
  - スクリーニングシート
  - 臨床研究及び調査研究

■ 年間活動実績

- 指定病院の認定後も指定要件を確認
- 指定要件の一環として、がんに関する研修会や活動に参加
- キャンサーボードの開催

●キャンサーボード（10回開催）

	開　催　日	症例検討内容	出席人数	場　所
第１回	2016年４月６日(水)	conversion surgeryの検討 「局所浸潤・多発肝転移を伴った直腸がんの１例」	39	３階大会議室
第２回	2016年６月１日(水)	後腹膜腫瘍の１例	38	３階大会議室
第３回	2016年７月６日(水)	骨転移以外に遠隔転移も認めず、腫瘍マーカーの上昇を認めるstageⅣ乳がんの１例	33	３階大会議室
第４回	2016年８月６日(水)	尿閉をきたした直腸がん術後仙骨転移の１例	33	３階大会議室
第５回	2016年９月７日(水)	卵巣奇形腫が扁平上皮癌化した１例	32	３階大会議室
第６回	2016年10月５日(水)	認知症を合併した下行結腸癌・亜イレウスの１例	26	３階大会議室
第７回	2016年11月２日(水)	大動脈周囲リンパ節を伴う上行結腸癌の治療方針	22	３階大会議室
第８回	2016年12月７日(水)	高度な多臓器直接浸潤をきたした大腸がん（疑い）の１例	26	３階大会議室
第９回	2017年２月１日(水)	原因不明の後腹膜腫瘍、多発皮膚転移等を示した剖検例（CPCと合同）	29	３階大会議室
第10回	2017年３月１日(水)	治療効果なく約１年半の経過で死亡した悪性リンパ腫の剖検例（CPCと合同）	31	３階大会議室

診療材料等検討委員会

委員長　北　南　和　彦

■ 目的と方針

診療材料等の適正な管理と効率的な購入を図ることを目的とした病院長の諮問機関とする。

■ 2017年度の目標

各診療科の協力を得て採用診療材料の見直しを行い、診療の質を下げることなく診療材料費用等の削減に努め、病院経営に貢献する。

■ 委員会の構成

委　員：22名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：11名
- 看　護　師：４名
- 臨床検査技師：１名
- 臨床放射線技師：１名
- 臨床工学技士：１名
- 事　務　員：４名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

診療材料等検討委員会（７回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2015年４月７日(木)	19	86.4%
第２回	2015年６月２日(木)	20	90.9%
第３回	2015年７月７日(木)	18	81.8%
第４回	2015年10月６日(木)	15	68.2%
第５回	2015年12月１日(木)	19	86.4%
第６回	2016年２月２日(木)	19	86.4%
第７回	2016年３月２日(木)	17	77.3%

■ 審議内容

- コスト削減についての提案について
- サンプルの調査結果の報告について
- 値下げ品の報告について
- おむつの導入について
- パウダー付手袋からパウダーフリー手袋への切替について
- 手指消毒薬の変更について

■ 年間活動実績

- 診療材料費用を年間見込削減額で1,094,271円削減した。

（内訳）平成27年度診療材料等検討委員会で切替及び値下げした医療材料一覧表

No.	切　替　品　名	年間見込み効果	備　考
1	一重おねまき	▲ 85,536	切　替
2	スライドグラス水切放	▲ 1,870	切　替
3	ＮＥＯカバーグラス	▲ 104,358	切　替
4	ＮＳサージカルファイスマスク	▲ 85,759	値下げ
5	ラインドロープラス	▲ 6,831	値下げ
6	バイタルプラスチックグローブ　Ｓ～Ｌ	▲ 207,288	切　替
7	滅菌ラップ　ジェミニレギュラー　各サイズ	▲ 21,661	切　替
8	ステラッド滅菌バック	▲ 6,104	値下げ
9	レギンクスカバー　ＬＣ－０	▲ 41,443	切　替
10	メイヨスタンドカバー（特注）	▲ 74,332	値下げ
11	ホープスキャップ（特注）	▲ 65,041	値下げ
12	ホープスキャップ	▲ 190,476	値下げ
13	ファスナートＮＦ	▲ 32,214	切　替
14	ニトリル検査用手袋ロング　Ｓ～Ｌ	▲ 55,890	切　替
15	Ｉ・Ｉカバー	▲ 22,810	切　替
16	滅菌済木製舌圧子	▲ 16,218	値下げ
17	エンゼル寝巻　各サイズ	▲ 76,440	切　替
	合　　計	▲ 1,094,271	

血液浄化室安全管理委員会

委員長　佐々木　芳　浩

■ 目的と方針

透析機器の安全管理と安全な透析医療の提供に資することを目的とする。

■ 2017年度の目標

透析機器に関する安全管理を検討し、関連するすべての医療関係者への啓発・意識向上に努める。

■ 委員会の構成

委　員：７名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：１名
- 看　護　師：２名
- 臨床工学技士：２名
- 事　務　員：２名

■ 年間活動内容

2016年度開催日と審議内容

血液浄化室安全管理委員会（１回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2017年２月17日(金)	７名	100.0%

■ 審議内容

（１）2017年２月17日（金）「小会議室」

- 水質管理報告について

在宅医療運営委員会

委員長　津　坂　和　文

■ 目的と方針

本委員会は、在宅療養を行う患者及びその家族に対して、専門的立場から医療を提供し、地域と連携しながら在宅療養を支援する。

■ 2017年度の目標

訪問看護、訪問診療など在宅医療を円滑に行うため、組織及び運営について必要な事項を定め、適切な管理を図る。

→在宅医療基準、訪問診療手順等の見直しをしていく。

■ 委員会の構成

委　員：10名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：４名
- 看護師：３名
- リ　ハ：１名
- 事務部：２名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と協議内容

在宅医療運営委員会（６回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年５月23日(月)	９名	90.0%
第２回	2016年７月11日(月)	８名	80.0%
第３回	2016年９月12日(月)	10名	100.0%
第４回	2016年11月14日(月)	10名	100.0%
第５回	2017年１月16日(月)	10名	100.0%
第６回	2017年３月13日(月)	10名	100.0%

■ 協議内容と実績

（１）2016年５月23日（月）「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告

３名の訪問看護、訪問診療

委員会規定の見直し

（２）2016年７月11日（月）「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告

４名の訪問看護、訪問診療

（３）2016年９月12日（月）「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告

４名の訪問看護、訪問診療

（４）2016年11月14日（月）「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告

５名の訪問看護、訪問診療

（５）2017年１月16日（月）「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告

５名の訪問看護、訪問診療

訪問看護、診療手順を見直しかけていく

（６）2017年３月13日（月）「栄養指導室」

訪問看護・訪問診療実施状況報告

５名の訪問看護、訪問診療

訪問看護、診療手順の見直しについて審議。

次年度への継続審議。

公舎管理委員会

委員長　磯　部　正　則

■ 目的と方針

公舎管理委員会は、職員宿舎の効率的利用と貸与の公平を確保することを目的とする。

■ 2017年度の目標

職員宿舎の効率的な運用を検証し検討する。また、宿舎の施設管理に必要な事項を行う。

■ 委員会の構成

委　員：9名

（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：2名
- 看 護 師：2名
- 職員代表：1名
- 事 務 員：4名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催実績なし

栄養管理／ＮＳＴ委員会

委員長　小　田　　寿

■ 目的と方針

職種や診療科の壁を超えたチームにより栄養管理を実践することにより、患者中心の医療を提供して患者ＱＯＬ向上を達成することを目的とする。

■ 2017年度の目標

- 職種を越えたチームにより栄養治療を実施し院内での栄養治療に関する事項を協議・検討しその効果的な推進をはかる。
- 摂食機能療法算定件数増に向けて取り組む。
- ＮＳＴセミナーを年11回、定期的・継続的に実施する。

■ 委員会の構成

委　員：27名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：10名
- 看護師：５名
- 医療職：５名
- 事務部：７名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

栄養管理／ＮＳＴ委員会（24回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月12日(火)	21名	77.8%
第２回	2016年４月26日(火)	22名	81.5%
第３回	2016年５月10日(火)	22名	81.5%
第４回	2016年５月24日(火)	22名	81.5%
第５回	2016年６月14日(火)	23名	85.2%
第６回	2016年６月28日(火)	23名	85.2%
第７回	2016年７月12日(火)	23名	85.2%
第８回	2016年７月26日(火)	21名	77.8%
第９回	2016年８月９日(火)	20名	74.1%
第10回	2016年８月23日(火)	20名	74.1%
第11回	2016年９月13日(火)	20名	74.1%
第12回	2016年９月27日(火)	22名	81.5%
第13回	2016年10月11日(火)	24名	88.9%
第14回	2016年10月25日(火)	20名	74.1%
第15回	2016年11月８日(火)	26名	96.3%
第16回	2016年11月22日(火)	23名	85.2%
第17回	2016年12月13日(火)	24名	88.9%
第18回	2016年12月27日(火)	21名	77.8%
第19回	2017年１月10日(火)	24名	88.9%
第20回	2017年１月24日(火)	24名	88.9%

	開　催　日	出席人数	出席率
第21回	2017年２月14日(火)	25名	92.6%
第22回	2017年２月28日(火)	22名	81.5%
第23回	2017年３月14日(火)	23名	85.2%
第24回	2017年３月28日(火)	21名	77.8%

■ 審議内容

2016年４月12日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告
- 栄養管理室業務報告

2016年４月26日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告

2016年５月10日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告

2016年５月24日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告
- 栄養管理室業務報告
- ＷＧ、リンクナース活動報告

2016年６月14日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告
- 栄養管理室業務報告
- エンジョイゼリーについて

2016年６月28日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告
- 咀嚼困難、嚥下困難食のパン提供について
- エンジョイゼリーの切換え時期について

2016年７月12日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告
- 栄養管理室業務報告
- 昼食時の配茶について

2016年７月26日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告
- 生活習慣病対策報告について
- 道東ＮＳＴネットワーク研究会について

2016年８月９日（火）「中会議室」

- 回診・介入結果報告

• 栄養管理室業務報告
• ＮＳＴ月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について

2016年 8 月23日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 厚生局による適時調査について

2016年 9 月13日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 栄養管理室業務報告
• 研修会、講演会の案内について
• ＮＳＴリンクナース部会からの提案について

2016年 9 月27日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• ＮＳＴセミナーについて

2016年10月11日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 栄養管理室業務報告
• ＮＳＴ月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について

2016年10月25日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• ＮＳＴ月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について

2016年11月 8 日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 栄養管理情報書運用手順について
• 栄養管理計画書について

2016年11月22日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 栄養管理室業務報告
• ＮＳＴ生活習慣病対策チーム介入患者報告について

2016年12月13日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 栄養管理室業務報告
• ＮＳＴ月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について

2016年12月27日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告

2017年 1 月10日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• ＮＳＴ月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
• 口腔ケア用品の切換えについて

2017年 1 月24日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 栄養管理室ミーティングについて

2017年 2 月14日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 栄養管理室業務報告
• ＮＳＴ月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について
• ＮＳＴ生活習慣病対策チーム介入患者報告について

2017年 2 月28日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告

2017年 3 月14日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 栄養管理室業務報告
• ＮＳＴ月別介入人数及び栄養サポートチーム加算算定件数について

2017年 3 月28日（火）「中会議室」
• 回診・介入結果報告
• 経腸栄養剤の変更について

年間活動実績

●ＮＳＴ介入人数　（人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7	7	11	13	12	13	11	8	11	15	11	12	131

●栄養サポートチーム加算算定件数　（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
9	10	13	18	14	17	14	10	13	15	14	12	159

図書委員会

委員長　河　合　朋　昭

■ 目　　的

病院図書の購入・管理保管を目的とし、図書室及び電子ジャーナルの効率的な運用を含めた検討を行うこと。

■ 2017年度の目標

（1）医学書・看護書　巡回展示販売会の開催
（2）電子ジャーナルの利用の推進
（3）和雑誌、洋雑誌の購入及び管理

■ 委員会の構成

委　員：11名
（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：５名
- 看護師：１名
- 医療職：１名
- 事務部：４名

■ 年間活動2016年度

2016年度の協議内容
図書委員会（３回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年５月24日（火）	９名	81.8%
第２回	2016年12月１日（木）	９名	81.8%
第３回	2017年３月10日（金）	７名	63.6%

■ 審議内容

（1）2016年５月24日（火）「大会議室」

- 医学書・看護書　巡回展示販売の開催について
- 平成29年度電子ジャーナルの契約スケジュールについて
- 洋雑誌の電子ジャーナル化進捗状況について

（2）2016年12月１日（木）「中会議室」

- 平成29年電子ジャーナルに契約について
- 新規購読希望雑誌について
- 洋雑誌の価格について

（3）2017年３月10日（金）「中会議室」

- 平成29年度メディカルオンラインの契約について
- 平成29年度医中誌Webの契約について

［実績］

- 医学書・看護書　巡回展示販売の開催について
  ①　６月22日（水）16時～ 19時
  ②　６月23日（木）10時～ 18時
- 洋雑誌の電子ジャーナル化
- 地域医療連携室から登録医に対して、従来の図書室利用に加えて、電子ジャーナルの積極的利用を促す広報活動を行っている。

■ 2016年度購入図書一覧

和雑誌　紙媒体

№　【誌　　名】	【出版社名】
1 BRAIN and NERVE	医学書院
2 胃　と　腸	医学書院
3 臨床整形外科	医学書院
4 整形外科(臨床雑誌・整形外科)	南江堂
5 整形・災害外科	金原出版
6 血液内科	科学評論社
7 呼吸と循環	医学書院
8 最新医学	最新医学社
9 CLINICAL NEUROSCIENCE	中外医学社
10 神経内科	科学評論社
11 臨床外科	医学書院
12 消化器外科	へるす出版
13 手　　術	金原出版
14 外科（臨床雑誌）	南江堂
15 日本整形外科雑誌	日本整形外科学会
16 形成外科	克誠堂出版
17 ペパーズ	全日本病院出版社
18 脳神経外科	医学書院
19 臨床泌尿器科	医学書院
20 眼　　科	金原出版
21 臨床眼科	医学書院
22 耳鼻咽喉科・頭頚部外科	医学書院
23 ザ・クインテッセンス	クインテッセンス出版
24 臨床麻酔	真興交易医書出版部
25 臨床放射線	金原出版
26 理学療法ジャーナル	医学書院
27 作業療法ジャーナル	三輪書店
28 総合リハビリテーション	医学書院
29 Medical Rehabilitation	全日本病院出版社
30 臨床検査	医学書院
31 精神医学	医学書院
32 クリニカルエンジニアリング	学研メディカル秀潤社
33 メディカル朝日	朝日新聞出版
34 エキスパートナース	照林社
35 看護技術	メヂカルフレンド社
36 看護展望	メヂカルフレンド社
37 看護実践の科学	看護の科学社
38 がん看護	南江堂
39 日本看護協会機関誌「看護」	日本看護協会出版会

洋雑誌　電子媒体

No.	【誌　　名】	【出版社名】
1	Annals of Otology, Rhinology & Laryngology	Sage
2	Auris Nasus Larynx	Elsevier
3	Laryngoscope	Wiley
4	Brain	Oxford University Press
5	Neurology	Ovid(LWW)
6	Journal of Spinal Disorders & Techniques	Ovid(LWW)
7	Cancer (Cancer Cytopathology)	Wiley
8	Nature.com Complete	Nature
9	New England Journal of Medicine	Massachusetts Medical Society
10	Spine	Ovid(LWW)
11	Gastroenterology	Elsevier
12	Hepatology (Liver Transpantation)	John Wiley & Sons Ltd.
13	Journal of Clinical Oncology	ASCO
14	Blood	ASH
15	Lancet	Elsevier
16	Annals of Neurology	John Wiley & Sons Ltd
17	American Journal of Cardiology	Elsevier
18	Circulation	Ovid(LWW)
19	Annals of Surgery	Ovid(LWW)
20	Surgery	Elsevier
21	Clinical Orthopaedics and Related Research	Springer-Verlag GmbH & CO
22	Journal of Bone & Joint Surgery (American Volume)	Ovid(LWW)
23	Bone & Joint Journal	British Editorial Society of Bone & Joint Surgery
24	Journal of Hand Surgery (American Volume)	Elsevier
25	Journal of Hand Surgery (European Volume)	Sage
26	Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery	Elsevier
27	Plastic and Reconstructive Surgery	Ovid(LWW)
28	Journal of Neurosurgey : Spine : Pediatrics	American Association of Neurological Surgeons
29	Neurosurgery	Ovid(LWW)
30	World Neurosurgery	Elsevier
31	Ophthalmology: Journal of the American Academy of Ophthalmology	Elsevier
32	American Journal of Neuroradiology	American Journal of Neuroradiology
33	American Journal of Roentgenology	American Journal of Roentgenology
34	American Journal of Surgical Pathology	Ovid(LWW)
35	Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology and Oral Radiology	Elsevier

洋雑誌　紙媒体

No.	【誌　　名】	【出版社名】
36	Joumal of Orthopaedic Science	Elsevier

省エネルギー推進委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき、病院におけるエネルギーの使用の合理化の適切かつ有効な実施について定め、エネルギー使用の節減とエネルギーの有効な利用を推進することを目的とする。

■ 2017年度の目標

ＬＥＤランプへの変更、職員教育等による節電対策の推進。

■ 委員会の構成

委　員：13名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：２名
- 看護師：１名
- 医療職：６名
- 事務局：４名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と協議内容

開催実績なし

防災委員会

委員長　北　南　和　彦

■ 目的と方針

防災委員会は、災害の防止及び火災時における初期消火並びに適切な避難誘導を訓練することによって、被害の防止に資することを目的とする。

■ 2017年度の目標

防災体制の基本方針、院内消防組織の編成を検討し、防災・消防訓練を実施する。もって、職員の防災意識の啓発に努める。

■ 委員会の構成

委　員：10名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：１名
- 薬　剤　師：１名
- 看　護　師：１名
- 作 業 療 法 士：１名
- 臨床検査技師：１名
- 診療放射線技師：１名
- 医療安全管理者：１名
- 事　務　局：３名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

防災委員会（１回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2017年２月17日(金)	５名	50.0%

■ 審議内容

（１）2017年２月17日(金)「中会議室」

- 委員会規程の改正について
- 28年度防災、消防訓練について
- 災害対策マニュアルの改訂について

■ 年間活動実績

４月　新規採用職員消火訓練実施

９月　釧路空港航空機事故消火救難総合訓練参加

３月　防災訓練実施

３月　消防訓練実施

手術部運営委員会

委員長　小　田　俊　昭

■ 目的と方針

手術部の円滑な運営および適切な管理を図る。

■ 2017年度の目標

- 手術室の効果的な運用
- 手術枠の弾力的な見直し

■ 委員会の構成

委　員：16名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：９名
- 臨床工学技師：１名
- 看　護　師：３名
- 事　務　局：３名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

手術運営委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月13日(水)	13名	81.3%
第２回	2016年５月11日(水)	16名	100.0%
第３回	2016年６月８日(水)	15名	93.8%
第４回	2016年７月６日(水)	16名	100.0%
第５回	2016年８月10日(水)	13名	81.3%
第６回	2016年９月14日(水)	15名	93.8%
第７回	2016年10月12日(水)	15名	93.8%
第８回	2016年11月９日(水)	15名	93.8%
第９回	2016年12月14日(水)	13名	81.3%
第10回	2017年１月11日(水)	14名	87.5%
第11回	2017年２月８日(水)	15名	93.8%
第12回	2017年３月８日(水)	16名	100.0%

■ 審議内容

（１）2016年４月13日（水）〔大会議室〕

- 委員会規程について
- 新規手術枠の運用開始について
- 全身麻酔実施件数及び手術件数について

（２）2016年５月11日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 臨時手術時の対応について
- 手術予定表作成について

（３）2016年６月08日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 手術手技のオーダー入力等について

（４）2016年７月６日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 手術当日日の手術室における運用について
- 手術枠の変更について

（５）2016年８月10日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について

（６）2016年９月14日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- インシデント報告について

（７）2016年10月12日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 手術室看護師配置について
- インシデント報告について

（８）2016年11月９日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 手術台帳の更新について

（９）2016年12月14日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 年末年始に係る手術枠について

（10）2017年１月11日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 手術枠の活用率について
- 医療用手袋に関する取扱について

（11）2017年２月８日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 次年度における麻酔科医の体制について

（12）2017年３月８日（水）〔大会議室〕

- 全身麻酔実施件数及び手術件数について
- 術中のグローブ交換について
- 手術室看護師配置について
- 手術室配置機器の更新について

輸血療法委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

輸血療法委員会は、厚生労働省の「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」（平成17年９月６日付）に沿い、病院内の血液製剤の適正使用及び輸血療法の適正化に努めるよう審議することを目的とした病院長の諮問機関とする。

■ 2017年度の目標

（１）血液製剤の適正使用のための必要事項を審議する。

（２）月毎の血液製剤使用状況を報告する。

■ 委員会の構成

委　員：12名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：６名
- 看　護　師：２名
- 薬　剤　師：１名
- 臨床検査技師：２名
- 事　務　局：１名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

輸血療法委員会（６回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年５月18日(水)	９名	75.0%
第２回	2016年７月13日(水)	10名	83.3%
第３回	2016年９月15日(水)	11名	91.7%
第４回	2016年11月21日(月)	10名	83.3%
第５回	2017年１月25日(水)	11名	91.7%
第６回	2017年３月23日(水)	10名	83.3%

■ 報告・審議内容

（１）2016年５月18日（水）「中会議室」

- 輸血療法委員会規程について
- 2016年３～４月の血液製剤使用状況について
- PCの査定状況の調査について

（２）2016年７月13日（水）「中会議室」

- 2016年５～６月の血液製剤使用状況について
- 高単位血小板製剤査定状況について
- 輸血後感染症について

（３）2016年９月15日（水）「小会議室」

- 2016年７～８月の血液製剤使用状況について
- 輸血後感染症について

（４）2016年11月21日（月）「小会議室」

- 2016年９～10月の血液製剤使用状況について
- 血液センターからの輸血情報等のお知らせについて
- 輸血療法説明書の輸血後感染症のデータ変更について
- 自己血輸血マニュアル改訂について

（５）2017年１月25日（水）「中会議室」

- 2016年11～12月の血液製剤使用状況について
- FFPの適正使用について
- PC必要時の供給量について
- 輸血後感染症検査の検査部から医師への連絡について

（６）2017年３月23日（水）「中会議室」

- 2017年１～２月の血液製剤使用状況について
- 次年度、当委員会の構成員について

医療ガス安全管理委員会

委員長　小　田　俊　昭

■ 目的と方針

病院における医療ガス（診療用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医療用圧縮空気、窒素等をいう。）設備の安全管理を図り、患者の安全を確保することを目的とする。

■ 2017年度の目標

（1）医療ガス保守点検（年３回）の確認、作業環境測定（中材、ＥＯＧガス）年２回の　確認を実施する。

（2）保守点検の見直し。

■ 委員会の構成

委　員：９名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：２名
- 看護師：１名
- 医療職：３名
- 事務局：３名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と協議内容

開催実績なし

褥瘡対策委員会

委員長　池　田　正　起

■ 目的と方針

病院内の褥瘡対策を討議。検討しその効果的な推進をはかる。

■ 2017年度の目標

（1）定期的な委員会の開催による情報の把握と管理を行う。

（2）月毎の褥瘡発生件数データを収集し、動向を把握する。

（3）体圧分散寝具・褥瘡予防用具を定期的に見直し、更新時の選定を行う。

■ 委員会の構成

委　員：9名

（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：1名
- 看護師：5名
- 医療職：3名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

褥瘡対策委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2016年4月14日(木)	8名	88.9%
第2回	2016年5月12日(木)	9名	100.0%
第3回	2016年6月9日(木)	9名	100.0%
第4回	2016年7月14日(木)	8名	88.9%
第5回	2016年8月18日(木)	8名	88.9%
第6回	2016年9月8日(木)	8名	88.9%
第7回	2016年10月13日(木)	9名	100.0%
第8回	2016年11月10日(木)	8名	88.9%
第9回	2016年12月8日(木)	9名	100.0%
第10回	2017年1月12日(木)	9名	100.0%
第11回	2017年2月9日(木)	9名	100.0%
第12回	2017年3月9日(木)	8名	88.9%

■ 審議内容

（1）2016年4月14日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- 褥瘡発生報告書の形式変更について

（2）2016年5月12日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- 褥瘡推定発生率について
- 体位交換枕等の物品管理について

（3）2016年6月9日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- 体位変換枕、物品の管理体制について

（4）2016年7月14日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- 施設間交流について

（5）2016年8月18日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- 適時調査について

（6）2016年9月8日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- 褥瘡患者報告書の未提出状況について

（7）2016年10月13日（木）「小会議室」

- 委員会および褥瘡対策チーム規程の改訂について
- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

（8）2016年11月10日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- 褥瘡有病率および褥瘡推定発生率について
- ＢＳＣ中間評価について
- 新規医療材料について

（9）2016年12月８日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- ＮＳＴセミナーについて

（10）2017年１月12日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

（11）2017年２月９日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について

（12）2017年３月９日（木）「小会議室」

- 褥瘡患者について
- 褥瘡対策実施状況について
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定状況について
- 臨床評価指標報告書について

■ 年間活動実績

- 体位交換枕の配置状況調査を行った。
- 医療関連機器損傷予防の材料を導入した。
- ＮＳＴと連携した褥瘡回診を行った。
- 川湯の森病院にて褥瘡研修会を実施した。
  また、谷藤病院から看護師２名が来院し、褥瘡回診に同行するなど地域と連携した活動を行った。
- 院内褥瘡発生要因から自部署の特徴をとらえ、来年度の褥瘡予防活動計画へ反映させた。

●褥瘡対策に関する診療計画書の作成件数　（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
78	76	78	88	100	98	101	95	106	113	79	126	1,138

●褥瘡ハイリスク加算算定件数　（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
75	70	76	83	96	77	82	83	76	76	75	74	943

放射線部安全運営委員会

委員長　永尾一彦

■ 目的と方針

放射線関連の業務は医療法、放射線技師法、労働安全衛生法、電波法など、さまざまな法律に準じて行われています。なかでも当院は放射線発生装置（リニアック）を有するため「放射線障害防止法」という法律で規制されています。このため、病院長は放射線障害予防規程を作成し、本部を通じて原子力規制委員会に届け出る義務を負います。院長の代わりにこの作業を行う役割が「放射線取扱主任者」で、当院では永尾先生が院長より選任されています。

この委員会は当院の放射線障害予防規程、放射線障害予防規程運用細則の適正で効率的運用を図るため、予防規程第11条に定める放射線障害防止について必要な事項を企画、審議するため、及び、放射線関連業務を円滑に運営するための協議機関として放射線安全委員会と放射線部運用委員会が融合した委員会となっております。

■ 2017年度の目標

（1）放射線関連業務の円滑な運営
（2）法令に準じた放射線障害予防規程及び運用細則の適正かつ効率的な運用

■ 委員会の構成

委員：18名
（2017年３月現在、委員長・書紀を含む）

［内　訳］

- 医　　師：６名
- 看　護　師：２名
- 放射線技師：８名
- 事　務　職：１名
- 臨床工学技士：１名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容
放射線部安全運営委員会（２回開催）
本委員会は「必要に応じて随時」開催されることになっております。

■ 審議内容

（1）2016年５月27日（金）

- 放射線部安全運用委員会規程の改訂について委員の追加および放射線治療ワーキングの設置に関して
- 夜間、休日に実施されるＣＴアンギオに使用される造影剤濃度について夜間休日と通常業務時のルールに解離があるため整合性を図る。
- ＣＴ、ＭＲＩのオーダーメニューの改訂について肝ボーラスから肝ダイナミックへ等へ名称変更及び追加
- 新規放射線業務従事者の選任について
  定年退職に伴う業務従事者の追加登録

（2）2016年12月16日（金）

- 当院での塩化ラジウム内用療法の使用について泌尿器科より要望あったため、施設基準クリアするための対策、費用、時間など。
- 核医学検査脳血流定量方法の追加提案について担当技師より脳外科医への説明および提案
- 放射線部門学生実習の受け入れについて
  次年度からの受け入れについて

■ 議事内容

塩化ラジウム内用療法の使用について

運営会議で報告するも費用対効果、実施可能患者数などから委員会差し戻しになり、泌尿器科からも要請取り消しがなされたため、当面見送られることになりました。

オーダーメニュー変更について

事務局より、「システム委員会でも審議する必要がある」との意見があったため今後はオーダーメニュー変更はシステム委員会への提案とすることになりました。

中央検査部管理運営委員会

委員長　高　橋　達　郎

■ 目的と方針

中央検査部の円滑な運営及び適切な管理を図ることを目的とする。

■ 2017年度の目標

（1）中央検査部内の統計状況（件数・収支など）の報告をする。

（2）臨床検査の精度管理状況を報告する。

院内の日常的精度管理に加え、日本臨床検査技師会や日本医師会など外部組織が主催する精度管理サーベイへの参加

（3）他部門への連絡事項の発信と提案事項の審議を行う。

検査項目の追加や削除、院内検査から外部委託検査への変更あるいはその逆、検査基準範囲の見直しなど。

■ 委員会の構成

委　員：12名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：６名
- 看　護　師：２名
- 事　務　局：１名
- 臨床検査技師：３名

■ 年間活動

2016年度開催日と協議内容

中央検査部管理運営委員会開催日（３回開催）

	開催日	出席人数	出席率
第53回	2016年６月21日(火)	11名	91.7%
第54回	2016年10月18日(火)	12名	100.0%
第55回	2017年２月16日(木)	11名	91.7%

■ 審議内容

（1）2016年６月21日（火）「中会議室」

- 精度管理報告：中央検査部内部及び外部組織主催（平成27年度日本医師会臨床検査精度管理調査）
- 中央検査部統計報告
  検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- 臨床検査に係わるJCCLS（日本臨床検査標準協議会）共有基準範囲の採用について
- PIVKAⅡ（肝細胞がん腫瘍マーカー項目）の委託検査から院内検査導入について
- BC･ROBO－585（自動採血管準備システム）の故障について報告

（2）2016年10月18日（火）「中会議室」

- 中央検査部内部精度管理報告
- 中央検査部統計報告
  検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- 遊離PSA（F-PSA：前立腺癌のスクリーニング診断項目）検査の外注委託検査移行について（再度提案審議）
- 検体部門主要機器メンテナンス及び故障状況について報告（27件）

（3）2017年２月16日（木）「中会議室」

- 精度管理報告：中央検査部内部及び外部組織主催（平成28年度日臨技臨床検査精度管理調査）
- 中央検査部統計報告
  検査件数、検体管理加算件数・管理加算料等について
- 遊離PSA（F－PSA）検査の外注委託検査移行について（再審議）
- 平成28年７月より委託検査項目PIVKAⅡが、院内検査に導入した後の検査件数について
- 検体部門主要機器メンテナンス及び故障状況について報告
  平成28年４月から平成29年２月２日まで40件
- 平成28年度検査室外へ出向いての検査（中央採血室、生理検査など）件数について
- 平成28年度検査部内勉強会の実施について（月１回実施）
- ２階フロアー再開発について（生理検査室移設、中央採血室移設にかかわる事など）

■ 年間活動実績

- 平成27年度日本医師会臨床検査精度管理調査報告
  … 95.1点（満点：100点）で良好であった。
- 平成28年度日臨技臨床検査精度管理調査報告
  … 99.6点（満点：100点）で良好であった。

• 平成28年度統計結果報告：数値はいずれも表示期間内の月平均である。
（　）内は同期間の対前年比である

		第53回（2016.6.21） H28年４月～５月	第54回（2016.10.18） H28年４月～９月 ※検査実施料、検体加算件数加算料は、H28年４月～H28年８月	第55回（2017.2.16） H28年４月～H28年12月 ※検査件数、委託検査件数支払額は、H28年４月～H29年１月
検査件数	（件）	137,111（ 1.9%↓）	139,030（ 4.8%↓）	137,223（ 5.6%↓）
検査実施料	（千円）	39,267（ 2.9%↓）	40,108（ 5.8%↓）	39,600（ 7.2%↓）
検体管理加算件数	（件）	4,654（ 1.8%↓）	4,749（ 2.5%↓）	4,712（ 2.7%↓）
検体管理加算料	（千円）	4,578（ 1.7%↓）	4,757（ 1.2%↓）	4,747（ 0.5%↓）
委託検査件数	（件）	2,420（ 1.9%↑）	2,368（ 0.2%↓）	2,352（ 2.5%↓）
委託検査支払額	（千円）	4,857（12.9%↑）	4,435（ 0.2%↓）	4,376（ 6.9%↓）

前年同期に比べ検査件数及び実施料は減少となった。この原因は、患者数の減少と平成28年度診療報酬改訂による為である。管理加算件数は減少し、加算料は前年度と変わらない傾向である。委託検査件数及び委託検査支払額は、件数の減少に伴い減少となった。

- 平成28年７月19日にPIVKAⅡの委託検査項目が、院内検査項目へ移行
  平成28年７月～平成29年３月の院内検査数平均78.8件/月で平成27年度委託検査時の平均50件/月より月平均で約20件増加した。
- 平成28年10月１日に院内生化学検体検査項目の基準範囲を、JCCLS（日本臨床検査標準協議会）共有基準範囲に変更
- 平成29年４月１日より遊離PSA（F－PSA）院内検査項目が、委託検査項目へ移行

健診業務体制整備委員会

委員長　辻　本　和　代

■ 目的と方針

本委員会は、健康診断業務体制整備を目的とした委員会であり、健康診断業務に関する事項の業務遂行を円滑に運営するために審議し検討するものとする。

■ 2017年度の目標

（1）対前年比健診件数の増加に努める。

（2）診断結果をより早く健診者に届けるよう、迅速に業務を遂行する。

■ 委員会の構成

委　員：8名

（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：　1名
- 看護師：　2名
- 医療職：　2名
- 事　務：　3名

■ 年間活動

2016年度開催日と審議内容

健診業務体制整備委員会（4回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2016年4月25日(月)	7名	87.5%
第2回	2016年7月25日(木)	7名	87.5%
第3回	2016年10月31日(月)	8名	100.0%
第4回	2017年2月27日(月)	7名	87.5%

■ 審議・報告内容

（1）2016年4月25日（月）

- 委員会規程について
- 健診実施状況報告
- 頸動脈エコー検査未実施について

（2）2016年7月25日（木）

- 健診実施状況報告

（3）2016年10月31日（月）

- 日帰り、脳ドック健診実施数の減について（対前年同期）
- 健診実施状況報告
- 健診でのレントゲン撮影について（待ち時間）

（4）2017年2月27日（月）

- 健診実施状況報告
- 超音波検査終了時のペーパータオルについて（患者サービス）

■ 年間活動実績

（件）

健診項目	平成27年度	平成28年度
日帰り人間ドック	476	483
生活習慣病健診	444	430
特定健診	428	418
企業・個人健診	57	32
石綿・塵肺	330	289
有機溶剤	19	6
その他特殊健診	75	96
脳ドック	408	410
乳がん検診	288	245
子宮がん検診	129	151
合計	2,654	2,560

保育委員会

委員長　杉　山　好　美

■ 目的と方針

保育委員会は、院内保育所の適正な運営に資することを目的とする。

■ 2017年度の目標

保育所の運営に関する重要事項、保育所管理者の諮問事項を審議し、適正な運営を行う。

■ 委員会の構成

委　員：９名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　　師：１名
- 看 護 師：２名
- 保 育 士：２名
- 母親代表：１名
- 職員代表：１名
- 事 務 員：２名

■ 年間活動

2016年度開催日と審議内容

保育委員会（１回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年６月22日(水)	６名	66.7%

■ 審議内容

（１）2016年６月22日(水)「中会議室」

- 今後の受け入れ体制について
- 保育所入所状況について
- 平成28年度カリキュラム及び行事予定について
- 父母会からの要望等報告について

■ 年間活動実績

【院内保育所年間行事】

４月　進級式
５月　こいのぼり制作
　　交通安全教室
６月　夏の制作
７月　七夕会、夏祭り
８月　運動会
９月　親子遠足
10月　秋の制作、作品展
11月　冬の制作
12月　クリスマスお遊戯会
１月　参観日（２日間）
２月　豆まき会
３月　ひな祭り会
　　お別れ会

毎　月　お誕生会、身体測定、避難訓練
年２回　健康診断

広報編集委員会

委員長　吉　野　康　之

■ 目的と方針

広報の円滑な発行に質することと及び患者、医療関係者、マスコミ、その他外部機関に対して病院職員が組織横断的に広報活動を行い病院の広報戦略を企画立案し実行する。

■ 2017年度の目標

- 広報物の定期発行
- 広報誌及び病院ホームページの充実
- ホームページアクセス件数の増加を図る

■ 委員会の構成

委　員：11名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：１名
- 医療職：５名
- 看護師：１名
- 事務局：４名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

広報編集委員会開催日（７回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年 ４月15日(金)	８名	72.7%
第２回	2016年 ５月26日(木)	11名	100.0%
第３回	2016年 ８月25日(木)	９名	81.8%
第４回	2016年11月 ７日(月)	９名	81.8%
第５回	2016年12月16日(金)	９名	81.8%
第６回	2017年 ２月20日(月)	11名	100.0%
第７回	2017年 ３月13日(月)	８名	72.7%

■ 審議内容

（１）2016年４月15日(金)〔小会議室〕

- 委員会規程について
- 広報誌「かわらばん春号」の発行について
- 広報誌発刊年間スケジュールについて
- ホームページアクセス件数の報告について

（２）2016年５月26日(木)〔小会議室〕

- 広報誌「かわらばん春号」の発行について
- 今年度の活動目標について
- ホームページアクセス件数の報告について

（３）2016年８月25日(木)〔小会議室〕

- 広報誌「かわらばん秋号」の発行について
- 広報誌発刊後の外部評価について
- ホームページの一部掲載内容の変更について
- ホームページアクセス件数の報告について

（４）2016年11月７日(月)〔小会議室〕

- 広報誌「かわらばん春号（平成29年号）」の発行について
- 委員会規定の一部改訂について
- ホームページの一部掲載内容の変更について
- ホームページアクセス件数の報告について

（５）2016年12月16日(金)〔小会議室〕

- ホームページへの臨床評価指数及び患者数等の統計データ掲載について
- ホームページリニューアル案について
- ホームページへのリンク設定について
- 広報誌「かわらばん春号」の発行について
- ホームページアクセス件数の報告について

（６）2017年２月20日(月)〔小会議室〕

- 平成29年度年間スケジュール案について
- ホームページアクセス件数の報告について

（７）2017年３月13日(月)〔大会議室〕

- 平成29年度委員会規程の見直しについて
- ホームページアクセス件数の報告について

病院誌「やちぼうず」編集委員会

委員長　磯　部　正　則

■ 目的と方針

病院誌「やちぼうず」編集員会は、釧路労災病院年報の円滑な発行に資することを目的とする。

また、当院が果たせる役割や機能を可能な限り情報提供し、組織の透明性を高めることで、地域との信頼関係を構築させる。

■ 2017年度の目標

当院の医療活動（地域交流活動等）の写真を取り入れ、文面がイメージしやすいよう工夫を施す。

■ 委員会の構成

委　員：７名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：３名
- 看護師：１名
- 事務局：３名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

病院誌「やちぼうず」編集委員会（３回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月８日(金)	７名	100.0%
第２回	2016年５月31日(火)	７名	100.0%
第３回	2016年11月９日(水)	７名	100.0%

■ 審議内容

（１）2016年４月８日（金）「大会議室」

- 病院誌のリニューアルに向けて

（２）2016年５月31日（火）「大会議室」

- 病院誌の構成（案）について

（３）2016年11月９日（水）「大会議室」

- 病院誌の校正について
- 病院誌の表紙について

■ 年間活動実績

委員会活動以外においても、医師の協力のもと打ち合わせを実施。

想定していた発行時期より半月遅れて11月に発行。

掲載内容を大幅に変更しリニューアルすることができた。

衛生委員会

委員長　菅　　龍彦

■ 目的と方針

職員の安全及び衛生管理に関して調査・研究審査し、安全衛生活動の推進徹底を図ることを目的とする。

■ 2017年度の目標

- 職員の健康障害を防止するための基本となる対策の樹立
- 職員の健康障害の原因の調査及び再発の防止に係る対策の樹立
- 職員の衛生に係る教育の実施計画の作成
- 健康診断の実施及びその結果に対する対策
- 前各号に掲げるもののほか健康管理に必要な措置

■ 委員会の構成

委　員：12名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：２名
- 看護師：３名
- 医療職：２名
- 事務局：５名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

衛生委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月19日(火)	12名	100.0%
第２回	2016年５月17日(火)	12名	100.0%
第３回	2016年６月21日(火)	11名	91.6%
第４回	2016年７月19日(火)	９名	75.0%
第５回	2016年８月16日(火)	11名	91.6%
第６回	2016年９月20日(火)	９名	75.0%
第７回	2016年10月18日(火)	11名	91.6%
第８回	2016年11月15日(火)	11名	91.6%
第９回	2016年12月20日(火)	11名	91.6%
第10回	2017年１月17日(火)	10名	83.3%
第11回	2017年２月21日(火)	10名	83.3%
第12回	2017年３月21日(火)	10名	83.3%

■ 審議事項

（１）2016年４月19日（火）「小会議室」

- 定期健康診断日程について
- 新規採用者ワクチンプログラムについて

（２）2016年５月17日（火）「小会議室」

- 職場巡視について
- 平成28年度健康診断・受診状況

（３）2016年６月21日（火）「小会議室」

- 平成28年度健康診断・受診状況

（４）2016年７月19日（火）「小会議室」

- ストレスチェック制度実施規程の改訂について
- 職場巡視のチェックリスト変更について
- ＶＤＴ健診について

（５）2016年８月16日（火）「小会議室」

- ＶＤＴ健診について
- 産業医の追加について

（６）2016年９月20日（火）「小会議室」

- 長時間勤務者・高ストレス者に対する面接指導について
- ストレスチェックの集団分析について
- インフルエンザ予防接種の実施について

（７）2016年10月18日（火）「小会議室」

- 長時間勤務者に対する面接指導について

（８）2016年11月15日（火）「小会議室」

- 平成28年度特殊業務従事者健康診断について

（９）2016年12月20日（火）「小会議室」

- 平成28年度インフルエンザ予防接種実施者数について

(10) 2017年１月17日（火）「小会議室」

- 平成28年度特殊業務従事者健康診断受診状況について

(11) 2017年２月21日（火）「小会議室」

- 平成29年度ストレスチェック委託業者について

(12) 2017年３月21日（火）「小会議室」

- 平成29年度委員会規程について

年間活動

（1）産業医による長時間労働者への面談
（2）業務上災害報告・病気療養者報告
（3）ワクチン予防接種の実施（B型肝炎ワクチン、4種の流行性ワクチン、インフルエンザワクチン）
（4）職員定期健康診断実施、特殊業務従事者健康診断実施
（5）職場巡視

患者サービス向上委員会

委員長　杉　山　好　美

■ 目的と方針

患者サービスに関する問題点を明確にした上で、その改善点を検討し、患者に選ばれる病院を目指す。

■ 2017年度の目標

（1）接遇改善
（2）患者の利便性改善（院内清掃の改善、掲示板の整備・ラウンドの実施等）
（3）療養環境の向上（敷地内清掃、フロアの飾り付け等）
（4）患者投書の回答掲示・職員への周知

■ 委員会の構成

委　員：20名
（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：３名
- 看護師：５名
- 医療職：５名
- 事務局：７名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容
患者サービス向上委員会（12回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年４月13日(水)	18名	90.0%
第２回	2016年５月11日(水)	19名	95.0%
第３回	2016年６月８日(水)	18名	90.0%
第４回	2016年７月13日(水)	18名	90.0%
第５回	2016年８月10日(水)	20名	100.0%
第６回	2016年９月14日(水)	16名	80.0%
第７回	2016年10月12日(水)	19名	95.0%
第８回	2016年11月９日(水)	19名	95.0%
第９回	2016年12月14日(水)	17名	85.0%
第10回	2017年１月11日(水)	17名	85.0%
第11回	2017年２月８日(水)	17名	85.0%
第12回	2017年３月８日(水)	18名	90.0%

■ 審議内容

（1）2016年４月13日（水）「大会議室」

- 委員会規程について
- 今年度の活動計画について
- 携帯使用に関する案内表示の修正について

（2）2016年５月11日（水）「講堂」

- グループ年間活動計画について
- 投書について

（3）2016年６月８日（水）「大会議室」

- グループ活動について
- 投書について

（4）2016年７月13日（水）「大会議室」

- グループ活動について
- 投書について
- 自動血圧計の設置について

（5）2016年８月10日（水）「大会議室」

- グループ活動について
- 投書について
- 患者満足度調査について

（6）2016年９月14日（水）「大会議室」

- グループ活動計画について
- 投書について
- 昨年度患者満足度調査結果について

（7）2016年10月12日（水）「大会議室」

- クリスマスコンサート企画について
- 投書について
- 患者向け検査項目説明用紙について
- グループ活動について
- 投書について

（8）2016年11月９日（水）「大会議室」

- クリスマスコンサートについて
- 患者向け検査項目説明用紙について
- グループ活動について
- 投書について

（9）2016年12月14日（水）「大会議室」

- クリスマスコンサートの主催部署について
- 患者図書室の新規購入図書について
- グループ活動について
- 投書について

(10) 2017年 1 月11日 (水)「大会議室」

- グループ活動について
- 投書について

(11) 2017年 2 月 8 日 (水)「大会議室」

- グループ活動について
- 投書について
- 患者満足度調査結果について

(12) 2017年 3 月 8 日 (水)「大会議室」

- グループ活動について
- 投書について

■ 年間活動実績

- 接遇チェック実施（5 月、 1 月）
- エスカレータ入口の転倒防止表示変更（6 月）
- 採尿室案内表示の変更（6 月）
- 患者図書室の整備の実施（12月～ 3 月）
- テレビカード精算機の案内表示作成（8 月）
- ロビーコンサート、クリスマスコンサートの実施（5 月、12月）
- 1 階フロアの展示（七夕、ツリー飾り、児童作品展示等）

病院機能評価委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

認定期間中における質改善活動の継続、活性化を図る

■ 2017年度の目標

期中の確認に向けた質改善活動の支援および取組み状況の確認を行う

■ 委員会の構成

委　員：10名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：２名
- 医療職：１名
- 看護師：３名
- 事務局：４名

■ 年間活動内容と実績

病院機能評価委員会「講堂」（１回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2016年７月19日（火）	10	100.0%

■ 審議内容

病院機能評価受審の際に指摘を受けた病院組織図の見直しについて

ドクターズクラーク運営委員会

委員長　小笠原　和　宏

■ 目的と方針

医師の業務負担軽減及び処遇改善に質する計画・評価を行うため、ドクターズクラークの体制及び業務内容の整備を目的とする。

■ 2017年度の目標

（1）ドクタークラークが行う業務教育
（2）ドクタークラークの適正配置
（3）医師が依頼する業務のルール作成
（4）年間計画の達成

■ 委員会の構成

委　員：19名
（2017年3月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：12名
- 看護職：3名
- 事務局：4名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

ドクターズクラーク運営委員会（3回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第1回	2016年4月28日(木)	15名	78.9%
第2回	2016年6月23日(木)	13名	68.4%
第3回	2017年3月30日(木)	16名	84.2%

■ 審議内容

（1）2016年4月28日（木）〔大会議室〕

- 委員会規程について
- 配置体制等の計画及び進捗状況について

（2）2016年6月23日（木）〔大会議室〕

- 配置体制等の進捗状況について

（3）2017年3月30日（木）〔大会議室〕

- 配置体制等の進捗状況について
- 新年度における体制等について
- 年間計画の達成状況について

勤務医／看護職員負担軽減対策委員会

委員長　宮城島　拓　人

■ 目的と方針

医師／看護職員の負担軽減及び処遇改善を図ることを目的とする。

■ 2017年度の目標

医師／看護職員の負担軽減及び処遇改善に資する計画の達成と評価改善を行う。

■ 委員会の構成

委　員：12名

（2017年３月現在、委員長・書記を含む）

［内　訳］

- 医　師：　４名
- 看護師：　３名
- 医療職：　３名
- 事務職：　２名

■ 年間活動内容と実績

2016年度開催日と審議内容

勤務医／看護職員負担軽減対策委員会（３回開催）

	開　催　日	出席人数	出席率
第１回	2017年１月31日(火)	11名	91.7%
第２回	2017年２月28日(火)	10名	83.3%
第３回	2017年３月28日(火)	９名	75.0%

■ 審議内容

（１）2017年１月31日（火）「小会議室」

- 今後の委員会の進め方について
- 医師/看護職員の勤務状況の報告について

（２）2017年２月28日（火）「小会議室」

- 現状把握と問題点について
- 医師/看護職員の勤務状況の報告について

（３）2017年３月28日（火）「大会議室」

- 来年度の負担軽減計画について

Ⅳ. 医療統計

患者数の推移（入院・外来）…… 127
診療科別入院患者数の推移…… 128
診療科別外来患者数（平成28年度）…… 129
診療科別入院単価の推移…… 130
診療科別外来単価の推移…… 130
紹介率・逆紹介率の推移…… 131
病床利用率の推移…… 131
平均在院日数の推移…… 132
時間外取扱患者数　総数と１日平均の推移…… 133
救急車受入件数（総数と１日平均）…… 134
手術件数の推移（手術室内）…… 134
全身麻酔件数の推移…… 135
化学療法件数の推移（入院・外来）…… 135
透析件数の推移（入院・外来）…… 136
内視鏡件数の推移（上部・下部）…… 136
放射線治療件数の推移…… 137
解剖件数の推移…… 137
2016年度後発医薬品指数…… 138
ＤＰＣ14桁　診断群分類上位頻度表(全科共通)‥ 138
ＤＰＣ　ＭＤＣ６桁　診療科別上位頻度表…… 139
Ｋｃｏｄｅ　診療科別上位頻度表…… 142

患者数の推移（入院・外来）

	年度別	単位	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
入院	承認病床数	（床）	500	500	500	500	489
	稼働病床数	（床）	450	450	450	450	450
	入院患者延数	（人）	138,308	139,170	138,231	135,740	134,099
	1日平均患者数	（人）	379	381	379	371	367
	新入院患者数	（人）	8,894	9,391	8,685	8,643	8,783
	退院患者数	（人）	8,863	9,390	8,688	8,647	8,755
	病床利用率	（%）	84.2	84.7	84.2	82.4	81.6
	平均在院日数	（日）	15.6	14.8	16.4	16.1	15.6
	病床回転数	（回）	25.9	27.7	23.0	22.7	23.4
	1人1日当単価	（円）	45,500	46,668	46,896	47,878	47,173
	診療実日数	（日）	365	365	365	366	365
	院内死亡患者数	（人）	393	438	402	400	393
	院内死亡率	（%）	4.3	4.5	4.4	4.4	4.3
	解剖検体数	（件）	6	7	6	9	4
	剖検率	（%）	1.5	1.6	1.5	2.3	1.0
	労災患者延数	（人）	3,594	5,404	4,125	3,732	3,197
	労災患者比率	（%）	2.6	3.9	3.0	2.7	2.4
	時間外新入院患者数	（人）	1,114	1,141	963	962	1,156

※院内死亡率…患者実数に対する年間死亡患者数の比率を計算したもの
※病床回転数…利用病床（病床数×病床利用率）が年度内に平均何回転したか推定したもの

	年度別	単位	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
外来	外来患者延数	（人）	236,722	235,009	236,495	241,294	240,156
	1日平均患者数	（人）	966	963	969	993	988
	新外来患者数	（人）	18,241	19,096	18,231	18,058	16,702
	新外来患者率	（%）	7.7	8.1	7.7	7.5	7.0
	平均通院回数	（回）	13.0	12.3	13.0	13.4	14.4
	1人1日当単価	（円）	10,448	11,169	12,316	13,790	14,169
	診療実日数	（日）	245	244	244	243	243
	入院中外来併診数	（人）	45,285	38,777	36,512	36,531	42,103
	労災患者延数	（人）	10,436	9,772	9,208	8,885	8,766
	労災患者比率	（%）	4.4	4.2	3.9	3.7	3.7
	時間外外来患者数	（人）	3,954	3,834	3,644	3,691	3,815

診療科別入院患者数の推移

（単位：人）

	26 年 度				27 年 度				28 年 度			
	入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数		入院患者数		新入院患者数	
	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均	延数	1日平均
内科	53,743	147.2	3,530	9.7	52,691	144.0	3,630	9.9	52,122	142.8	3,878	10.6
神経内科	5,533	15.2	165	0.5	5,239	14.3	175	0.5	5,605	15.4	185	0.5
循環器内科	106	0.3	9	0.0	40	0.1	4	0.0	9	0.0	1	0.0
小児科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
外科	14,231	39.0	964	2.6	13,060	35.7	905	2.5	13,890	38.1	888	2.4
整形外科	26,066	71.4	1,228	3.4	24,849	67.9	1,078	2.9	21,078	57.7	831	2.3
形成外科	5,523	15.1	394	1.1	4,891	13.4	356	1.0	5,570	15.3	432	1.2
脳神経外科	19,847	54.4	909	2.5	20,367	55.6	817	2.3	22,268	61.0	898	2.5
皮膚科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
泌尿器科	4,900	13.4	405	1.1	6,345	17.3	486	1.3	5,986	16.4	526	1.4
産婦人科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
眼科	953	2.6	113	0.3	1,327	3.6	184	0.5	1,292	3.5	179	0.5
耳鼻咽喉科	5,464	15.0	562	1.5	5,170	14.1	563	1.5	4,767	13.1	533	1.5
リハ科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
放射線科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
麻酔科	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
歯科口腔外科	1,865	5.1	406	1.1	1,761	4.8	445	1.2	1,512	4.1	432	1.2
合計	**138,231**	**378.7**	**8,685**	**23.8**	**135,740**	**370.9**	**8,643**	**23.6**	**134,099**	**367.4**	**8,783**	**24.1**
労災患者数（再掲）	4,125	11.3	−	−	3,732	10.2	−	−	3,197	8.8	−	−

診療科別外来患者数（平成28年度）

（単位：人）

	新患	再来	合計	一日平均患者数		
				新患	再来	合計
内科	3,011	51,524	54,535	12.4	212.0	224.4
精神科	145	1,171	1,316	0.6	4.8	5.4
神経内科	732	9,984	10,716	3.0	41.1	44.1
循環器内科	544	6,828	7,372	2.2	28.1	30.3
小児科	0	0	0	0.0	0.0	0.0
外科	1,039	11,551	12,590	4.3	47.5	51.8
整形外科	2,633	32,098	34,731	10.8	132.1	142.9
形成外科	1,331	6,317	7,648	5.5	26.0	31.5
脳神経外科	1,314	17,679	18,993	5.4	72.8	78.2
皮膚科	65	354	419	0.3	1.5	1.7
泌尿器科	589	17,519	18,108	2.4	72.1	74.5
産婦人科	50	280	330	0.2	1.2	1.4
眼科	617	7,724	8,341	2.5	31.8	34.3
耳鼻咽喉科	1,330	11,263	12,593	5.5	46.3	51.8
リハ科	784	36,408	37,192	3.2	149.8	153.1
放射線科	206	6,136	6,342	0.8	25.3	26.1
麻酔科	4	130	134	0.0	0.5	0.6
歯科口腔外科	1,862	6,420	8,282	7.7	26.4	34.1
医療相談科	446	68	514	1.8	0.3	2.1
合計	**16,702**	**223,454**	**240,156**	**68.7**	**919.6**	**988.3**
労災患者数（再掲）	－	－	8,766	－	－	36.1

診療科別入院単価の推移

（単位：円）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
内科	40,791	43,192	45,213	48,082	48,121
精神科	－	－	－	－	－
神経内科	38,704	35,417	34,583	35,000	36,074
循環器内科	100,068	91,353	89,896	159,750	184,099
小児科	－	－	－	－	－
外科	56,027	55,640	54,547	56,371	57,240
整形外科	46,176	49,433	51,518	50,202	46,075
形成外科	40,039	44,961	42,816	41,865	39,858
脳神経外科	50,351	47,550	44,275	43,161	42,104
皮膚科	－	－	－	－	－
泌尿器科	50,183	47,489	45,255	43,831	48,751
産婦人科	－	－	－	－	－
眼科	61,709	57,154	57,985	63,133	57,182
耳鼻咽喉科	42,885	42,132	42,638	45,832	46,594
リハ科	－	－	－	－	－
放射線科	－	－	－	－	－
麻酔科	－	－	－	－	－
歯科口腔外科	60,262	59,328	57,621	62,097	66,321
医療相談科	74,932	74,930	－	－	－
合計	**45,500**	**46,668**	**46,896**	**47,878**	**47,173**

診療科別外来単価の推移

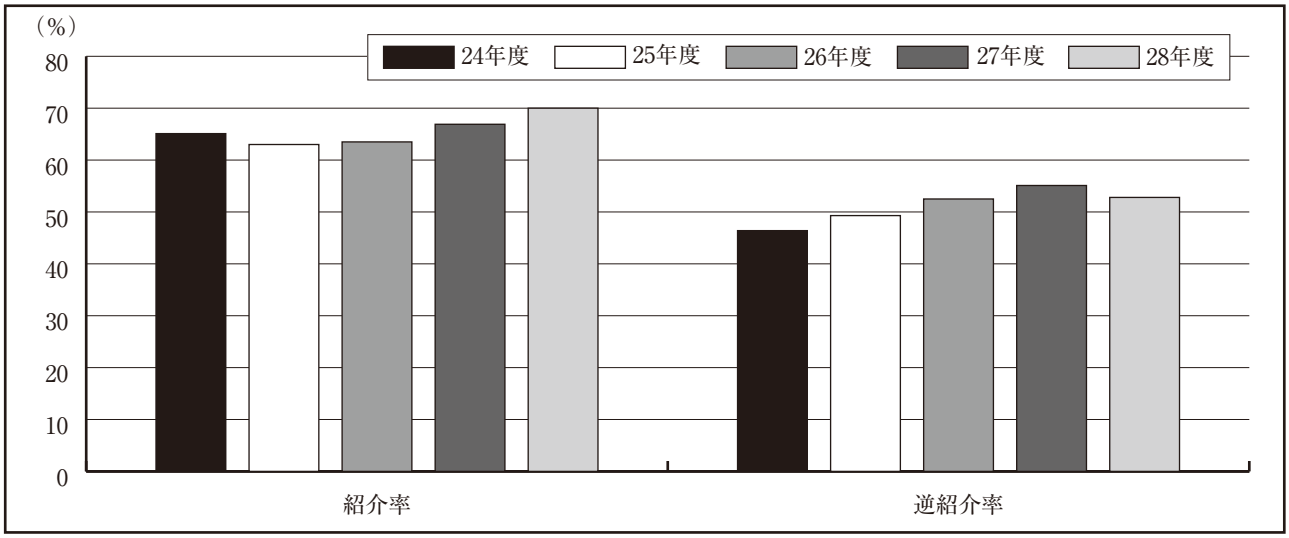
（単位：円）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
内科	17,700	19,529	23,612	29,859	32,192
精神科	－	－	5,140	5,490	5,524
神経内科	9,176	8,970	9,728	10,302	9,650
循環器内科	7,558	7,369	7,048	6,753	6,861
小児科	－	－	－	－	－
外科	18,645	18,367	19,106	19,243	19,671
整形外科	6,452	6,565	6,464	6,725	6,568
形成外科	5,634	6,391	6,745	9,232	9,385
脳神経外科	8,724	8,385	8,497	8,502	9,134
皮膚科	763	1,479	1,274	1,624	1,896
泌尿器科	17,717	17,842	18,168	18,235	17,965
産婦人科	5,220	6,627	5,127	7,086	5,277
眼科	4,770	4,586	4,775	4,803	5,223
耳鼻咽喉科	6,012	6,012	6,409	6,329	6,571
リハ科	4,692	4,356	4,269	3,418	3,510
放射線科	14,657	14,416	14,715	14,852	15,892
麻酔科	3,877	8,818	3,765	1,943	1,456
歯科口腔外科	5,279	6,833	7,138	7,372	7,328
医療相談科	33,872	35,610	39,984	37,203	35,908
合計	**10,448**	**11,169**	**12,316**	**13,790**	**14,169**

紹介率・逆紹介率の推移

（単位：%）

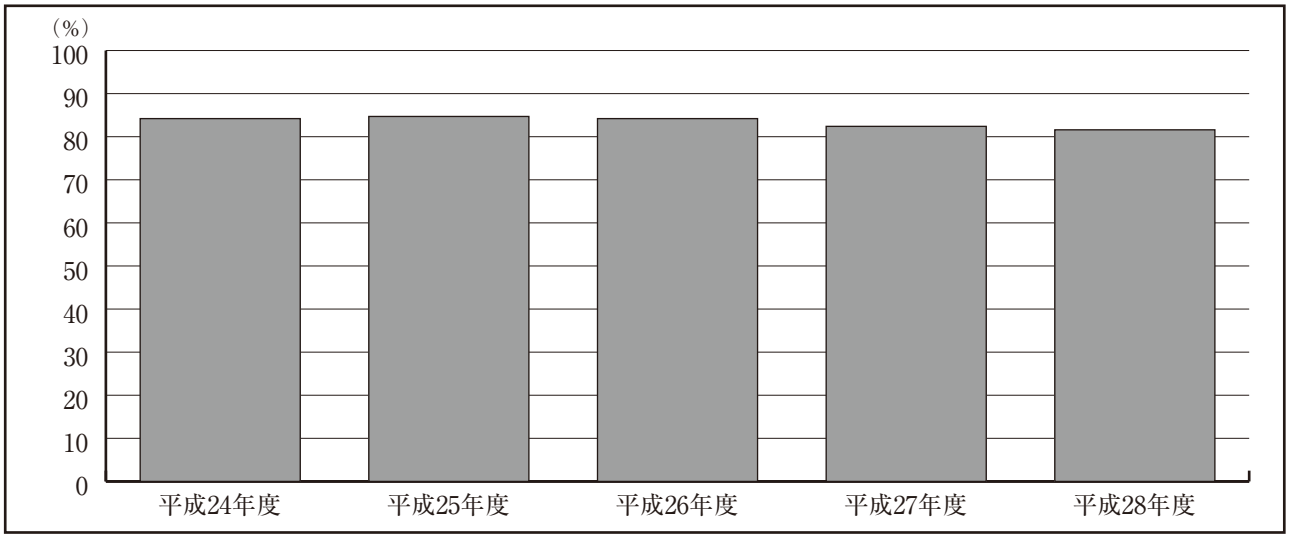
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
紹介率	65.1	63.0	63.5	66.9	70.0
逆紹介率	46.4	49.3	52.5	55.1	52.8



病床利用率の推移

（単位：%）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
病床利用率	84.2	84.7	84.2	82.4	81.6



平均在院日数の推移

（単位：日）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
内科	15.6	13.5	15.8	14.9	13.7
神経内科	30.2	27.7	35.4	31.4	31.5
循環器内科	18.2	18.6	11.2	10.0	9.0
小児科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科	14.3	14.0	15.8	15.3	16.8
整形外科	22.1	21.1	21.3	23.5	25.8
形成外科	14.3	13.3	14.3	13.9	13.3
脳神経外科	19.0	19.5	22.6	25.4	25.5
皮膚科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	11.0	12.8	12.5	13.3	11.6
産婦人科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
眼科	6.3	7.2	8.6	7.2	7.2
耳鼻咽喉科	9.5	10.7	9.7	9.3	9.0
リハ科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	4.2	4.4	4.6	4.0	3.5
医療相談科	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0
合計	**15.6**	**14.8**	**16.4**	**16.1**	**15.6**

時間外取扱患者数　総数と１日平均の推移

（単位：人）

総数	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
内科	1,268	1,258	1,023	1,204	1,234
精神科	0	0	0	0	1
神経内科	78	74	57	58	62
循環器内科	8	7	3	1	3
小児科	0	0	0	0	0
外科	194	190	162	168	185
整形外科	813	910	1,009	863	927
形成外科	527	337	357	312	274
脳神経外科	552	586	634	669	722
皮膚科	0	0	0	0	0
泌尿器科	134	151	98	117	114
産婦人科	0	0	0	0	0
眼科	71	68	54	52	64
耳鼻咽喉科	210	203	197	207	203
リハ科	0	0	0	0	0
放射線科	21	1	0	0	0
麻酔科	0	0	0	0	1
歯科口腔外科	78	49	50	40	25
医療相談科	0	0	0	0	0
合計	**3,954**	**3,834**	**3,644**	**3,691**	**3,815**

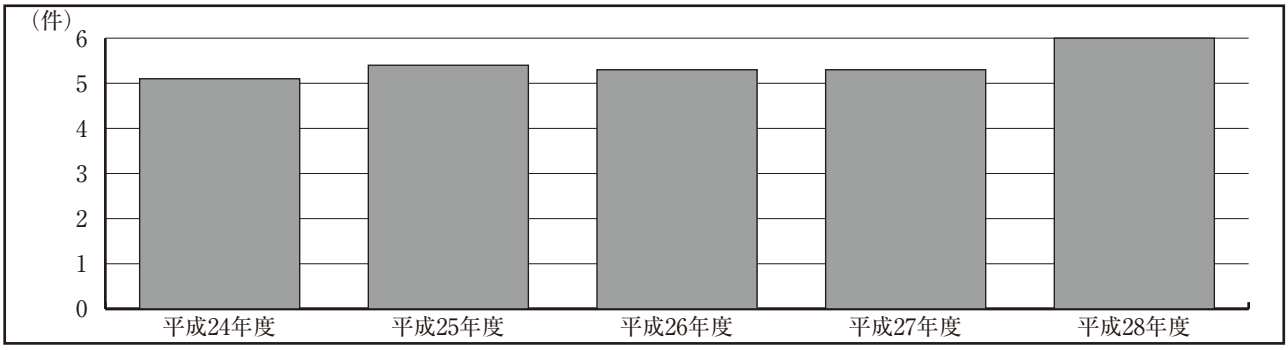
（単位：人）

１日平均	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
内科	3.5	3.4	2.8	3.3	3.4
精神科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
神経内科	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
循環器内科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小児科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
外科	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5
整形外科	2.2	2.5	2.8	2.4	2.5
形成外科	1.4	0.9	1.0	0.9	0.8
脳神経外科	1.5	1.6	1.7	1.8	2.0
皮膚科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
泌尿器科	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3
産婦人科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
眼科	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2
耳鼻咽喉科	0.6	0.6	0.5	0.6	0.6
リハ科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放射線科	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
歯科口腔外科	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1
医療相談科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	**10.8**	**10.5**	**10.0**	**10.1**	**10.5**

救急車受入件数（総数と１日平均）

（単位：件）

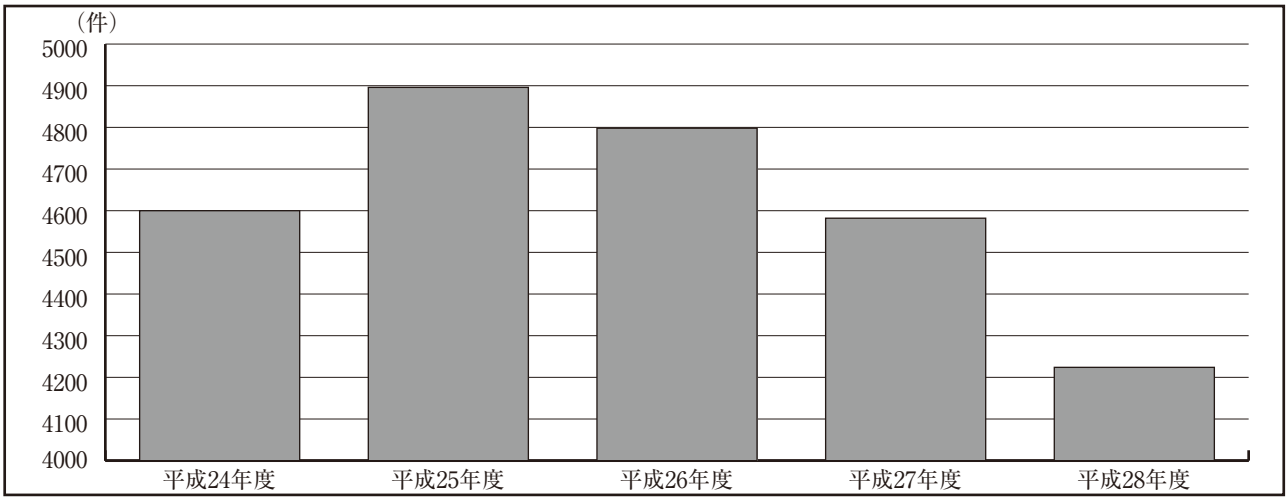
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
総数	1,875	1,986	1,919	1,948	2,185
１日平均	5.1	5.4	5.3	5.3	6.0



手術件数の推移（手術室内）

（単位：件）

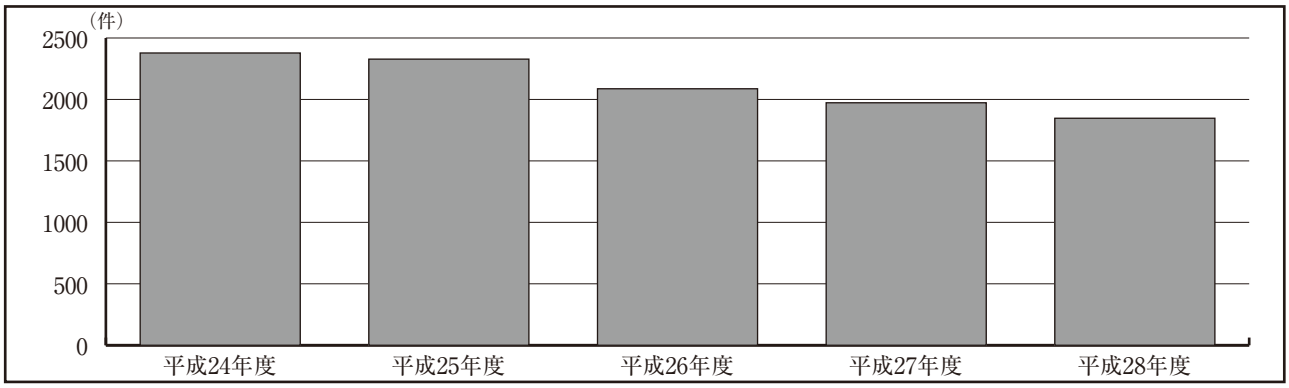
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
内科	0	0	3	2	2
神経内科	1	2	2	－	－
外科	722	679	591	610	630
整形外科	1,106	1,402	1,469	1,156	801
形成外科	743	788	837	785	809
脳神経外科	487	449	419	349	332
泌尿器科	250	228	231	278	287
眼科	201	171	177	301	313
耳鼻咽喉科	360	340	281	336	290
歯科	731	839	788	765	760
合計	**4,601**	**4,898**	**4,798**	**4,582**	**4,224**



全身麻酔件数の推移

（単位：件）

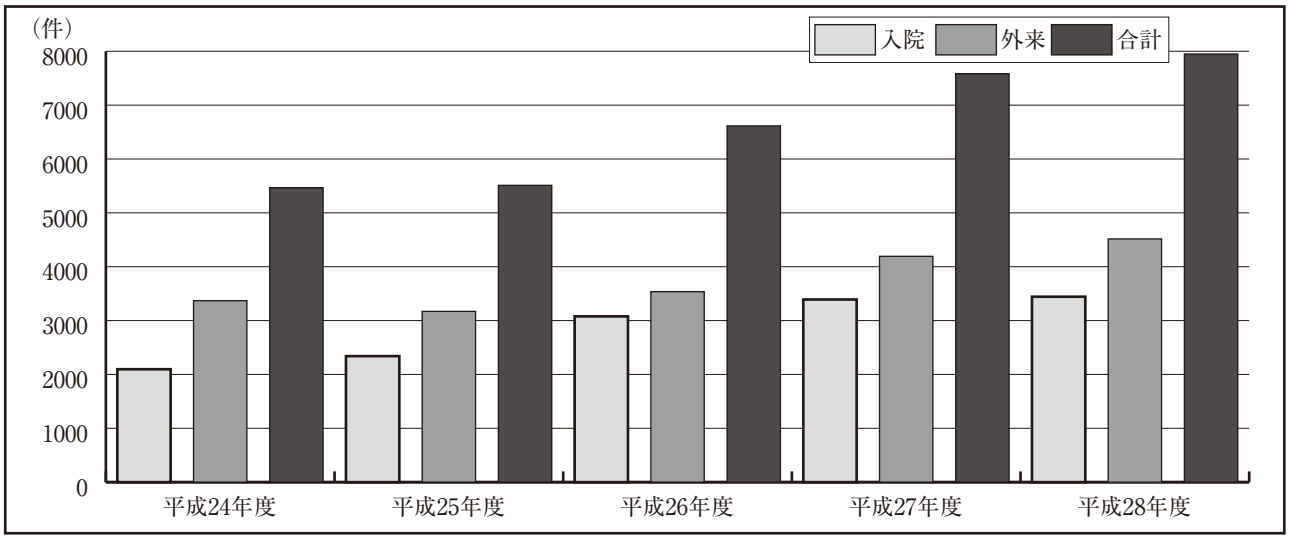
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
全身麻酔件数	2,378	2,328	2,087	1,973	1,847



化学療法件数の推移（入院・外来）

（単位：件）

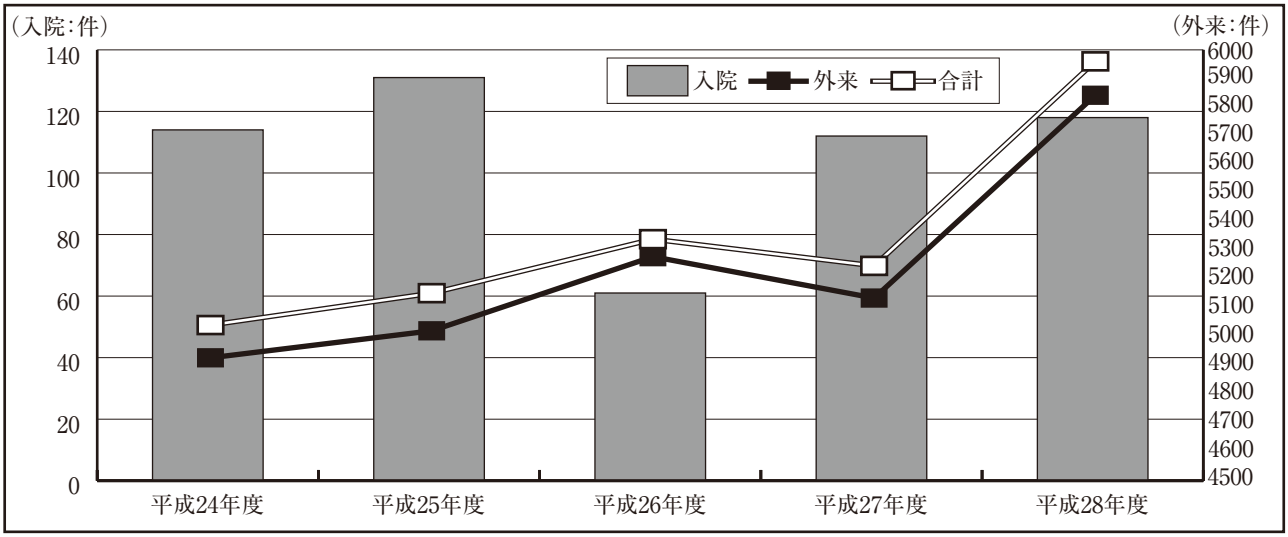
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
入院	2,097	2,340	3,078	3,391	3,433
外来	3,369	3,171	3,537	4,193	4,516
合計	**5,466**	**5,511**	**6,615**	**7,584**	**7,949**



透析件数の推移（入院・外来）

（単位：件）

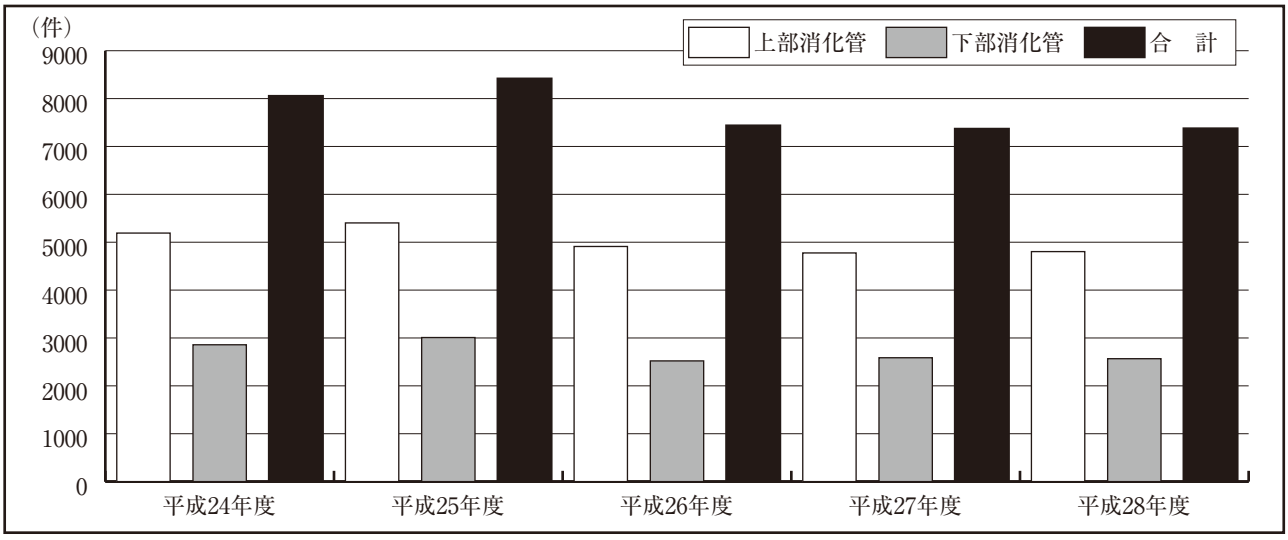
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
入　　院	114	131	61	112	118
外　　来	4,928	5,022	5,280	5,136	5,842
合　　計	**5,042**	**5,153**	**5,341**	**5,248**	**5,960**



内視鏡件数の推移（上部・下部）

（単位：件）

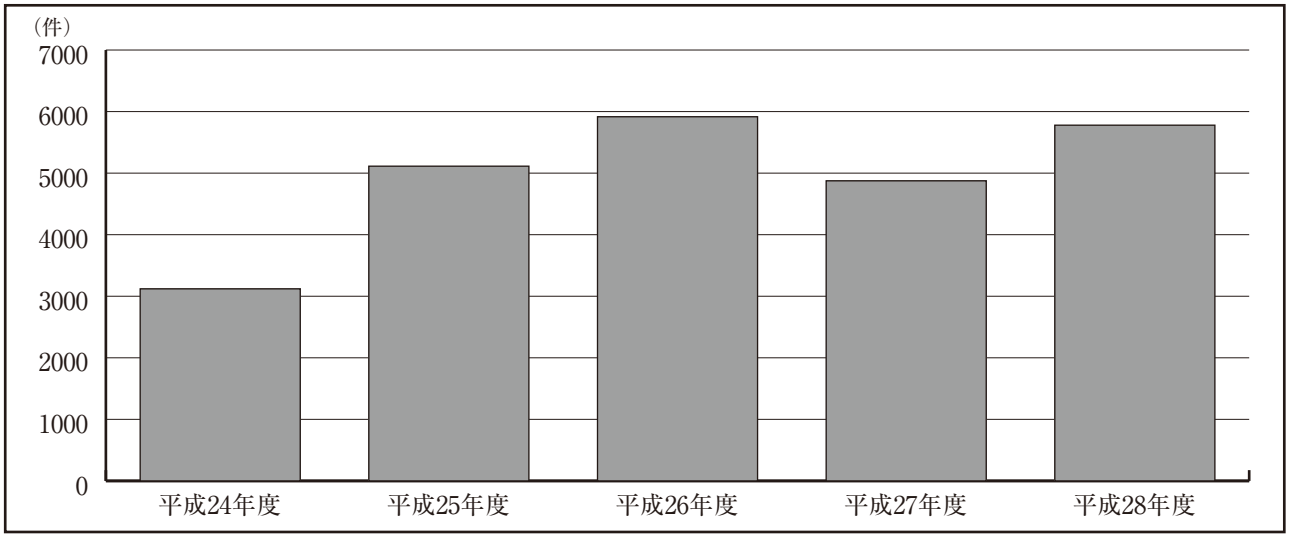
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
上　部　消　化　管	5,191	5,403	4,911	4,776	4,804
下　部　消　化　管	2,858	3,009	2,521	2,587	2,567
合　　計	**8,049**	**8,412**	**7,432**	**7,363**	**7,371**



放射線治療件数の推移

（単位：件）

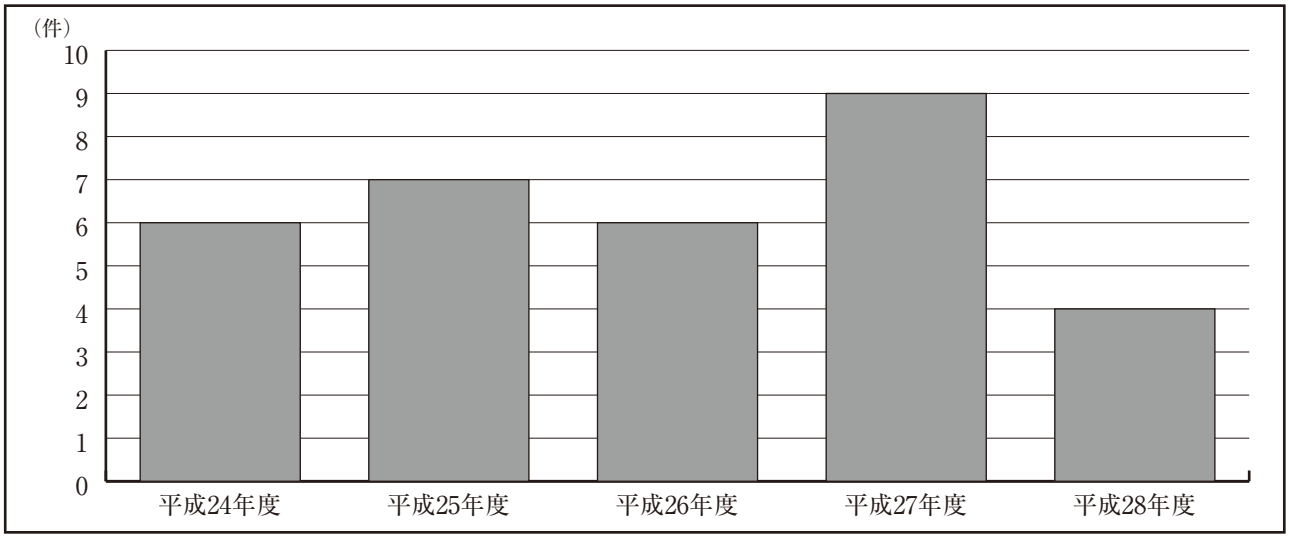
1　日　平　均	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
放　射　線　件　数	3,120	5,113	5,916	4,875	5,779



解剖件数の推移

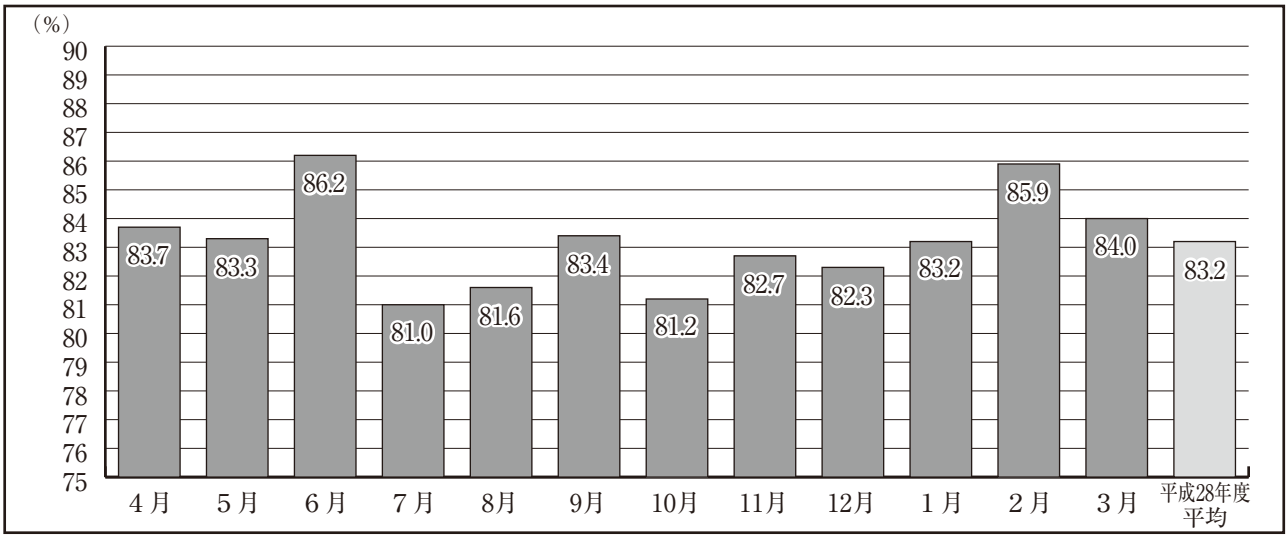
（単位：件）

1　日　平　均	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
解　剖　件　数	6	7	6	9	4



2016年度　後発医薬品指数

年　月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H28年度平均
後発医薬品指数（%）	83.7	83.3	86.2	81.0	81.6	83.4	81.2	82.7	82.3	83.2	85.9	84.0	83.2



ＤＰＣ14桁　診断群分類上位頻度表（全科共通）

対象：2016年4月1日～2017年3月31日退院患者

（転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計）

順位	診断群分類番号	診断群分類名称	症例数（件）
1	060100xxxxxxノ	小腸大腸の良性疾患の短手3（内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満））	564
2	020110xxxxxxリ	白内障､水晶体の疾患の短手3（水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他）（片側））	172
3	010111xxxxx0xx	遺伝性ニューロパチー　処置2なし	142
4	130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫　手術なし 処置2：リツキサン(4) 副傷病なし	142
5	010060xxCCPM04	脳梗塞（04）手術なし 処置1なし 処置2：ラジカット（4）副傷病：なし/水頭症等（1）他	123
6	060340xx03x00x	胆管結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 処置2なし 副傷病なし	100
7	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 その他の手術 処置2なし	96
8	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	87
9	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 処置1なし 処置2なし	84
10	110080xxxxxxホ	前立腺の悪性腫瘍の短手3（前立腺針生検法）	74
11	130010xx97x2xx	急性白血病 その他の手術 処置2：化学療法（2）	72
12	160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	70
13	030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	69
14	090010xx99x40x	乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置2：ジェムザール等（4）副傷病なし	67
15	160620xx01xxxx	肘、膝の外傷 腱縫合術等	63
16	060035xx99x00x	結腸の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし 副傷病なし	57
17	060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	57
18	040080xxCCPM04	肺炎等（04）75歳以上の市中肺炎 手術なし 処置2なし 重症度:中	56
19	060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	56
20	180040xx97x0xx	手術・処置等の合併症 その他の手術 処置2なし	53

DPC　MDC6桁　診療科別上位頻度表

対象：2016年4月1日～2017年3月31日退院患者
（転科を含み、医療資源を最も投入した傷病の診療科で集計）

内　科

順位	MDC6	MDC６名称	症例数（件）
1	060100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む）	730
2	130030	非ホジキンリンパ腫	279
3	060020	胃の悪性腫瘍	212
4	06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	179
5	060035	結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	166
6	060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	141
7	060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む）	132
8	040040	肺の悪性腫瘍	119
9	060010	食道の悪性腫瘍（頸部を含む）	119
10	060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	116

神経内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	010160	パーキンソン病	25
2	010090	多発性硬化症	20
3	010170	基底核等の変性疾患	19
4	010155	運動ニューロン疾患等	16
5	070560	全身性臓器障害を伴う自己免疫性疾患	14
6	010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	10
7	010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	8
8	010140	筋疾患（その他）	7
9	010060	脳梗塞	4
10	010130	重症筋無力症	4

循環器内科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	050210	徐脈性不整脈	1

外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	090010	乳房の悪性腫瘍	250
2	060160	鼠径ヘルニア	101
3	060335	胆嚢水腫、胆嚢炎等	66
4	060035	結腸（虫垂を含む）の悪性腫瘍	60
5	060040	直腸肛門（直腸Ｓ状部から肛門）の悪性腫瘍	42
6	060020	胃の悪性腫瘍	40

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
7	060150	虫垂炎	36
8	060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	34
9	060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く）	17
10	060330	胆嚢疾患（胆嚢結石など）	14

整形外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む）腰部骨盤、不安定椎	91
2	160800	股関節大腿近位骨折	85
3	160620	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む）	80
4	070230	膝関節症（変形性を含む）	58
5	160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む）	35
6	160610	四肢筋腱損傷	30
7	160760	前腕の骨折	30
8	160850	足関節・足部の骨折、脱臼	28
9	160820	膝関節周辺骨折・脱臼	24
10	071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	24

形成外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	020230	眼瞼下垂	96
2	080007	皮膚の良性新生物	58
3	080006	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	34
4	020320	眼瞼、涙器、眼窩の疾患	25
5	160200	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む）	24
6	080180	母斑、母斑症	20
7	100100	糖尿病足病変	11
8	070570	瘢痕拘縮	11
9	080005	黒色腫	10
10	080010	急性膿皮症	10

脳神経外科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	010060	脳梗塞	182
2	010111	遺伝性ニューロパチー	139
3	070343	脊柱管狭窄（脊椎症を含む）腰部骨盤、不安定椎	73
4	010040	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）	55
5	160100	頭蓋・頭蓋内損傷	49
6	010010	脳腫瘍	30
7	010230	てんかん	30
8	070341	脊柱管狭窄（脊椎症を含む）頸部	25
9	030400	前庭機能障害	24

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
10	010030	未破裂脳動脈瘤	19

泌尿器科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	110080	前立腺の悪性腫瘍	147
2	110070	膀胱腫瘍	118
3	110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	43
4	11001x	腎腫瘍	33
5	11013x	下部尿路疾患	30
6	110420	水腎症（その他）	25
7	110200	前立腺肥大症等	17
8	110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	15
9	11022x	男性生殖器疾患	13
10	110100	精巣腫瘍	10

眼科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	020110	白内障、水晶体の疾患	174
2	020250	結膜の障害	4
3	020220	緑内障	1

耳鼻咽喉科

順位	MDC6	MDC6名称	症例数（件）
1	030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	68
2	003001x	頭頸部悪性腫瘍	66
3	030400	前庭機能障害	57
4	030350	慢性副鼻腔炎	44
5	030150	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍	27
6	030428	突発性難聴	27
7	030250	睡眠時無呼吸	26
8	030390	顔面神経障害	25
9	030380	鼻出血	21
10	030230	扁桃、アデノイドの慢性疾患	20

Ｋｃｏｄｅ　診療科別上位頻度表

対象手術室内施行：2016年4月1日～ 2017年3月31日退院患者

外　科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	79
2	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	46
3	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	46
4	K6335	鼠径ヘルニア手術	38
5	K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（腋窩部郭清を伴わない）	31
6	K726	人工肛門造設術	29
7	K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術）（胸筋切除を併施しない）	24
8	K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術）（腋窩部郭清を伴わない）	21
9	K474-3	乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術	21
10	K740-22	腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術）	18

整形外科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K0461	骨折観血的手術　肩甲骨、上腕、大腿	69
2	K068-2	関節鏡下半月板切除術	52
3	K0821	人工関節置換術　肩、股、膝	44
4	K0483	骨内異物（挿入物を含む。）除去術　前腕、下腿	39
5	K047-3	超音波骨折治療法	38
6	K0462	骨折観血的手術　前腕、下腿、手舟状骨	37
7	K0593ロ	骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他）	32
8	K069-3	関節鏡下半月板縫合術	32
9	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。）　椎弓形成	31
10	K0542	骨切り術　前腕、下腿	30

形成外科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K2191	眼瞼下垂症手術（眼瞼挙筋前転法）	70
2	K2193	眼瞼下垂症手術（その他）	33
3	K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術　肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹	28
4	K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	27
5	K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径２cm以上４cm未満）	22
6	K2172	眼瞼内反症手術（皮膚切開法）	22
7	K0011	皮膚切開術（長径10cm未満）	18
8	K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径２cm未満）	18
9	K0021	デブリードマン（100㎠未満）	17
10	K333	鼻骨骨折整復固定術	14

脳神経外科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K1882	神経剥離術（その他）	55
2	K1426	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 椎弓形成	51
3	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（１箇所）	24
4	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	20
5	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	19
6	K1742	水頭症手術（シャント手術）	17
7	K1421	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（多椎間又は多椎弓の場合を含む。） 前方椎体固定	14
8	K0004	創傷処理（筋肉、臓器に達しない）（長径５㎝未満）	12
9	K1643	頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）	11
10	K0593ロ	骨移植術（軟骨移植術を含む、同種骨移植、非生体、その他）	11

泌尿器科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K8036イ	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	81
2	K843	前立腺悪性腫瘍手術	22
3	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	22
4	K7981	膀胱結石、異物摘出術 経尿道的手術	18
5	K773-2	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	16
6	K8412	経尿道的前立腺手術（その他）	16
7	K6113	抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	10
8	K773	腎（尿管）悪性腫瘍手術	10
9	K610-3	内シャント設置術	7
10	K833	精巣悪性腫瘍手術	7

眼　科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K2821ロ	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他）	175
2	K224	翼状片手術（弁の移植を要する）	4
3	K2822	水晶体再建術（眼内レンズを挿入しない場合）	3
4	K279	硝子体切除術	1

耳鼻咽喉科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術２型（副鼻腔単洞手術）	33
2	K3772	口蓋扁桃手術 摘出	23
3	K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術３型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	19
4	K4571	耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	15
5	K3892	喉頭・声帯ポリープ切除術 直達喉頭鏡又はファイバースコープによるもの	11
6	K4691	頸部郭清術（片）	9
7	K340-3	内視鏡下鼻・副鼻腔手術１型（副鼻腔自然口開窓術）	9
8	K347	鼻中隔矯正術	8
9	K4611	甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術（片葉のみ）	8
10	K386	気管切開術	6

歯科口腔外科

No.	K code	手術名称	回数（件）
1	K4045	抜歯手術（埋伏歯）	416
2	K4043	抜歯手術（臼歯）	151
3	K4042	抜歯手術（前歯）	38
4	K4361	顎骨腫瘍摘出術（長径３センチメートル未満）	9
5	K4362	顎骨腫瘍摘出術（長径３センチメートル以上）	8
6	K4151	舌悪性腫瘍手術（切除）	4
7	K4291	下顎骨折観血的手術（片側）	3
8	K4422	上顎骨悪性腫瘍手術（切除）	3
9	K4041	抜歯手術（乳歯）	3
10	K4502	唾石摘出術（深在性のもの）	3

Ⅴ. 講演会等活動実績報告

講演活動報告

学術講演会…… 147
学術研究会…… 149

学術講演会

内　科

宮城島　拓人
他人事（ひとごと）ではないHIV/AIDSの話
（世界，日本そして釧路）
第50回釧勝地区漁協職員大会
2016.2.13　釧路市

宮城島　拓人
他人事（ひとごと）ではないHIV/AIDSの話
（世界，日本そして釧路）
北海道看護協会釧路支部三職能合同集会
2016.2.20　釧路市

宮城島　拓人
HIV/AIDSの最近の話題
第一回釧路労災病院HIV/AIDSケアセミナー
2016.2.25　釧路市

髙橋　一宏
当院における上部消化管ESDの取り組み
（ボノプラザンの役割）
竹キャブ発売１周年記念講演会
2016.4.2　札幌市

寺下　勝巳
当院におけるHBVマーカー検査に現状
釧路B型肝炎ウイルス再活性化対策セミナー
2016.6.24　釧路市

曽我部　進
当院でのサイラムザの使用経験
釧路胃癌学術講演会
2016.7.7　釧路市

松川　敏大
慢性GVHDについて
平成28年度造血幹細胞移植拠点病院研修会
第一回出張研修セミナー
2016.7.8　釧路市

曽我部　進
地方病院の胃癌化学療法：治療戦略と有害事象マネージメント
北見地区サイラムザ講演会
2016.7.14　北見市

宮城島　拓人
人ごとではないHIV/AIDSの話
（もう大丈夫なんて言わせない）
中標津高校思春期講座
2016.7.22　中標津町

髙橋　一宏
札幌及び各地との連携と釧路での事例
IBD医療講演会
（北海道難病連第43回難病患者・障碍者と家族の全道集会　釧路大会　北海道IBD分科会）
2016.7.31　釧路市

髙橋　一宏
釧路労災病院における潰瘍性大腸炎に対するapheresisの現状と今後の展望
Sapporo Apheresis and Nutrition Therapy for IBD Conference
2016.9.17　札幌市

外　科

小笠原　和宏
緩和ケアとは 「つらさ」とどう向き合うか
緩和ケア市民公開講座
2016.12.17　釧路市

形成外科

池田　正起
足のキズにはご注意を！　～糖尿病性潰瘍～
くしろ糖尿病デー
2016.11.19　釧路市

脳神経外科

井須　豊彦
特別講演　-脊椎疾患のprinciple lecture-
北総脳神経外科フォーラム
2016.4.16　千葉市

井須　豊彦
特別講演　-触れてわかる腰痛治療の実際、触れてわかる　みてわかる-
腰痛診療セミナー
2016.8.26　釧路市

井須　豊彦
講義　医学生よ大志を抱け　-末梢神経外科を極める
富山大学脳神経外科講義
2016.10.27　富山市

井須　豊彦
特別講演　–触れてわかる腰下肢痛診療–
第７回静岡疼痛フォーラム
2016.10.29　静岡市

歯科口腔外科

藤盛　真樹，矢島　優己，大坪　誠治
「口腔ケア」応用編
釧路労災病院NSTセミナー
2016.1.22　釧路市

藤盛　真樹，西田　佳織，嶋崎　康相，大坪　誠治
口腔ケア　～あなたのお口はきれいですか？～
釧路労災病院ひなたぼっこ
2016.5.20　釧路市

藤盛　真樹，西田　佳織，嶋崎　康相，大坪　誠治
「当院における周術期の口腔機能管理」
釧路労災病院　内科・外科カンファレンス
2016.6.22　釧路市

藤盛　真樹
第25回ケニア・フリーメディカルキャンプに参加して
～歯科治療編～
第１回地平線会議
2016.10.9　釧路市

藤盛　真樹
お口から始まる健康管理
弟子屈町健康推進課講演会
2016.11.8　弟子屈町

藤盛　真樹
歯周病と全身疾患の関わり
弟子屈町健康推進課講演会
2016.11.8　弟子屈町

藤盛　真樹
歯周病の健康管理
弟子屈町健康推進課講演会
2016.11.9　弟子屈町

薬剤部

小川　洋司
医療用麻薬の適正な取り扱いについて
医療安全研修会
2016.1.28　釧路市

中村　智
薬剤業務について（薬剤部紹介）
平成28年度新規採用職員研修会
2016.4.4　釧路市

小島　佑太
アブストラルの使用方法
院内病棟学習会
2016.7.5　釧路市

松田　俊之
抗血栓薬と麻薬を安全・安心に取り扱うために
平成28年度第１回医薬品安全管理研修
2016.8.31　釧路市

向井　聡志
ジェブタナ点滴静注60mg の適正使用
院内病棟学習会
2016.9.14　釧路市

松田　俊之
薬学部薬学科を修学される皆さんへ
北海道大学薬学部薬学科オリエンテーション特別講演会
2016.9.28　釧路市

小島　佑太
痛みの上手な伝え方
平成28年度釧路ろうさい病院
　がんサロン「ひなたぼっこ」
2016.10.19　釧路市

矢澤　敏
輸液療法の基礎知識
平成28年度第６回NSTセミナー
2016.11.8　釧路市

岩下　尚弘
臨床試験と治験のお話
平成28年度釧路ろうさい病院
　がんサロン「ひなたぼっこ」
2016.11.15　釧路市

小島　佑太
WHOの３段階除痛ラダー
院内病棟学習会
2016.11.11　釧路市

小島　佑太
疼痛以外の身体的諸症状の緩和
院内病棟学習会
2016.11.18　釧路市

竹内　和沙
危険な薬物（不正薬物）について
釧路市学校薬剤師会主催小学校講義
2016.11.29　釧路市

リハビリテーション部

田口　暢秀
ケガをしないカラダを作ろう！
～スポーツ障害の対策と予防～
平成27年度　別海町競技力向上セミナー
2016.3.21　別海町

田口　暢秀
ストレッチング　～快適な身体で働き続けるために～
（株）タカナシ乳業　依頼講演
2016.5.25　浜中町

田口　暢秀
体幹トレーニング
弟子屈町　ストレッチング教室
2016.6.5　弟子屈町

田口　暢秀
元気で長く働くために
（株）三輪運輸　依頼講演
2016.9.13　釧路市

田口　暢秀
ウォーミングアップ
弟子屈町　ストレッチング教室
2016.12.10　弟子屈町

学術研究会

内　科

中島　正人，羽場　真，小田　寿，曽我部　進，
髙橋　一宏，小林　良充，寺下　勝巳，小笠原　和宏，
石田　雄介，宮城島　拓人
術前診断に苦慮した肝外発育型肝血管腫の１例
第64回日本消化器画像診断研究会
2016.2.26　名古屋市

羽場　真，小林　良充，小田　寿，曽我部　進，
髙橋　一宏，寺下　勝巳，小笠原　和宏，石田　雄介，
宮城島　拓人
未分化癌に相当する微笑浸潤巣を伴ったIPMNに
下部胆管癌が重複した１例
第64回日本消化器画像診断研究会
2016.2.26　名古屋市

横山　翔大，宮城島　拓人
当院でのリコモジュリンの使用経験
～血液疾患，感染症における使用～
Sapporo Thrombomodulin Forum
2016.4.15　札幌市

髙橋　一宏
当院の炎症性腸疾患における免疫調節薬
（アザチオプリン）使用例の検討
第16回IBDフォーラムin 札幌
2016.6.11　札幌市

髙橋　一宏
当院における食道がん症例のまとめ
第23回道東消化器内視鏡談話会
2016.7.9　釧路市

吉河　歩，寺下　勝巳，松田　宗一郎，山村　貴洋，
更科　耕一郎，中野　真太郎，小林　良充，
髙橋　一宏，寺下　勝巳，羽場　真，曽我部　進，
小田　寿，宮城島　拓人
口腔内扁平苔癬を合併したＣ型肝炎に対してインター
フェロンフリー治療を行い，皮膚障害が改善した１例
第21回北海道レジデントカンファレンス
2016.9.17　札幌市

羽場　真
当院のERCP関連手技における胆管深部挿管法
第４回北海道胆膵治療内視鏡ワークショップ
2016.11.26　札幌市

外　科

江本　慎，小林　清二，河合　朋昭，宮岡　陽一，
柴田　賢吾，吉田　祐一，小笠原　和宏
当院における過去20年間の鼠径ヘルニア手術症例の検討
平成27年度全国労災病院外科研究会
2016.1.15　川崎市

押野　智博，小笠原　和宏，河合　朋昭，小林　清二，
江本　慎，宮岡　陽一，柴田　賢吾，吉田　祐一
同時性対側乳房Paget病を合併した男性乳癌の１例
第76回釧路外科集談会
2016.3.9　釧路市

谷　道夫，小林　清二，千田　圭悟，江本　慎，
河合　朋昭，小笠原　和宏
胃癌と胃神経内分泌癌の同時性重複の１例
第４回道東外科集談会
2016.10.8　釧路市

千田　圭悟，江本　慎，小林　清二，河合　朋昭，
谷　道夫，小笠原　和宏
Richter型大腿ヘルニア嵌頓に対して小腸切除後，一期的にTAPPを施行した１例
第78回釧路外科集談会
2016.11.9　釧路市

整形外科

Koji Yabuuchi，Eiji Kondo，Jun Onodera，
Tomohiro Onodera，Toshiaki Kameda，
Nobuto Kitamura，Kazunori Yasuda，
Norimasa Iwasaki
Clinical Outcome after Osteochondral Autologous Transplantation with and without High Tibial Osteotomy for Spontaneous Osteonecrosis of the knee
３rd Korea-Japan Osteotomy Symposium
2016.1.16　Busan，Korea

小池　良直，藪内　康史，小野寺　智洋，亀田　敏明，
新井　隆太，近藤　英司，岩崎　倫政
脛腓骨遠位部骨折後変形治癒の１例
第19回北海道下肢と足部疾患研究会
2016.2.13　札幌市

Koji Yabuuchi，Eiji Kondo，Jin Onodera，
Tomohiro Onodera，Toshiaki Kameda，Dai Sato，
Takuma Kaibara，Nobuto Kitamura，Tomonori Yagi，
Norimasa Iwasaki，Kazunori，Yasuda
Clinical Outcome of a Novel Fixation System for Open-Wedge High Tibial Osteotomy: Comparison with TomoFix
Asia-Pacific Knee，Arthrosopy and Sports Medicine Society Congress
2016.6.9　Hong Kong，China

羽田　輝
足関節に発生したBrodie骨膿瘍の１例
第56回道東渓和会
2016.7.30　釧路市

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，小野寺　智洋，
亀田　敏明，佐藤　大，甲斐原　拓真，八木　知徳，
岩崎　倫政，安田　和則
TriS Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の短期成績：従来のプレートとの比較
第５回Knee Osteotomyフォーラム
2016.10.15　福岡市

Koji Yabuuchi，Eiji Kondo，Jin Onodera，
Tomonori Yagi，Norimasa Iwasaki，Kazunori Yasuda
Clinical Outcome of Open-Wedge High Tibial Osteotomy Using a Novel Fixation System: Comparison with a Conventional Plate
９th Asia Pacific Knee Society Congress
2016.10.27　Yokohama，Japan

形成外科

池田　正起，北條　正洋，小田　陽一郎
教育研修施設リポート
第32回北大形成外科アカデミー
2016.5.7　札幌市

池田　正起，北條　正洋，小田　陽一郎
北大形成外科連携施設における乳房再建の現状
第７回北海道形成外科フォーラム“北の大地”
2016.8.27　札幌市

泌尿器科

川代　圭太，押野　智博，渡邊　絢子，村橋　範浩，
佐々木　芳浩，野々村　克也
TAEが奏功した非閉塞性持続性勃起症の１例
第38回釧根地区泌尿器科研究会
2016.2.5　釧路市

渡邊　絢子，村橋　範浩，佐々木　芳浩，
野々村　克也
進行性精巣腫瘍の２例
第39回釧根地区泌尿器科研究会
2016.6.3　釧路市

渡邊　絢子，村橋　範浩，佐々木　芳浩，
野々村　克也
パゾパニブが著効した癌性胸水の２例
第40回釧根地区泌尿器科研究会
2016.11.4　釧路市

歯科口腔外科

藤盛　真樹，矢島　優己，大坪　誠治
北海道における病院歯科口腔外科の取り組みについて
釧路地区３病院口腔外科研究会
2016.2.9　釧路市

藤盛　真樹，矢島　優己，大坪　誠治
根管治療薬による顎動脈塞栓症の１例
釧路地区３病院口腔外科研究会
2016.2.9　釧路市

藤盛　真樹，矢島　優己，大坪　誠治
頸部郭清術の解剖と術式について
釧路労災病院　歯科口腔外科　臨床検討会
2016.3.1　釧路市

嶋崎　康相，藤盛　真樹，西田　佳織，大坪　誠治
病病連携にて治療を行った自殺企図による下顎骨骨折
の１例
釧路デンタルスタディクラブ
2016.8.9　釧路市

大坪　誠治，西田　佳織，嶋崎　康相，藤盛　真樹
ICG蛍光法の口腔がん応用までの軌跡
釧路デンタルスタディクラブ
2016.10.25　釧路市

薬剤部

竹内　和沙，松田　俊之，中村　智，岩下　尚弘
皮膚浸潤を合併した術後再発乳がんに対してモーズペ
ーストを使用した一症例
平成28年度北海道ブロック労災病院薬剤部研修会
2016.5.14　札幌市

矢澤　敏，松田　俊之
当院におけるペグフィルグラスチムの使用状況
平成28年度北海道ブロック労災病院薬剤部研修会
2016.5.14　札幌市

谷向　充哉
多発性骨髄腫治療における現状と課題
がん化学療法を考える会
2016.5.26　釧路市

谷向　充哉
パネルディスカッション
（化学療法の現状と課題・曝露対策・薬薬連携）
「院外処方せんへ臨床検査値添付について」
道東地区オンコロジーミーティング
2016.8.27　釧路市

髙橋　道生
エイズ治療中核拠点病院
釧路ろうさい病院のHIV ／ AIDSの現状
第５回HIV ／ AIDSブロック・中核拠点病院薬剤師連
絡会
2016.11.26　鹿児島市

リハビリテーション部

田口　暢秀
殿筋障害に対するストレッチングの実際
～患者教育用パンフレットから～
釧路脳神経外科懇話会
2016.2.5　釧路市

田口　暢秀
効果的な体力作りとは？
平成28年度根室管内スポーツクラブ協議会研修会
2016.6.16　津別町

田口　暢秀
足部・足関節疾患に対するスポーツ理学療法
北海道理学療法士会　技術講習会
2016.10.16　札幌市

田口　暢秀
高校生のスポーツ障害・外傷
～そのリハビリテーションと予防～
平成28年度十勝管内高等学校教育研究会保健体育分科
会研修会
2016.11.11　士幌町

Ⅳ. 業績目録

(1) 原著・論文 …… 155
(2) 学 会 報 告 …… 157

(1) 原著・論文

内　科

下埜　城嗣，岡田　耕平，押味　和夫，宮城島　拓人
Dutcer bodies in lymphoplasmacytic lymphoma
Jpn J Clin Hematol.
2016年　第57巻　87

外　科

神宮司　誠也，小笠原　和宏，大橋　誠，小川　浩平
労災病院の入院時病職歴データとリンクした，試験的退院後職場復帰調査
日本職業・災害医学会会誌
2016年　第65巻第１号　8-13

整形外科

小池　良直，高畑　雅彦，岩田　玲，校條　祐輔，
小甲　晃史，須藤　英毅，岩崎　倫政
児童期に発症した腰椎椎間板ヘルニアの特徴
北海道整形災害外科学会雑誌
2016年　57巻　279-282

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，小野寺　智洋，
亀田　敏明，北村　信人，八木　知徳，安田　和則，
岩崎　倫政
内側楔状開大式高位脛骨骨切り術後のスポーツ復帰に関する検討
日本関節病学会誌
2016年　35巻　149-154

形成外科

池田　正起，林　利彦，村尾　尚規，舟山　恵美，
小山　明彦，山本　有平
ケロイド・肥厚性瘢痕切除後の電子線照射とステロイド局注療法に関する考察－患者アンケート調査を通じて－
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル
2016年　10巻　１－６

脳神経外科

井須　豊彦，金　景成　編著
超入門　手術で治すしびれと痛み　－絞扼性末梢神経障害の診断と手術
メディカ出版
2016年

井須　豊彦，金　景成
わたしの手術記載。末梢神経の手術　-上殿皮神経障害
新ＮＳ　ＮＯＷ
2016年　第６巻　142-143

井須　豊彦，金　景成，森本　大二郎，岩本　直高，
山内　朋裕，松本　順太郎
イラストレイテッドサージェリー　-上殿皮神経剥離術
脊椎脊髄ジャーナル
2016年　29巻　763-768

井須　豊彦
私の手術論　－末梢神経障害　診断治療のすすめ，アイディアを生かしてできることを着実に
脳神経外科速報
2016年　26巻　896-907

金　景成，井須　豊彦
若手脳神経外科医が知っておきたい下肢のしびれ，痛み診断の最新知見　－末梢神経障害に主眼をおいて
脳神経外科速報
2016年　26巻　266-272

金　景成，井須　豊彦
上殿皮神経障害のレビュー
脊髄外科
2016年　30巻　141-145

Kim K, Isu T, Chiba Y, Iwamoto N, Morimoto D, Isobe M.
Decompression of the gluteus medius muscle as a new treatment for buttock pain: technical note
Eur Spine J
2016年　25　1282-1288

金　景成，井須　豊彦，江本　直哉，國保　倫子，
森本　大二郎，岩本　直高，小林　士郎，森田　明夫
糖尿病患者にみられたしびれの原因に関する前向き検討
脳神経外科
2016年　44巻　297-303

Iwamoto N, Isu T, Kim K, Chiba Y, Kokubo R, Morimoto D, Shirai S, Yamazaki K, Isobe M.
Low back pain due to superior cluneal nerve entrapment neuropathy in patients with Parkinson's disease.
World Neurosurg
2016年　87　250-254

Iwamoto N, Kim K, Isu T, Chiba Y, Morimoto D, Isobe M.
Repetitive Plantar Flexion Test as an Adjunct Tool for the Diagnosis of Common Peroneal Nerve Entrapment Neuropathy
World Neurosurg
2016年86　484-489

Kokubo R, Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Kobayashi S, Morita A.
The impact of tarsal tunnel syndrome to cold sensation in the pedal extremities.
World Neurosurg
2016年　92　249-254

岩本　直高，井須　豊彦，金　景成，山内　朋裕，
森本　大二郎，千葉　泰弘，磯部　正則
絞扼性総腓骨神経障害に対する局所麻酔下神経剥離術
脳神経外科速報
2016年　26巻　1109-1115

Morimoto D, Isu T, Kim K, Isobe M, Takahashi T, Ishida Y, Takei H, Morita A
Surgical treatment for posttraumatic hemorrhage inside a filum terminale myxopapillary ependymoma: a case report and literature review.
Eur Spine J
2016年　25　239-244

森本　大二郎，井須　豊彦，金　景成，山崎　和義，
岩本　直高，磯部　正則，森田　明夫
非特異的腰痛に対して上殿皮神経の神経剥離術が有効であった1症例
脳神経外科
2016年　44巻　155-160

金　景成，井須　豊彦
末梢神経 絞扼性神経障害に対する手術
新ＮＳ　Now
2016年　6巻　130-140

國保　倫子，金　景成，井須　豊彦
突然の片麻痺にて発症した頚椎硬膜外血腫
脳卒中症候学
2016年　671-673

森本　大二郎，井須　豊彦，金　景成
末梢神経手術のモニタリング
新ＮＳ　Now
2016年　8巻　178-186

菅原　淳，石垣　大哉，井須　豊彦，小笠原　邦昭
重症歯周炎が原因と考えられた頚髄髄内膿瘍の1例
No Sinkei Geka
2016年　44巻　685-689

井須　豊彦
腰痛対策の新常識　-最近注目されている腰痛の原因（上殿皮神経障害ーおしり神経腰痛）
ＮＨＫ Eテレ　-チョイス@病気になったとき-
2016.4.23　東京都

歯科口腔外科

薬師寺　登，和田　康志，竹信　俊彦，藤盛　真樹，
荻野　浩子，堀江　彰久，山下　哲郎
歯科医療における機能分化と連携
－病院歯科口腔外科　未来への切符－
日本口腔外科学会雑誌
2016年　第62巻　386-394

Masaki Kaibori，Kosuke Matsui，Seiji Ohtsubo et al.
Evaluation of fluorescence imaging with indocyanine green in hepatocellular carcinoma
Cancer Imaging
2016年　16　6

Seiji Ohtsubo，Mitsuo Kusano
Indocyanine Green Fluorescence Properties
ICG Fluorescence Imaging and Navigation Suegery：Springer
2016年　Chaper 2　9-20

Mitsuo Kusano，Hiromi Ono，Seiji Ohtsubo et al.
Fluorescence Navigation Surgery for Gastrointestinal Tract Cancers
ICG Fluorescence Imaging and Navigation Suegery：Springer
2016年　Chaper14　165-174

Mitsuo Kusano，Seiji OhtsuboHiromi and Shingo Shimada
Basic Aspects of ICG Fluorescence Imaging of the Liver
ICG Fluorescence Imaging and Navigation　Suegery：Springer
2016年　Chaper24　273-280

Shingo Shimada, Seiji Ohtsubo and Mitsuo Kusano
Microscopic Finding of Fluorescence of Liver Cancers
ICG Fluorescence Imaging and Navigation Suegery：Springer
2016年　Chaper28　315-324

Seiji Ohtsubo, Mitsuo Kusano and Miyoko Mori
Superficial Lymph Flow of the Upper Limbs Observed by an Indocyanine Green Fluorescence Method
ICG Fluorescence Imaging and Navigation Suegery：Springer
2016年　Chaper39　423-431

中央検査科・病理診断科

Takei H, Rouah E, Ishida Y.
Brain metastasis: clinical characteristics, pathological findings and molecular subtyping for therapeutic implications.
Brain Tumor Pathol
2016年　33（1）　1-12

Daijiro Morimoto, Toyohiko Isu, Kyongsong Kim, Masanori Isobe, Tatsuro Takahashi, Yusuke Ishida, Hidehiro Takei, Akio Morita
Surgical treatment for posttraumatic hemorrhage inside a filum terminale myxopapillary ependymoma: a case report and literature review
Eur Spine J.
2016年　Suppl 1 doi：10.1007/s00586-016-4521-5. 239-244

⑵ 学会報告

内　科

Takuto Miyagishima, Satoshi Yuki, Hiroshi Nakatsumi, Yasuyuki Kawamoto, Tetsuhito Muranaka, Kentaro Sawada, Yoshimitsu Kobayashi, Takahide Sasaki, Michio Nakamura, Atsushi Sato, Ichiro Iwanaga, Miki Tatayema, Kazuteru Hatanaka, Kazunori Eto, Hiroyuki Okuda, Osamu Muto, Masakazu Abe, Ayane Oba, Sosuke Kato, Kencho Miyashita, Yuh Sakata, Yoshito Komatsu
Observational Cohort Study of 1 st line Bevacizumab Combined with Chemotherapy in Metastatic Colorectal Cancer（HGCSG0802）：Sub-group Analysis by the Glasgow Prognostic Score（GPS）.
ESMO the18 World Congress on Gastrointestinal Cancer
2016.6.29-7.2　Barcelona, Spain

平田　甫，寺下　勝巳，中島　正人，小林　良充，髙橋　一宏，羽場　真，曽我部　進，小田　寿，宮城島　拓人
腹痛を契機として診断した肝外発育型血管腫の１例
第276回日本内科学会北海道地方会
2016.2.27　札幌市

岡田　耕平，横山　翔大，村橋　範浩，押味　和夫，佐々木　芳浩，宮城島　拓人
自家末梢血幹細胞併用大量MEL療法を施行した維持透析中多発性骨髄腫
第38回造血幹細胞移植学会
2016.3.3-5　名古屋市

羽場　真，中島　正人，平田　甫，中野　真太郎，北原　言，二瓶　壮史，小田　寿，曽我部　進，髙橋　一宏，小林　良充，寺下　勝巳，宮城島　拓人
内視鏡的胆道ドレナージは膵癌化学療法症例の予後に影響を与えるか（シンポジウム）
第118回日本消化器病学会北海道地方会
2016.3.5-6　札幌市

中島　正人，更科　耕一郎，二瓶　壮史，平田　甫，中野　真太郎，北原　言，髙橋　一宏，羽場　真，小林　良充，寺下　勝巳，曽我部　進，小田　寿，河合　朋昭，石田　雄介，高橋　達郎，宮城島　拓人
肝転移を伴う進行結腸癌に対して結腸全摘術+幹部分切除を施行したserrated polyposis syndrome の１例
第118回日本消化器病学会北海道地方会
2016.3.5-6　札幌市

中野　真太郎，羽場　真，更科　耕一郎，二瓶　壮史，平田　甫，北原　言，中島　正人，髙橋　一宏，小林　良充，寺下　勝巳，曽我部　進，小田　寿，宮岡　陽一，小笠原　和宏，高橋　達郎，宮城島　拓人
特殊な発育形態を示した虫垂癌の１例
第118回日本消化器病学会北海道地方会
2016.3.5-6　札幌市
横山　翔大，岡田　耕平，押味　和夫，宮城島　拓人

シクロフォスファミドが著効した赤芽球癆合併γΔ型T-LGL白血病
第51回日本血液学会春季北海道地方会
2016.4.9　札幌市

中野　真太郎，松川　敏大，小林　良充，寺下　勝巳，髙橋　一宏，羽場　真，曽我部　進，小田　寿，宮城島　拓人，高橋　達郎
肺小細胞癌と慢性リンパ性白血病の同時性合併例
第277回日本内科学会北海道地方会
2016.7.23　札幌市

小林　良充，中野　真太郎，平田　甫，中島　正人，寺下　勝巳，髙橋　一宏，羽場　真，曽我部　進，小田　寿，宮城島　拓人
治癒切除不能な進行再発胃癌におけるRamucirumabの３時治療以降における有用性の検討
第14回日本臨床腫瘍学会学術集会
2016.7.28-30　神戸市

曽我部　進，二瓶　壮史，中野　真太郎，中島　正人，髙橋　一宏，寺下　勝巳，小林　良充，羽場　真，小田　寿，宮城島拓人
TAS-102とRegorafenibのsequentialな投与の有効性および安全性についての後ろ向き検討
第14回日本臨床腫瘍学会学術集会
2016.7.28-30　神戸市

羽場　真
Dose endoscopic biliary drainage affect the outcomes of patients receiving chemotherapy for pancreatic cancer?
第47回日本膵臓学会大会
2016.8.4-7　仙台市

山村　貴洋，曽我部　進，更科　耕一郎，松田　宗一郎，中野　真太郎，髙橋　一宏，小林　良充，寺下　勝巳，羽場　真，小田　寿，小林　清二，宮城島　拓人
FAPにて大腸全摘後にデスモイドを発症した２例
第119回日本消化器病学会北海道地方会・第113回日本消化器内視鏡学会北海道地方会
2016.9.3-4　札幌市

松田　宗一郎，髙橋　一宏，山村　貴洋，曽我部　進，更科　耕一郎，中野　真太郎，小林　良充，寺下　勝巳，羽場　真，小田　寿，宮城島　拓人
食道悪性黒色腫に対してnivolumabを投与した１例
第119回日本消化器病学会北海道地方会・第113回日本消化器内視鏡学会北海道地方会
2016.9.3-4　札幌市

更科耕一郎，羽場　真，松田　宗一郎，髙橋　一宏，山村貴洋，曽我部　進中野　真太郎，小林　良充，寺下　勝巳，小田　寿，宮城島　拓人
胆管金属ステント留置後に生じた遅発性胆管周囲膿瘍に対して超音波内視鏡下ドレナージを施行した１例
第119回日本消化器病学会北海道地方会・第113回日本消化器内視鏡学会北海道地方会
2016.9.3-4　札幌市

松川　敏大，押味　和夫，千葉　雅尋，岡田　耕平，宮城島　拓人
JAK２V617F変異陰性多血症の臨床像
第58回日本血液学会秋季北海道地方会
2016.9.10　旭川市

Masahiro Chiba，Kazuo Oshimi，Toshihiro Matsukawa，Kohei Okada，Takuto Miyagishima.
Recurrent invasive pneumococcal disease in a patient with IgG-Kappa smoldering multiple myeloma.
第78 回日本血液学会学術集会
2016.10.14-15　横浜市

中野　真太郎，小林　良充，松田　宗一郎，山村　貴洋，更科　耕一郎，寺下　勝巳，髙橋　一宏，羽場　真，曽我部　進，小田　寿，宮城島　拓人
無症候性の治癒切除不能大腸癌に対する姑息的手術先行の有用生についての検討
第54回日本癌治療学会学術集会
2016.10.20-22　横浜市

宮城島　拓人，押野　智博，更科　耕一郎，山村　貴洋，松田　宗一郎，千葉　雅尋，中野　真太郎，松川　敏大，小林　良充，寺下　勝巳，髙橋　一宏，羽場　真，曽我部　進，小田　寿，藤盛　真樹，高橋　達郎
ART治療中に症候性多発性骨髄腫を発症し，寛解後にPlasmablastic plasmacytoma（or lymphoma）を口腔領域に発症して腫瘍死した１剖検例
第30回日本エイズ学会学術集会
2016.11.24-26　鹿児島市

神経内科

江口　克紀，津坂　和文，佐々木　秀直
四肢腱反射が保たれ診断に難渋した咽頭頚上型ギラン・バレー症候群の１例
第98回日本神経学会北海道地方会
2016.3.5

江口　克紀，津坂　和文，佐々木　秀直
高齢者に発症したListeria Monocytogenesによる髄膜炎の１例
第99回日本神経学会北海道地方会
2016.9.10

江口　克紀，津坂　和文，佐々木　秀直
短時間に寛解憎悪を繰り返す左動眼神経麻痺をきたした海綿静脈洞部硬膜動脈瘻の１例
第100回日本神経学会北海道地方会
2017.3.4

江口　克紀，津坂　和文，佐々木　秀直
遊走性紅斑の出現なく発症した神経ボレリア症の１例
第100回日本神経学会北海道地方会
2017.3.4

外　科

吉田　祐一，柴田　賢吾，宮岡　陽一，江本　慎，
河合　朋昭，小林　清二，小笠原　和宏
虫垂異物（歯牙）が原因となった急性虫垂炎の１例
第104回北海道外科学会
2016.2.27　札幌市

柴田　賢吾，吉田　祐一，宮岡　陽一，江本　慎，
河合　朋昭，小林　清二，小笠原　和宏，曽我部　進，
宮城島　拓人，石田　雄介，高橋　達郎
審査腹腔鏡で診断した腸アニサキス症の１例
第118回日本消化器病学会北海道支部例会
2016.3.6　札幌市

小笠原　和宏，河合　朋昭，小林　清二，江本　慎，
宮岡　陽一，柴田　賢吾，吉田　祐一，押野　智博
血性乳頭分泌に対する乳管腺葉区域切除の検討
～ ICG蛍光乳管造影の有用性～
第116回日本外科学会定期学術集会
2016.4.15　大阪市

小笠原　和宏，江本　慎，宮岡　陽一
有茎性肝外発育型および通常肝内型が併存した多発肝血管腫の１例
第28回日本肝胆膵外科学会学術総会
2016.6.4　大阪市

佐藤　雅子，高橋　將人，渡邊　健一，富岡　伸元，
山本　貢，小笠原　和宏，山下　啓子，ほか
HER２陽性転移・再発乳がんに対するT-DM１の治療効果と安全性に関する検討
第24回日本乳癌学会学術総会
2016.6.17　東京都

小笠原　和宏，小林　清二，河合　朋昭，江本　慎，
宮岡　陽一，柴田　賢吾，吉田　祐一
当科データベースを用いた消化器癌を含む多重複癌の臨床的検討
第71回日本消化器外科学会総会
2016.7.14　徳島市

谷　道夫，千田　圭悟，江本　慎，河合　朋昭，
小林　清二，小笠原　和宏
乳癌化学療法におけるS-１の使用経験
第14回日本乳癌学会北海道地方会
2016.8.27　札幌市

千田　圭悟，江本　慎，小林　清二，河合　朋昭，
谷　道夫，小笠原　和宏，羽田　光輝，宮城島　拓人
新規経口抗凝固薬（NOAC:nobel oral anticoagulant）内服中に発症した非外傷性横行結腸間膜血腫の１例
第119回日本消化器病学会北海道支部例会
2016.9.3　札幌市

江本　慎，千田　圭悟，谷　道夫，河合　朋昭，
小林　清二，小笠原　和宏
鼠径ヘルニアへの子宮筋腫嵌頓が原因と考えられた鼠径管内膿瘍の１例
第105回北海道外科学会
2016.10.29　札幌市

河合　朋昭，千田　圭悟，谷　道夫，江本　慎，
小林　清二，小笠原　和宏
完全内臓逆位症を伴う盲腸癌に対して腹腔鏡下回盲部切除術を施行した１例
第78回日本臨床外科学会総会
2016.11.26　東京都

千田　圭悟，江本　慎，小林　清二，河合　朋昭，

谷　道夫，小笠原　和宏
Richter型大腿ヘルニア嵌頓に対して小腸切除後，一期的にTAPPを施行した１例
第29回日本内視鏡外科学会総会
2016.12.10　横浜市

谷　道夫，小林　清二，千田　圭悟，江本　慎，河合　朋昭，小笠原　和宏
胃癌と胃神経内分泌癌を同時重複した１例
第110回日本臨床外科学会北海道支部例会
2016.12.3　札幌市

整形外科

小池　良直，亀田　敏明，近藤　英司，藪内　康史，下段　俊，浅野　毅，新井　隆太，入江　徹，高橋　大介，小野寺　智洋，安田　和則，岩崎　倫政
高位脛骨骨切り術における深部静脈血栓症の検討
第130回　北海道整形災害外科学会
2016.2.7　旭川市

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，小野寺　智洋，亀田　敏明，北村　信人，八木　知徳，岩崎　倫政，安田　和則
新しいLocking plate（TriS Medial HTO Plate System）を用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術
第130回北海道整形災害外科学会
2016.2.7　旭川市

筌場　大介，放生　憲博，五十嵐　達弥，渡辺　直也，関口　博丈，江畑　拓
腰椎椎体間固定術後におけるケージ後方移動の危険因子に関する検討
第130回北海道整形災害外科学会
2016.2.7　旭川市

五十嵐　達弥，西池　修
Journey II BCSとJourney II CRの術後短期臨床成績
第130回北海道整形災害外科学会
2016.2.7　旭川市

関口　博丈，五十嵐　達弥，西池　修
M.B.T. revision system の短期成績
第130回北海道整形災害外科学会
2016.2.7　旭川市

江畑　拓，五十嵐　達弥，関口　博丈，筌場　大介，渡辺　直也，放生　憲博
陳旧性アキレス腱断裂に対して遊離ハムストリングス腱移植と腓腹筋筋皮弁を併用して治療した２例
第130回北海道整形災害外科学会
2016.2.7　旭川市

関口　博丈，五十嵐　達弥，西池　修
M.B.T. revision system の短期成績
第46回日本人工関節学会
2016.2.27　大阪市

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，小野寺　智洋，亀田敏明，佐藤　大，甲斐原　拓真，北村　信人，八木　知徳，岩崎　倫政，安田　和則
Locking plateを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の中期成績と合併症
第89回日本整形外科学会学術総会
2016.5.12　横浜市

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，小野寺　智洋，亀田　敏明，佐藤　大，甲斐原　拓真，八木　知徳，岩崎　倫政，安田　和則
TriS Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術の短期成績
第131回北海道整形災害外科学会
2016.6.4　函館市

筌場　大介，放生　憲博
嚥下障害を伴う頚椎前縦靭帯骨化症に対し骨化巣切除にて奏功した１例
第131回北海道整形災害外科学会
2016.6.4　函館市

小池　良直，小野寺　智洋，藪内　康史，亀田　敏明，新井　隆太，近藤　英司，岩崎　倫政
Taylor Spatial Frameを用いて治療した脛腓骨遠位部骨折後変形治癒の１例
131回　北海道整形外科災害外科学会
2016.6.5　函館市

小池　良直，亀田　敏明，近藤　英司，藪内　康史，新井　隆太，小野寺　智洋，安田　和則，岩崎　倫政
高位脛骨骨切り術後における深部静脈血栓症の検討
第８回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
2016.7.28　福岡市

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，小野寺　智洋，

亀田　敏明，佐藤　大，甲斐原　拓真，八木　知徳，
岩崎　倫政，安田　和則
新しいLocking plate（TriS Medial HTO Plate System）
を用いた内側楔状開大式高位脛骨骨切り術
第８回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
2016.7.28　福岡市

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，小野寺　智洋，
亀田　敏明，佐藤　大，甲斐原　拓真，八木　知徳，
岩崎　倫政，安田　和則
内側楔状開大式高位脛骨骨切り術後のスポーツ復帰に
関する検討
第42回日本整形外科スポーツ医学会学術集会
2016.9.16　札幌市

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，八木　知徳，
岩崎　倫政，安田　和則
TriS Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開
大式高位脛骨骨切り術の短期成績
第127回中部整形災害外科学会学術集会
2016.9.30　松本市

小池　良直，亀田　敏明，近藤　英司，小野寺　智洋，
安田　和則，岩崎　倫政
高位脛骨骨切り術における深部静脈血栓症の検討
127回中部日本整形外科災害外科学会
2016.10.1　松本市

藪内　康史，佐藤　大，近藤　英司，小野寺　純，
小野寺　智洋，亀田　敏明，佐藤　大，北村　信人，
八木　知徳，岩崎　倫政，安田　和則
定量的膝外反ストレス撮影による膝内側側副靱帯浅層
の生体力学的評価：内側楔状開大式高位脛骨骨切り術
における検討
第37回日本整形外科学会基礎学術総会
2016.10.13　福岡市

藪内　康史，近藤　英司，小野寺　純，小野寺　智洋，
亀田　敏明，佐藤　大，甲斐原　拓真，北村　信人，
八木　知徳，岩崎　倫政，安田　和則
TriS Medial HTO Plate Systemを用いた内側楔状開
大式高位脛骨骨切り術の短期成績
第44回日本関節病学会
2016.11.11　別府市

校條　祐輔，高畑　雅彦，須藤　英毅，角家　健，
岩田　玲，小甲　晃史，金山　雅弘，放生　憲博，
岩崎　倫政
“Functional”K-lineによる頚椎後縦靭帯骨化症に対
する後方除圧術の効果予測
第131回北海道整形災害外科学会
2016.6.4　函館市

形成外科

小田　陽一郎，池田　正起
感染性粉瘤として切開を受けたPott's puffy tumorの１例
第91回北日本形成外科学会北海道地方会
2016.2.6　札幌市

脳神経外科

井須　豊彦
シンポジウム　-新専門医制度発足にあたって-若手の
脳神経外科医が整形外科医から学んでほしいこと-
第45回日本脊椎脊髄病学会
2016.4.14　千葉市

國保　倫子，金　景成，森本　大二郎，井須　豊彦，
岩本　直高，小林　士郎，森田　明夫
超高齢者の難治性腰痛に対する集約的治療
第29回日本老年脳神経外科学会
2016.4.23　奈良市

森本　大二郎，井須　豊彦，金　景成，千葉　泰弘，
岩本　直高，山崎　和義，磯部　正則，森田　明夫
上殿皮神経障害の外科的治療成績
第31回日本脊髄外科学会
2016.6.9　東京都

松本　順太郎，井須　豊彦，岩本　直高，金　景成，
山内　朋裕，磯部　正則
浅腓骨神経障害に対して神経剥離術が著効した１症例
第31回日本脊髄外科学会
2016.6.9　東京都

菅原　淳，石垣　大哉，井須　豊彦，小笠原　邦昭
腰部脊柱管狭窄症に合併した脊髄硬膜動静脈瘻の治療経
第31回日本脊髄外科学会
2016.6.9　東京都

井須　豊彦，金　景成，岩本　直高，山内　朋裕，
松本　順太郎，森本　大二郎，磯部　正則
シンポジウム　-末梢神経を深めよう-腰下肢痛を呈す

る絞扼性末梢神経疾患に対する治療経験-
第31回日本脊髄外科学会
2016.6.10　東京都

金　景成，井須　豊彦，岩本　直高，山内　明裕，
森本　大二郎，國保　倫子，磯部　正則，小林　士郎，
森田　明夫
シンポジウム　-難治性腰痛に対する新たな外科治療の試み-
第31回日本脊髄外科学会
2016.6.10　東京都

井須　豊彦
シンポジウム　-腰痛治療における医療連携-外科医と鍼灸師との医療連携-
第６回全日本鍼灸学会学術大会北海道大会
2016.6.11　札幌市

金　景成，井須　豊彦，國保　倫子，森本　大二郎，
岩本　直高，小林　士郎，森田　明夫
腰臀部痛に対する低侵襲治療としての１つの治療選択
第６回低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会
016.7.22　東京都

國保　倫子，金　景成，井須　豊彦，森本　大二郎，
野崎　俊樹，小林　士郎，森田　明夫
外側大腿皮神経障害の治療経験
第５回痛みしびれ研究会
2016.6　鹿児島

岩本　直高，井須　豊彦，金　景成，松本　順太郎，
山内　朋裕，千葉　泰弘，森本　大二郎，松野　彰，
磯部　正則
上殿皮神経障害と絞扼性総腓骨神経障害の治療が奏功した腰下肢痛の１例
第27回日本末梢神経学会学術集会
2016.8.26　大阪市

國保　倫子，金　景成，井須　豊彦，岩本　直高，
森本　大二郎，山内　朋裕，小林　士郎，森田　明夫
末梢神経障害治療に主眼をおいた超高齢者の難治性腰下肢痛の治療
第27回日本末梢神経学会学術集会
2016.8.26　大阪市

金　景成，井須　豊彦，岩本　直高，森本　大二郎，
國保　倫子，山内　朋裕，松本　順太郎，磯部　正則，
小林　士郎，森田　明夫
シンポジウム　-腰下肢痛患者に対する上殿皮神経障害の治療-
第23回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会
2016.9.16　札幌市

Kim K, Isu K, Kokubo R, Morimoto D, Iwamoto N, Matsumoto J, Kobayashi S, Morita A.
One option for the treatment of failed back surgery syndrome
ASIA SPINE
2016.9.22　Korea, Seoul

Kokubo R, Kim K, Isu T, Morimoto D, Iwamoto N, Kobayashi S, Morita A
Lumbar peripheral disease treatment for the intractable low back pain of the very elderly patients: 2 case reports.
ASIA SPINE
2016.9.22　Korea, Seoul

Matsumoto J, Isu T, Kim K, Iwamoto N, Chiba Y, Yamauchi Y,Yamazak K, Isobe M
Outcome that focuses on lumbar peripheral disease for the failed back surgery syndrome
ASIA SPINE
2016.9.22　Korea, Seoul

岩本　直高，井須　豊彦，金　景成，松本　順太郎，
山内　朋裕，千葉　泰弘，森本　大二郎，松野　彰，
磯部　正則
絞扼性総腓骨神経障害への上殿皮神経障害合併に関する調査
日本脳神経外科学会第75回学術総会
2016.9.29　福岡市

金　景成，井須　豊彦，國保　倫子，森本　大二郎，
岩本　直高，中嶋　隆夫，小林　士郎，森田　明夫
吸収性スクリューを用いた頸椎後方固定術に関する生体力学的検討
日本脳神経外科学会第75回学術総会
2016.9.29　福岡市

國保　倫子，金　景成，井須　豊彦，岩本　直高，
森本　大二郎，小林　士郎，森田　明夫
超高齢者の難治性腰下肢痛に対する低侵襲治療
日本脳神経外科学会第75回学術総会

2016.9.29　福岡市

松本　順太郎，井須　豊彦，金　景成，岩本　直高，
山内　朋裕，山崎　和義，磯部　正則
腰椎術後の腰下肢痛に対して絞扼性末梢神経障害に注目した治療成績
日本脳神経外科学会第75回学術総会
2016.9.29　福岡市

喜多村　孝雄，森本　大二郎，金　景成，國保　倫子，
五十嵐　豊，築山　敦，
井須　豊彦，森田　明夫
術中peroneus tunnel 内圧測定による腓骨神経の絞扼性末梢神経障害の病態の考察
日本脳神経外科学会第75回学術総会
2016.9.29　福岡市

岩本　直高，井須　豊彦，金　景成，松本　順太郎，
山内　朋裕，千葉　泰弘，森本　大二郎，松野　彰，
磯部　正則
日本脳神経外科学会第75回学術集会
第24回日本腰痛学会
2016.9.2　甲府市

松本　順太郎，井須　豊彦，金　景成，岩本　直高，
山内　朋裕，山崎　和義，磯部　正則
腰椎術後の腰下肢痛に対する腰椎周辺疾患に主眼をおいた治療成績
第24回日本腰痛学会
2016.9.2　甲府市

井須　豊彦
特別講演　−触れてわかる腰下肢痛診療−
第３回痛みしびれを考える会
2016.10.22　札幌市

國保　倫子，金　景成，井須　豊彦，岩本　直高，
森本　大二郎，小林　士郎，森田　明夫
腰部脊柱管狭窄症＋αの症例　〜先生方ならどうされますか？〜
第11回湘南脊髄倶楽部
2016.11　神奈川

國保　倫子，金　景成，井須　豊彦，岩本　直高，
森本　大二郎，小林　士郎，森田　明夫
硬膜外麻酔が一因と思われた脊髄硬膜外血腫の１例
第51回日本脊髄障害医学会
2016.11.10　千葉市

金　景成，井須　豊彦，國保　倫子，森本　大二郎，
岩本　直高，中嶋　隆夫，小林　士郎
吸収性スクリューによる頸椎後方固定術の生体力学的研究
第51回日本脊髄障害医学会
2016.11.10　千葉市

菅原　淳，石垣　大哉，井須　豊彦，小笠原　邦昭
腰部脊柱管狭窄症に合併した脊髄硬膜動静脈瘻の治療経験
第51回日本脊髄障害医学会
2016.11.10　千葉市

金　景成，井須　豊彦，國保　倫子，森本　大二郎，
岩本　直高，小林　士郎，森田　明夫
Failed back surgeryの原因として腓骨神経障害の診断に苦慮した１例
第131回日本脳神経外科学会　関東支部会
2016.12.3　東京都

岩本　直高，井須　豊彦，金　景成，松本　順太郎，
山内　朋裕，千葉　泰弘，森本　大二郎，松野　彰，
磯部　正則
間欠性跛行を呈する絞扼性腓骨神経障害に対する誘発テストの検討
第131回日本脳神経外科学会　関東支部会
2016.12.3　東京都

泌尿器科

村橋　範浩，川代　啓太，押野　智博，渡邊　絢子，
佐々木　芳浩，野々村　克也
当院における腎癌手術症例の検討
第397回日本泌尿器科学会北海道地方会
2016.1.30　札幌市

渡邊　絢子，村橋　範浩，佐々木　芳浩，
野々村　克也
原発巣摘出後再発にもかかわらず無治療観察で長期生存している淡明細胞型腎細胞癌の３例
第104回日本泌尿器科学会総会
2016.4.23-25　仙台市

村橋　範浩，渡邊　絢子，佐々木　芳浩，高橋　達郎，
野々村　克也

当院における前立腺癌の治療成績
第399回日本泌尿器科学会北海道地方会
2016.9.24　旭川市

村橋　範浩，渡邊　絢子，佐々木　芳浩，高橋　達郎，野々村　克也
当院における前立腺癌の治療成績
第81回日本泌尿器科学会東部総会
2016.10.8-10　青森市

歯科口腔外科

大坪　誠治，草野　満男，藤盛　真樹，矢島　優己
頸部リンパ郭清後の乳糜漏検出におけるインドシアニン・グリーン（ICG）蛍光法の応用
第34回日本口腔腫瘍学会，横浜市
2016.1.22　横浜市

藤盛　真樹，矢島　優己，大坪　誠治
釧路・根室医療圏および北海道における病院歯科口腔外科の取り組み
釧路歯科医師会学術大会
2016.2.13　釧路市

藤盛　真樹，矢島　優己，大坪　誠治
カルシペックス®による顎動脈塞栓症の１例
釧路歯科医師会学術大会
2016.2.13　釧路市

大坪　誠治，宮城島　拓人，濱村　千晶，
稲田　頼太郎
ケニア共和国ナイロビ市のスラム地区における無料歯科医療支援の経験
第27回　JAICHOH総会および学術集会
2016.7.3　沖縄市

藤盛　真樹
「歯科診療時の患者急変！あなたならどうする？」～歯科診療時の患者急変とその対応～
第69回　北海道歯科学術大会
2016.8.21　札幌市

藤盛　真樹
デモンストレーション２
「病院訪問診療時に発生した局所麻酔後の心筋梗塞」
第69回　北海道歯科学術大会
2016.8.21　札幌市

Seiji Ohtsubo，Masaki Fujimori，Mitsuo Kusano
Application of ICG Fluorescence Method for Detection of Chylous Fistula after Neck Dissection
The 33rd Congress of the Pan-Pacific Surgical Association
2016.9.10　Hawaii

大坪　誠治
HIV/AIDSに関わる国際医療支援活動
北海道病院歯科医会 第３回例会　学術講演会　特別講演
2016.11.19　札幌市

臨床工学部

櫻庭　直達
第２種装置へのアクセスが困難な地区での第１種装置を持つ医療施設の現状
第51回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会
2016.12.3　東京都

薬剤部

安藤 幸彦，伊藤 由佳子，佐々木 幸博，新井田 敦浩，向井 聡志，小川 洋司
抗菌薬適正使用推進手順の標準化
日本薬学会第136年会
2016.3.27　横浜市

伊藤　由佳子，安藤　幸彦，向井　聡志，小川　洋司，石橋　芳昭
抗菌薬適正使用の推進～細菌室との連携
日本薬学会第136年会
2016.3.27　横浜市

松田　俊之
ワークショップ27
「ゲームで学ぶ，在宅医療における感染予防対策」
第７回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2016.6.12　東京都

矢澤　敏
当院におけるペグフィルグラスチムの使用状況
第26回日本医療薬学会年会
2016.9.18　京都市

松田　俊之

シンポジウム11
「抗がん薬による職業的曝露の現状と問題点」
抗がん薬による職業性曝露対策の変遷と薬剤師の取り組み
第64回日本職業・災害医学会学術大会
2016.10.23　仙台市

写真で見る“ろうさいの一年”

辞令交付式（2016.4.1）

職員研修会　患者接遇（2016.4.27）

職員研修会　患者接遇（2016.4.27）

看護の日（2016.5.14）

職員研修会　医療安全対策研修（2016.6.14）

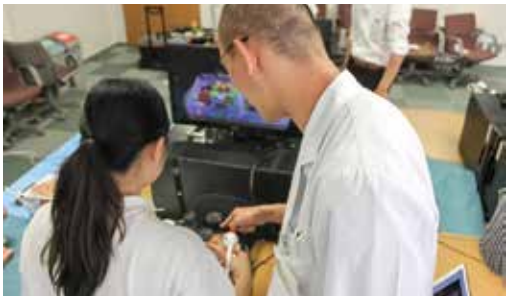
高校生のための医療福祉体験セミナー（2016.8.6）

高校生のための医療福祉体験セミナー（2016.8.6）

高校生のための医療福祉体験セミナー（2016.8.6）

高校生のための医療福祉体験セミナー（2016.8.6）

高校生のための医療福祉体験セミナー（2016.8.6）



高校生のための医療福祉体験セミナー（2016.8.6）

北海盆おどり（2016.8.19）

緩和ケア研修会（2016.9.9-10）

緩和ケア研修会（2016.9.9-10）

師走講演会（2016.12.3）

化学療法センター竣工式（2016.12.10）

市民公開講座（2016.12.17）

市民公開講座（2016.12.17）

防災訓練（2017.3.3）

防災訓練（2017.3.3）

編 集 後 記

2017年11月吉日

平素より当院の事業運営に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、この度「やちぼうず　2016年年報」が完成いたしました。病院誌「やちぼうず」は当院の１年間の診療実績を中心に、各診療科、各部、各委員会の活動を院内外に知っていただくこと、見やすくわかりやすくすることを基本方針とし、作成いたしました。

今号は、巻末に当院の活動の様子をわかりやすく、写真にて掲載しております。ご一読いただけたら幸いです。

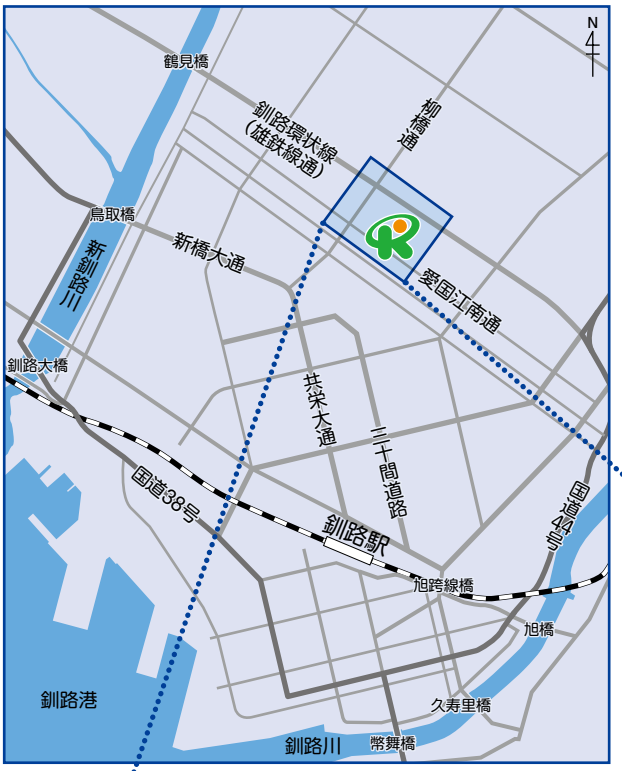
この業績集が自らの業務のふりかえり、また職員間の情報共有を図り、さらには他医療機関から評価をいただくことで、患者さんへ適切な診療の提供を継続する一助となり、さらに当院の発展へ繋げていけることを祈念いたします。編集に際して御多忙の中、関係各所の御協力のもと発行することができましたことに、御礼申し上げます。

この「やちぼうず」を通じて、当院の活動を御理解いただき、より一層の御支援をいただけますようお願い申し上げます。

病院誌「やちぼうず」編集委員会
委員長　　磯　部　正　則

病院誌「やちぼうず」編集委員

磯　部　正　則
吉　野　康　之
小　林　良　充
江　本　　慎
佐々木　育　緒
羽　澤　正　樹
武　田　真　実
田　川　雅　敏
本　間　正　志



独立行政法人 労働者健康安全機構
釧路労災病院

〒085-8533
北海道釧路市中園町13番23号
電　話（0154）22-7191（代表）
ＦＡＸ（0154）25-7308

交通アクセス

■ＪＲで来院される場合
釧路駅より車で15分

■バスで来院される場合
●くしろバス
南北線、労災病院正面玄関横下車
●阿寒バス
新橋大通大曲バス停にて下車
（徒歩10分）

■飛行機で来院される場合
たんちょう釧路空港から
連絡バスにて30分
新橋大通大曲バス停下車
（徒歩10分）

最新の知識と技術に基づき、

良質で信頼される医療を実践します。

独立行政法人 労働者健康安全機構
釧路労災病院

〒085-8533 北海道釧路市中園町13番23号
http://www.kushiroh.johas.go.jp